令和２年度

文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」
ユネスコスクールオンライン近畿地方大会報告書

2021年2月

近畿ＥＳＤコンソーシアム
国立大学法人　奈良教育大学

ごあいさつ

２０２０年はコロナで始まり、これまでの「当たり前」が通用しない一年でした。中止となる企画が続出する中、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会（令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」）を開催できたことは、大変、うれしく、また、励まされることのひとつとなりました。工夫に工夫を凝らし、安心安全を確保した上、コロナ禍においても開催できたことは、その内容とともに後世に残る大きな意義があります。

特に、本大会では「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成を通して、コロナ禍ではあるものの、多くのユネスコスクールの児童生徒の交流を促すことに主眼を置いて取り組みました。コロナ禍で一番難しいと思われていた「交流」がテーマです。先ず、持続可能な社会づくりに関して日ごろから感じている課題や自分の行動について、多くのユネスコスクールの仲間が作文にして送ってくださいました。それをもとに本学のユネスコクラブの学生がキーワードを抽出し、オンラインによる話し合いの準備を整えてくれました。そして、１１月１日・８日・１５日と３回に及ぶ子ども会議の成果として、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」が完成しました。コロナの影響で、教室の中での対話は難しくなりましたが、遠隔地の仲間との ICT を用いた交流は、それが身近な普通の姿となりつつあり、これまで以上に個々の多様な考え方にふれやすくなっていることに気づかれたことだと思います。

子どもフォーラムには、奈良市立都祁小学校（奈良）、奈良教育大学附属中学校（奈良）、神戸市立大沢中学校（兵庫）、京都外大西高等学校（京都）、立命館守山高等学校（滋賀）、関西創価高等学校（大阪）、和歌山県立橋本高等学校（和歌山）と、近畿地方各地から、小・中・高等学校による日ごろの取組み発表があり、コロナ禍でも頑張っている姿に感動しました。そして何よりもうれしかったことは、子どもフォーラムや子ども会議を、本学の学生と大学院生が中心になって担ってくれたことです。本学は大学の三つの柱（大学の特色）のひとつに、「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」を掲げ取り組んできましたが、その成果を感じることができました。

学習指導要領にも「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれました。近畿地方のユネスコスクールでは、持続可能な社会の創り手が確実に育っているという実感を本報告書で共有していただければ幸いです。参加していただいた児童生徒の皆さん、ご指導いただきました先生方、そして大会を支え、参加してくださったみなさまに深く感謝申し上げます。

２０２１年2月

奈良教育大学 学長　加藤　久雄

目　　次

ごあいさつ　・・・・　1

参加者意見交流会のまとめ　・・・・　3

近畿ユネスコスクール子ども宣言　・・・・　4

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会（チラシ）　・・・・　6

子どもフォーラム発表要旨　・・・・　8

　奈良市立都祁小学校

　奈良教育大学附属中学校

　神戸市立大沢中学校

　京都外大附属西高等学校

　立命館守山高等学校

　関西創価高等学校

　和歌山県立橋本高等学校

実践交流会：実践発表・研究発表要旨集　・・・・　２２

ＥＳＤ講演会　・・・・　５３

　「Ｗｉｔｈ　コロナ時代のＥＳＤ・学校教育」

　「ＥＳＤの授業づくり」

　「ユネスコスクール・ＳＤＧｓ／ＥＳＤの推進　ホールスクールアプローチ」

ユネスコスクール近畿地方大会を終えて　・・・・　１０６

2020 年度ユネスコスクールオンライン近畿地方大会【参加者意見交流会のまとめ】

◎ユネスコスクールの現状と課題

１．現状

・ESD に取り組んでいる学校と取り組んでいない学校の差が大きい。学校としての理解度に疑問。

・学校として積極的に取り組むかどうかは、管理職の態度に左右される。

・学校全体で取り組んでいる学校では ESD 担当という校務分掌があり、研修会を開いたり、研修に参加して得た知識や情報を他の教員に伝えたりしている。

・ESD に取り組んでいる教員が限られている。

・学校の先生はまじめな人が多いためか、クラブや授業を完璧にしようとするため、多忙にまた精神的ゆとりがなくなってしまい、新たに ESD に挑戦してみようという人が少ない。

・異動がある中で ESD 実践を継続していくのが難しい。

２．学校のトランスフォームをどう起こすか

・学習指導要領の改訂、SDGｓ、教科書へのＥＳＤの記載など、今がチャンスだ。

・ユネスコスクールの意義を学校が考える（再考する）べきである。

・ユネスコスクールに加盟するメリットが見えにくい。可視化する必要がある。

・ESD に関する教員の意識や知識の差が大きく、関心を高め、実践する教員を増やす必要がある。

・ＮＰＯには課題を持ち寄ってお互いに学びあい、考えあい、共有していく場とコーディネーターが必要だ。学校には地域のＮＰＯをつなぐ役割があるのではないか。

・地域で実践を発信すると、地域がどんなかかわり方をすればよいのかが見えてくる。もっと発信してほしい。

・中学・高校で教科の学びをつなぐのは難しいが重要である。カリキュラム・マネジメントが重要だ。

３．連携・交流について

・小中高の一貫性を見ていく必要があるが、実際には難しい。

・小中の連携は比較的とりやすいが、高校は地域性が薄れてくるため、連携が難しい。

・学校が閉鎖的である。実社会（企業）とのつながりに目を向けてほしい。学校での学びを地域の方に発信していく。学校の役割を 180 度転換し、学校は地域のために何ができるかを考えるべきだろう。

・コロナ禍においては、ネットワークを使った交流はやりやすくなっている。交流をしようという気持ちのある教員が限られている。研究会など様々な機会に自分から出向いて相手を探してほしい。

・異なる視点・立場の方々と交流することが大切だ。

・ユネスコスクールと地域のユネスコ協会がつながっていない。

４．その他

・コロナ禍においては、行動化は難しい面がある。

・評価について、学びの後に活動の場があれば、そこでの行動を評価できるのではないか。

・町自体がＳＤＧｓへの関心が低い。

近畿ユネスコスクール子ども宣言

2020年11月15日

今、私たちが暮らすこの地球は、国や人の対立・格差、生物多様性の損失、気候変動、自然災害の増加、感染症の流行など、様々な課題を抱えています。ユネスコスクールで学ぶ私たちは、これからの社会を担う者として、これらの課題について学びを深めてきました。2015年の国連持続可能な開発サミットで SDGs（持続可能な開発目標）が採択されてから 5年が経ち、テレビや新聞、街中でもよく SDGs のロゴを見かけるようになりました。まさに今、SDGs の達成、持続可能な社会の実現に向けて、ユネスコスクールでの学びの成果が問われています。2020年11月、近畿地方各地の小学校から大学までのユネスコスクールで学ぶ仲間99人がオンラインで集い、近畿地方各地のユネスコスクールから集まった 337枚の作文等をもとに、自分たちの学校・地域・世界が抱える課題、関心のある課題を共有し合い、課題の解決に向けてユネスコスクールの私たちにできることを話し合いました。

私たちは、持続可能な社会づくり、SDGs の達成を目指して、次の5つのことを宣言します。

1.《多様性》

私たちはジェンダー、人種、地域、文化、職業などの違いを認め合いましょう。また、生物多様性を大切にしましょう。

2.《価値観》

私たちは自分自身の考え方・捉え方を見直し、未来のために、今できることを考えましょう。

3.《自分ごと化》

私たちは貧困、飢餓、人権、環境、紛争などの地球的な課題を深く理解し、自分にできることを考え、解決するために行動しましょう。

4.《つながり》

私たちは一人一人の話し合いから始めて、ユネスコスクールの輪をみんなに広げていきましょう。

5.《決意》

私たちは誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間とともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくります。課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。

奈良教育大学附属中学校

終業式の際に、「ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」に参加した生徒からの報告

（1-1 布谷、1-3 本梅、1-4 髙田、3-1 西野、3-2 古賀）

（髙田）

僕たち５名は 11 月８日と 15 日、２日間にわたって「ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」に参加しましたので、その報告をさせていただきます。

11 月８日は、関西創価高校と奈良教育大学ユネスコクラブの方々と、学校・地域・世界について課題だと思っていることを出し合いました。

そして、11 月 15 日には、近畿内のユネスコスクールに通う小学生から高校生までの作文なども参考にしながら、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」をまとめました。

僕たちは話し合いを進めていくなかで、環境・人権・平和といった SDGs のゴールに向けて、

「「知る機会」を自分たちの力で、どうつくるか。」

「どのように行動化を促していくか。」

が問題であることに気づきました。

オンラインでの交流でしたが、小学生から大学生まで、自分の学校以外の人と意見交流ができて、とても刺激を受けました。

今回、参加できなかった附中生の皆さんにも、宣言文を読んでいただいて、共に考えてもらえればと思い、本日、終業式の中で紹介させていただきます。

お手もとの「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を見てください。

（布谷、西野、古賀）「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を読む。

（本梅）

附中では、１・２年生合同の奈良めぐりや、３年生の卒業研究、そしてＥＳＤの授業などがあり、普段からＥＳＤやＳＤＧｓについて考える機会が多くあります。

世界のことを考えると、遠いことだとか、自分には関係のないことだと思っている人も多いと思いますが、わたしたち１人１人が行動していかないと、実現できないことなので、遠いというよりも、意外と近いかもしれません。

まずは、関心を持って、知ることから始め、自分でもできる小さなことからでも、見つけていくことが大切だと思いました。

これで、私たちの報告を終わります。ありがとうございました。

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクール
オンライン近畿地方大会

主 催：文部科学省　日本ユネスコ国内委員会　奈良教育大学　近畿ＥＳＤコンソーシアム
共 催：日本ＥＳＤ学会 第４回 近畿地方研究会実行委員会
後 援：ＥＳＤ活動支援センター　近畿地方ＥＳＤ活動支援センター

プレ大会：11月１日（日）・８日（日） 10時00分～16時30分
本大会　：11月15日（日） ９時30分～16時30分

すべてZoomを使用します。
参加無料！

お申込みは
こちらから→

ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と、授業実践の相互参照による質的向上を図るとともに、次世代の担い手である児童生徒による「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成と、実践者による「ユネスコスクールの現状と課題の整理」を作成し、ユネスコスクール全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催します。みなさんといっしょに学び合いましょう。

内容		11月1日(日)	11月8日(日)
		ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅰ	ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅱ
子ども宣言作成	10:00~12:00	ESD子ども会議Ⅰ	ESD子ども会議Ⅱ
実践交流会	13:00~14:30	実践交流会Ⅰ・ESD研究会Ⅰ	実践交流会Ⅱ
現状と課題の整理	14:30~15:30	参加者意見交流会Ⅰ	参加者意見交流会Ⅱ
ESD講演会	15:30~16:30	「Withコロナ時代のESD・学校教育」 元江東区立八名川小学校長 手島　利夫　氏	「ESDの授業づくり」 奈良教育大学特任准教授 大西　浩明　氏

	11月15日(日)
	ユネスコスクール近畿地方大会
指導・助言 文部科学省　国際統括官付　国際戦略企画官 日本ユネスコ国内委員会事務局次長 石田　善顕　氏	
9:30~11:00	ユネスコスクール子どもフォーラム
11:00~12:30	子ども宣言の作成
13:00~14:30	実践交流会Ⅲ・ESD研究会Ⅱ
14:30~15:30	参加者意見交流会Ⅲ
15:30~16:30	「ホールスクールアプローチ」 大牟田市教育長　安田　昌則　氏

○ ユネスコスクール子どもフォーラム
各校における取り組みをまとめた動画を視聴し、参加した児童生徒が意見を交換します。

○ 子ども宣言作成
プレ大会の子ども会議で明らかになった現状や課題をもとに、持続可能な社会のために今後どのように行動していくかについて「子ども宣言」を作成します。

○ 実践交流会・ESD研究会
3つの分科会に分かれて、3日間で計24本の実践・研究発表があります。

○ 参加者意見交流会
実践交流会・ESD研究会の分科会ごとに、参加者相互でユネスコスクールの現状と課題について話し合います。

○ ESD講演会
ESDについて最新のお話をうかがえます。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Member of UNESCO Associated Schools
奈良教育大学 Nara University of Education

ユネスコスクール子どもフォーラム参加校

奈良市立都祁小学校（奈良）　奈良教育大学附属中学校（奈良）
神戸市立大沢中学校（兵庫）　京都外大西高等学校（京都）
立命館守山高等学校（滋賀）　関西創価高等学校（大阪）
和歌山県立橋本高等学校（和歌山）

奈良教育大学
なっきょん

実践発表者

	時間	第1分科会	第2分科会	ESD研究会
11月1日（日）	1）13:00～13:30	地域文化を探究する学習 小学校3学年総合的な学習の時間 ー「金魚のまち大和郡山」を事例にー 大牟田市立吉野小学校 島　俊彦	学校と森と水の源流と近畿ESDコンソーシアムのプラットホームでつくるESD遠足の実践 奈良市立平城小学校 新宮　済	地域資源を活用した学びの実現に向けて ～学校と地域が連携する有効性～ 近畿環境パートナーシップオフィス 中澤　敦子
	2）13:30～14:00	ともに学ぶ　応其小学校　～大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！～ 橋本市立応其小学校 辻脇　昌義	水から(自ら)広げる豊かな学び 箕面こどもの森学園 (NPO法人コクレオの森) 佐野　純	コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組 奈良ユネスコ協会 松浦　慎
	3）14:00～14:30	大沢中学校の取組 神戸市立大沢中学校 小畑　幸一	平和学習　奈良に帰ってきた三角定規 ーまみいちPEACEプロジェクトー 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前　拓也	フィリピン残留日本人を通してSDGs16を考える 奈良教育大学 太田　満
11月8日（日）	1）13:00～13:30	パラスポーツって何だろう 奈良市立飛鳥小学校 圓山　裕史	これは使える！　フォトチャット 奈良教育大学附属幼稚園 鎌田　大雅	
	2）13:30～14:00	学校統合に関わる課題について ～ユネスコスクールの継続に向けて～ 大阪市立御幸森小学校 高尾　祐彦	ESDの視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造 名張市立蔵持小学校 森　恭一	
	3）14:00～14:30	高時のオオサンショウウオを守るために ー ESDの視点をふまえた学習指導 ー 長浜市立高時小学校 足立　康輔	大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動 エリーニ・ユネスコ協会 富澤　裕美子	
11月15日（日）	1）13:00～13:30	生物多様性について考えよう ～小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～ 平群町立平群北小学校 中澤　哲也	探究活動促進のための教員データベース作成 ー立命館守山高校　共創探究科の実践ー 立命館守山高等学校 水谷　深志	ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチング ーネットを使った社会人向け実践報告ー 地域連携プラットフォーム/ESD-J 長岡　素彦
	2）13:30～14:00	春日山をシカが喰う～鹿害から春日山を考えるESD実践 奈良教育大学附属中学校 山本　浩大	関西創価高校の世界市民教育 関西創価高等学校 大月　昇	使命感と成就感を大切にした国語科×総合の教材開発 橋本市立あやの台小学校 中谷　栄作
	3）14:00～14:30	コロナ禍における災害復興支援の可能性 ーネスコスクールの繋がりを活かしてー 奈良教育大学ユネスコクラブ 狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤こころ	ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGSについて 和歌山県立橋本高等学校 中嶋　浩晶	概念変化に伴う価値観の変容 大分大学 河野　晋也

- **ユネスコスクール以外の方や一般の方でも参加できます。1日のみ、半日のみでも構いません。**
- **お申し込みは、下記QRコード、または、下記近畿ESDコンソーシアムのホームページの申込フォームからお願いします。**

https://kinkiesd.xsrv.jp/

- **申込みいただいた方に、Zoomに参加するURL・ミーティングID・パスワードをお知らせします。**

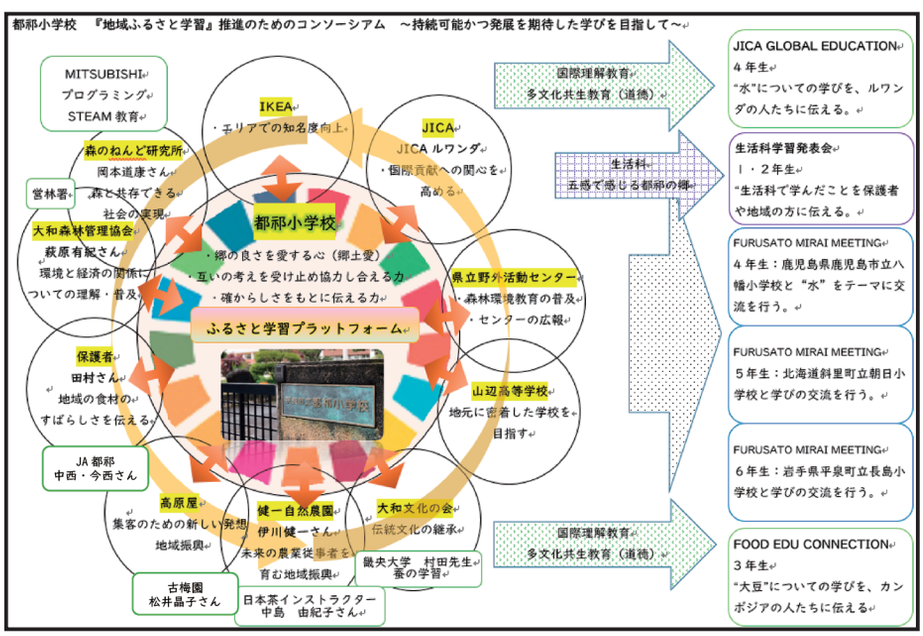
お問い合わせ：奈良教育大学教育研究支援課　ＥＳＤ事務担当 藤原・西田　Tel：0742(27)9367　Mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

奈良市立都祁小学校発表要旨

【素敵いっぱい都祁の郷】

地域のある宝物はそこに生まれ育った子どもにとっては当たり前すぎて見えていない。視点を変えることで見えてくる「都祁の郷の宝物」。まず、教師自らが積極的に外の人たちとの打ち合わせを重ね、学びのプラットフォームを形成し、学びの方向性をそろえる。

図１．都祁小学校「地域ふるさと学習」推進のためのコンソーシアム



第４学年の総合的な学習の時間　「都祁であそぼ」

遊びとは子どもが集中するものである。夢中になって取り組むものであることから、都祁の郷に関する疑問を見出させ、その答えを夢中になって探究する学びを創造する。

都祁の郷の宝物のひとつである「水」に焦点をあてた取り組みを開始する。

（１）都祁水分神社（農耕神として、大和川、木津川の水源の神として祀られている）訪問

本殿は室町時代に造られた檜皮葺の社殿で国の重要文化財に指定されている。そのような都祁の人たちにとって、昔から大切にされてきた有名な神社でも、机上で学ぶだけでは単なる「知識」に過ぎない。まずはその場に足を運んで、五感で感じることを大切にする。

水分神社を訪問したことで子どもたちの「水」への関心を高める。

子どもにとって水は当たり前にあるもので、関心をもつのが難しい。そこで、源流の水と水道の水の飲み比べをする。「源流の水の方がおいしい」ような気がする。

源流の水の方が冷たい。匂いがまったくない。透明、透き通ってる。

その理由を考える。

・都祁は森が多いから、きれいな水が出てくるのでは。

・都祁の水は水分神社に守られているから特別なのでは。

→昔から森を大切にしていたからいい水が出る。

この段階では「感覚」に過ぎないため、科学的な実験を行って確かめる。

①水源地で水の温度を測る。　　１２～１４度だった。これは美味しい水の温度だ。

②学研のキットを使用し、水源地の水と販売されている日本のミネラルウォーターと外国のミネラルウォーター、水道水の４つを比較する。

都祁の水源地の水は、残留塩素が０だった。

PH は 6.5 で若干酸性だった。

◎水をテーマに世界遺産学習全国サミットで知り合った屋久島町立八幡小学校と ZOOM を用いて交流する。

互いの町で大切にしているものを紹介しあうことで、あらためて都祁の水の大切さを実感する。

（２）世界の水事情を学ぶ

JICA と連携し、ルワンダ共和国で活動する水の専門家と ZOOM を用いて、ルワンダの水使用の現状を聞き取る。

・都市部と地方では水使用の条件が異なっている。

・自分たちと同じくらいの子どもたちが水汲みを行っている。

・家に水道がなく、水売りから水を買っている。

・掃除に使う水などは、雨水をためて使っている。

→　水が原因で数多くの争いが発生していることを知る。

→　平和のために自分たちにできることを考える。

（３）都祁の水とルワンダの平和（水争いのない）をつなげて考える。

「都祁の郷の水源地の水で、地域の方にお茶を売り、その利益をルワンダに送ろう」

①地域で大和茶を栽培する方と出会い、その思いに触れる。「お茶を通してみんなを幸せにしたい。」その思いを大切にするために、都祁の水に合う茶葉の選定に挑戦する。

参観日に「都祁ティーカフェ」を開き、地域の方に販売し、利益をルワンダの平和に役立ててもらえるよう、JICA を通じて送る。そして、ルワンダの子どもに「平和」についてのイメージをたずねる。

・安全であること

・幸せであること

・みんなで分け合うこと

・みんなと協力すること

・笑顔でいること

・友達

→　当たり前すぎて考えたこともなかった【平和】について考え、自分たちにできることを考えるきっかけに。

奈良教育大学附属中学校発表要旨

「ＥＳＤの教科化を目指して　～４．質の高い教育をみんなに～」

発表者：奈良教育大学附属中学校　３年　西野　心咲

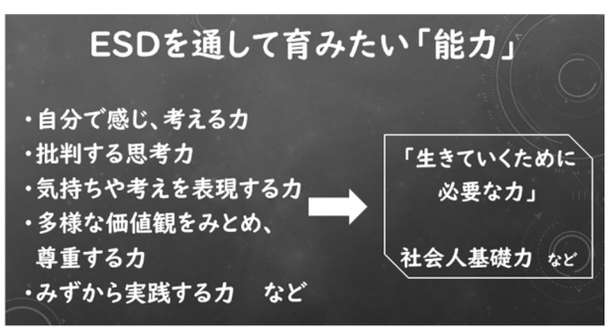
【発表要旨】

私が世界で一番大切だと思っているもの、それは教育です。

私がＳＤＧｓの中で特に重要だと思っているものも、４つ目の「質の高い教育をみんなに」です。「2030年までにすべての人々が平等に適切かつ効果的な教育を受けられるようにする。」ということで、なぜ、教育が一番重要だと思うかというと、これは、人の考えや気持ちを大きく左右させるものだからです。一生にわたり関わっているものなので、人の価値観を大きく変えます。

次に、私たちが生きる現代社会についてです。地球温暖化、生態系の危機、自然災害、原子力・核・放射能、紛争など、多くの問題がある一方で、科学の進歩、女性の社会進出、医療の発展など、いろいろなことが進化し続けている。つまり、良くもあり、悪くもある社会に住んでいます。

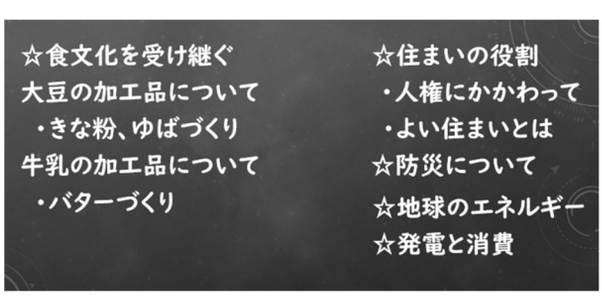
私たちはこのような世界で、日本で、学校で、もっと絞るなら家族の一員として、何をしなければならないのか。未来を創る一人として、何を知らないといけないのでしょうか。



ＥＳＤを通して育みたい能力の中には、気持ちや考えを表現する力、みずから実践する力というものがあります。これらは特に学生が大きくなるにつれ、苦手になってくるものだと思います。しかしこれらを含めた力は「生きていくために必要な力」だと思います。

今回の私のテーマでもありますが、なぜＥＳＤを教科化したほうがいいと思うのか。それは、ＥＳＤを通すことで、先ほどの生きるために必要な力を育めるし、地球上に生きる「人間」という一種の生物として知っておかなければならないもの、また、一人の人間として知っておくべきものが学べるのではないか、と思うからです。しかし、卒業研究でのアンケートでは多くの人がそもそもＥＳＤというものを知らない、聞いたことがないと答えました。

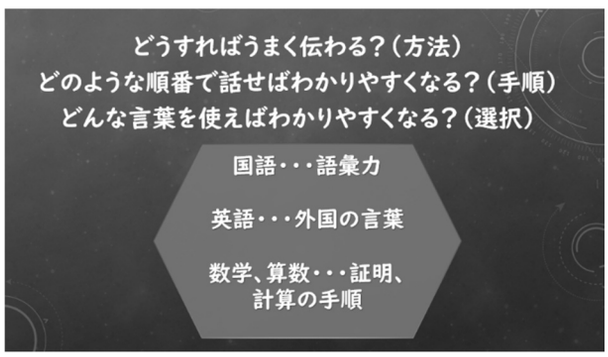
人、教わること、教わる環境、過ごす環境によって、考えや価値観や知識は変わってきます。話し合いの必要な状況で、自分の考えを、考えも価値観も違う相手が理解できるように伝えなければなりません。そのためには、まずこれを多くの人に知ってもらわないと意味がないと思いました。



私の学校では１・２年生は２週間に１回ＥＳＤの授業があります。そこで習ってきたものが右に示したようなことです。生きていく上で欠かせないものについて深く学んできました。

また、別の例として、1945年の原子爆弾。小学校での広島修学旅行では、落とされた日本側の考えしか習いませんでした。一方、中学校の長崎修学旅行では、落としたほうのアメリカの「これ以上人々が死なな

いようにできた」という意見を知りました。アメリカの意見に対して、日本は落とされたほうなので原子爆弾を落としたことを肯定するようなその言い方がわからない。もちろんアメリカの人も原子爆弾はだめだと知っている。原子爆弾が落ちた太平洋戦争は日本が始めたこと。日本は、被害者でもあり加害者でもあることを基にＥＳＤを意識しながら平和学習を深めていきました。



生まれたところも違う、言語も違う、考え方も違う、そんな状態で相手に伝わるように話さなければならない。なら、どうすればうまく伝わる？どのような順番で話せばわかりやすくなる？どんな言葉を使えばわかりやすくなる？

これらの問題は、国語での語彙力。英語での外国の言葉。数学、算数での証明や、計算の手順を学んだことが生かされてくるのではないかと思います。ほかにも理科・社会・音楽など、教科化されているものは生きるために必要な力を育む教育をしています。

私たちは学んでいることが将来何の役に立つのかわからないとよく言いますが、日ごろから、無意識のうちに「勉強」というもので得たことを活用しているのだと思います。私は卒業研究でＥＳＤカレンダーというものを作って、このことに気づきました。

結論として、質の高い教育は必要であるが、それに気づいていない人が世の中にはたくさんいます。また、未来のことだけでなく、今のことも考える持続可能な社会を意識するＥＳＤやＳＤＧｓも必要で、まずそれを多くの人に伝えるべきだ、ということです。

世界中の人々がしっかりした教育を受けられるようにするため、世界中の人々が恐れることなく幸せに生きるため、いまだに誰も見たことがない世界、定義のわからないものだけど、きっときれいで素晴らしいだろう平和な世界にするため、ほかの国がしているから、日本もやってみよう。ではなく、日本から、私たちから始めて世界へ発信していかなければ、口で言っているだけで何も始まらないと思います。そのためにはＥＳＤを国語などと同じように教科化すべきだと思います。ご清聴ありがとうございました。

【質疑応答】

Ｑ）教科化しようとするなら、新たにお金や建物が必要になるのでは？（小学生からの質問）

Ａ）世界中の人々がＥＳＤやＳＤＧｓに関心を持ってもらえたら、寄付が集まると思います。（西野）

Ｑ）ＥＳＤをどうやって広めていけばよいのか？（高校生からの質問）

Ａ）ニュースなどでＥＳＤやＳＤＧｓをとりあげたりしたり、各学校で周知してもらうと、より多くの人に知ってもらえると思います。（西野）

【講評】（財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ＡＣＣＵ）　柴尾 智子様）

西野さんの発表は個人の発表でしたが、驚いたことは、こんなに若いのに、今、自分が受けている教育が、どういうことで、それに、どんなインパクトがあるのかを、俯瞰（ふかん）しながら教育を受けているということです。この学校にはこんな生徒が在籍しているということは、そこで行われている教育ってどんな教育なのかと、関心を持ちました。

いわゆる「メタ認知」ができているということに驚きました。

神戸市立大沢（おおぞう）中学校　発表要旨
「大沢を守ろう」

■学校について

神戸市立大沢（おおぞう）中学校は、神戸市北区田園地帯にある小さな学校。幼稚園、小学校、中学校、児童館が同じ敷地にある。学校活動に対する地域からの支援を受けながら活動している。

■大沢（おおぞう）中学校の取組

○農業体験

きゅうりのコンパニオンプランツ栽培やさつまいもの栽培を実施。収穫や食べる体験などを通じて、自分たちで作った野菜の美味しさや、食べ物の大切さを学んだ。また、地域で栽培が盛んな観賞用の菊作りを、地域の児童館の先生に教わり、挿木による菊栽培を体験した。
また、花壇でひまわりを育て、「みんなのひまわりハートプロジェクト*」に応募した。

> **ひまわりハートプロジェクト*
> *「“みんな”のひまわり Heart! Project」は、兵庫県内の大学生らで組織する「１１７ＫＯＢＥぼうさい委員会」（事務局・神戸新聞社）が主催するプロジェクト。収穫したひまわりの種をあつめ、“食用ひまわり油と”して販売し、その収益とプロジェクト協賛金の一部を熊本地震などの被災地へ寄付している。*

○里山保全活動

校区にある「神付・産土の森」で行われている里山再生・保全の取り組みに参加。森を元気にする話を聞いたり、木や竹を伐る活動に参加。身近な環境を守ることで災害を防ぐことにもつなげていきたいと考えている。

○魚のさばき方教室

明石の漁業協同組合の方から、魚のさばき方や焼き方を学んだ。新鮮な鯵を塩焼きにして食べ、命のありがたさを学んだ。

○平和学習

平和学習として、戦没者の遺族から話を伺った。遺品などを見せてもらいながら話を聞き、戦争を起こしてはならないと思った。

○保育実習

児童館で幼児を対象のクリスマス会をおこなった。小さな子どもたちとの関わり方や話し方を学んだ。皆が喜んでいて嬉しかった。

○SDGs を知る

SDGs のことを全校生徒に知ってもらうため、自分たちで調べて発表を行った。発表は緊張したが、理解してもらえた時には達成感があった。

○「トライやる・アクション」

９月に２日間の日程で、地域の防災について学んだ。初日は、「防災の基本」と「水害」について講義を受けた後、地域の災害ポイントについて、大沢(おおぞう)町防災コミュニティーの方にも参加してもらい事前学習を実施した。

２日目は、地域の四つのエリアに分かれてフィールドワークを実施。災害発生の現場やハザードマップに載っていない危険箇所や地域で行っている対策等について学んだ。災害の発生を完全に抑えることは不可能であり、災害と共存するという考え方も知った。災害を身近に考える機会となった。

最後に「トライやる・アクション」で学んだことを各班で整理しまとめた上で発表会を実施した。限られた時間でまとめる必要があるため、協力して実施した。互いの発表を聞き合う中で、災害への意識や、災害からの復興に多くの資金が必要になることを学んだ。

○「大沢(おおぞう)を守ろう」の発行

「トライやる・アクション」で学び、災害への意識啓発が必要であると感じたので、各班で学んだことを「大沢(おおぞう)を守ろう」にまとめて発行した。

○今後の活動「地域の方々と交流をもとう」

「地域の方々と交流をもとう」をテーマに、次の活動に取り組んでいきたいと考えている。

・ボランティア活動に積極的に取り組む
　（農作業：田植え、清掃：草刈り）
・大沢(おおぞう)めぐりのツアーをつくる！
　（収穫体験・BBQ）
・地域の人とふれあう（児童館と老人会）
・アライグマの被害削減大作戦

地域のために、地球のために取り組みたい。

京都外大西高等学校発表要旨
ユネスコスクールの活動

■学校について

京都外大西高等学校は、京都外国大学に併設する共学の高校。
建学精神は「PAX MUNDI PER LIGUAS -言語を通して世界の平和を-」

■国際文化コースについて

1989 年に創設され、現在 9 人のネイティブの教師による内容重視のテーマ学習と部分的英語イマージェンを取り入れている。最近のカリキュラムでは、SDGs に関連して貧困、性別、環境、文化理解などを中心に学習している。

■京都外大西高等学校の取組

1.関西模擬国連大会

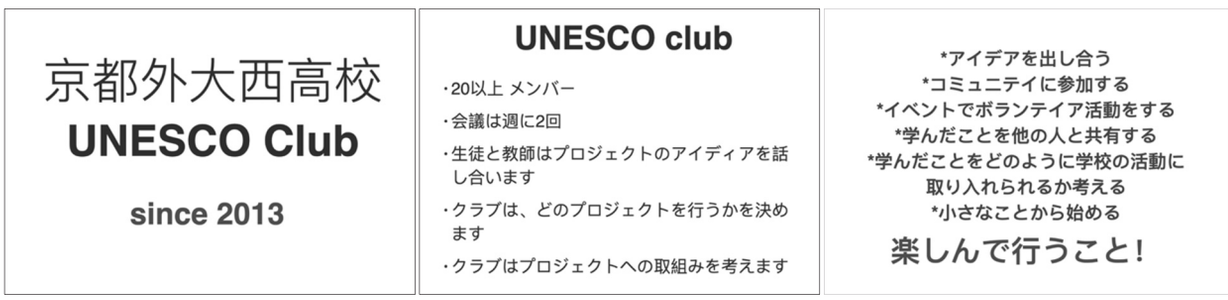
関西模擬国連大会は、京都外大西高等学校を中心に京都国際会館で 3 日間に亘って開催される英語のイベント。京都、奈良、大阪、岡山、計 12 の高校から 250 名以上の生徒が、学校のカリキュラムとしてまたクラブ活動の一環として参加している。生徒は、約 4 人ずつで国を代表し、国連の総会、各委員会、安全保障理事会の諸活動をシミュレーションする。参加する生徒は国連加盟国の代表の役も演じる。代表している国の立場や政策目標を設定できるようになるために、務める国の歴史・文化・外交政策などを調査・研究し、プレゼンテーション、討論、交渉を通して問題解決を目指す。2020 年は、廃棄物の社会的影響をテーマにオンラインで開催した。

<u>〇模擬国連大会に向けた学校での取組</u>
クラス内では、模擬国連に向けて週に 4 時間、国別に分かれ、それぞれの国の政治や文化、問題などを調べ、それらをクラス内で共有しました。また、終盤ではクラスを二つのグループに分け本番にできるだけ近い形で練習できるようにした。
<u>〇模擬国連大会の流れ</u>
ブロックミーティングでは、コミッションごとにそれぞれの国が出したアメンドメント（修正案）を 15 またはそれ以下のグループに分ける。各グループの意見を踏まえた話し合いを進め、総会で使うドラフトレゾリューション（決議草案）をつくる。その後、総会では、既に紹介されたアメンドメントをもとに、各国代表がスピーチを行い、それぞれ質疑応答や修正案を提案する。会議の最後に、出されたアメンドメントと全てのドラフトレゾリューションに対して賛成か反対かの投票が行われ一定基準を満たすと可決となる。

○2020 年の模擬国連大会はオンラインに

新型コロナの影響で、2020 年はオンラインでの模擬国連となった。2 ヶ月間という長期間にわたる実施であったが、オンラインのツールを活用して交流を深め、オンラインの壁を越え、草案の可決まで至ることができた。

2.ユネスコ部の活動



概要：2013 年設立。20 名以上のメンバーで構成。週 2 回昼休みに会議を開催。生徒と教師でプロジェクトのアイデアを話し合い、クラブはどのプロジェクトを行うかを決定し、取り組み内容を検討していく。

活動のモットーは以下の通り

・アイデアを出し合う
・コミュニティに参加する
・イベントでボランティア活動をする
・学んだことを他の人と共有する
・学んだことをどのように学校の活動に取り入れられるか考える。
・小さなことから始める
・楽しんで行うこと。

○祇園祭で行われているゴミゼロ活動に参加

祇園祭で行われているゴミゼロ活動に参加している。活動は大学生を中心に社会人なども多く参加している。ゴミゼロ活動では、リユース食器の導入や、ゴミ拾い、ゴミの分別啓発などを行なっている。

・　大学生や社会人のボランティアとの交流や来場者からの感謝の言葉が嬉しい。
・　ボランティアをしているからこそ、ゴミの量に気がつくことができ分別等への意識が高まった。

○文化祭でのリユース食器の活用

祇園祭でのボランティア活動への参加をきっかけに、自校の文化祭でもリユース食器の導入ができないかと検討、生徒会へ提案し承認を受け、学校アセンブリで全校にメリットを提示した。その結果、2015 年より、文化祭でのリユース食器の導入とエコステーションの設置を実施した。

使用した食器はクラブのメンバーで協力し洗浄、ゴミの分別も手分けして行なった。

立命館守山高等学校発表要旨

「アプリの開発　―世界中の学校をつなげるアプリ　World School―」

SDGs などの国際問題を解決するためには、様々な人と意見を共有し合うことが大切である。その場がユネスコスクールであるはずである。しかし、海外の学校との交流は、ユネスコスクールの 20%あまりにとどまっている。海外との交流がなかなか進まない理由は、交流するための時間や人手が足りないというものが圧倒的に多いのが現状である。また、ユネスコスクール公式ウェブサイトにも、「交流相手校が見つかるまで数か月以上お時間をいただく場合もあります。」と掲載されている。つまり、時間と労力がかかってしまうのである。立命館守山高校にはグローバルコースというものがあり、自分たちも海外の学校や仲間との学びに希望を抱いて入学したものの、コロナ禍によってそれが崩れ落ちようとしている。

そこで、私たちが開発したのが「World School」というマッチングアプリである。このアプリの特徴は、国内・海外問わず学校と学校を容易につなぐことができ、直接相手校とやり取りができることである。つまり、ダイレクトにやり取りができるため、やりたいイベントや交流が必ずできるのである。世界中の学校にイベントや授業の募集をかけたり、それに参加したりすることができる。一番のポイントは、掲示板に書き込み、閲覧ができる「掲示板システム」である。時間と労力をかけずに、募集校と参加校をはっきりさせることができる。募集をする学校は、掲示板システムに募集要項を掲示し、それを見て参加したい学校が参加希望を書き込むことでマッチングが成立するというシステムである。さらに、この掲示板システムは、国・地域別に分かれていて、翻訳機も搭載されているので世界中から参加することが可能である。このシステムを活用することによって、目的に合った授業が容易にできる。また、授業だけでなく、プレゼンバトル、数学バトル、主張大会のような世界規模の大会の企画・実施も可能である。この「World School」についてアンケートをとったところ、約 75%の先生が「興味あり」、約 70%の生徒が「興味あり」と回答してくれた。

今、ユネスコスクールに求められていることは、SDGs の解決に向けた児童・生徒一人一人の探究心であると思う。「World School」を活用して世界とつながることで、様々な人と交流できたり、世界の現

状を身近に感じたりすることができ、それによって一人一人が探究心をもって主体的に活動することが期待できる。そして、探究した内容を仲間とともに発信し合い、互いの考えを交流することは大きな学びとなるはずである。

学校は何かを教えてもらう場ではなく、仲間とともに何かを創造する場である。それを支えるのが、ユネスコスクールであり、この「World School」である。両者がうまく共存していけば、きっとすばらしい未来が待っているのではないかと思う。世界中の学生が、お金をかけず、場所を選ばず、直接意見交換ができるのである。このことで、自国をはじめ他国の文化・価値観に気付き、社会の答えを生み出すきっかけとなる。私たちが目指しているのは、最適解を見出し、持続可能な社会をつくることである。よって、この取り組みは SDGs の目標達成に大きく関わると思っている。私たちがまず世界の現状を知り、興味を持ち、意見交換をすることである。誰も置き去りにしないためにも、「World School」を通して、私たち学生が点と点から線となって、世界中の学校が結ばれることが大切である。しかしながら、私たちには技術と資金が不足しているため、まだまだアイデアにとどまっている。どうか一緒に開発していただきたいと思う。

関西創価高等学校発表要旨

関西創価高等学校では、世界市民となるための教育理念に基づく教育を推進

関西創価高等学校が目指す世界市民教育とは、ユネスコスクールとして、SDGS をはじめとする地球的な課題について探求し世界に貢献することである。

（1）個人や班で取り組んでいること

・リサイクルとして、使い捨てコンタクトレンズのケース回収、ユニクロの医療支援のための不要服回収への参加

・学校の池の外来魚を釣り餌にすること

・ホタルの飼育を通しての環境保全・地域交流

（2）学校全体で取り組んでいること

グローバルリーダーとしての使命感・探究心・共感力育成のため、問題解決への創造力を育成～

○探究型総合学習（GRIT）

1 年次：SDGS を軸としたアクティブラーニング

2 年次：研究した分野のポスターセッション

3 年次：学年模擬国連の開催・・・4 ～ 5 人のグループで合意形成力育成を目指す。

《模擬国連の課題》

2016 年　飢餓の収束に向けた農業分野での国際協力

2017 年　ゼロハンガーを目指す食料流通システムの構築

2018 年　安全で安価な飲料水の普遍的かつ公平なアクセス

2019 年　貧困により教育を受けられないすべての子供への公平かつ質の高い初等教育の実現

○グローバルシティズンシップセミナー、UP クラス、国内フィールドワーク・海外フィールドワークで、SDGS について学ぶ。
東京フィールドワークで探究したアムネスティ・インターナショナルの活動に賛同し、学校全体で不要本の回収活動を実施。

○少人数ラーニングクラスターでは、地球的課題（環境・開発・人権・平和）について英語で探究し、最終的には「高校生平和宣言」を作成する。また、高校生平和大使として、核兵器廃絶問題に関する国際会議「クリティカルスイス会議」に出席するなど、ESD に関する国際プログラムに参加し、持続的な世界実現のために提言・発言。

○2020 年は、「マイ SDGS」に取り組んでいる。一人一人が地球的課題を自分事として捉え、SDGS 達成のために取り組んでいく。

和歌山県立橋本高等学校発表要旨

「高齢者の居場所づくり」　総合的な探究の時間＜地域福祉＞での取り組み

発表者　　坂井里宇、茨木百香、赤井希光、下田朋花、平内唯希

◇テーマ設定の理由【橋本市が抱えている問題】

・少子高齢化の深刻化→医療費の増大　　・高齢者の集う場所が足りない（交流の場の需要増大）

・空き家が多い　　・コミュニティバスなど、高齢者の交通手段が少ない

・橋本市の資金不足がない

これらの問題を解決するために…

空き家カフェを開き、高齢者の居場所を作ろう！

・現在増えている空き家の有効活用

・高齢者の居場所、高齢者の雇用創出

・医療費削減にもつながるのではないか

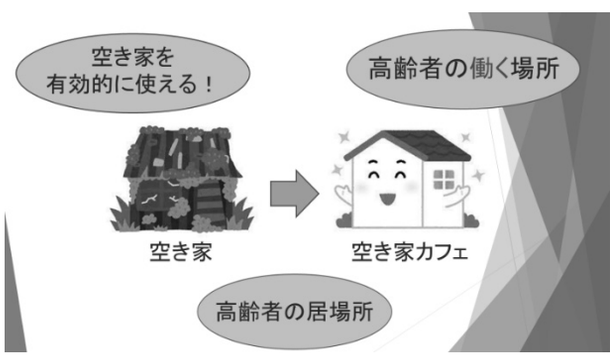
（現状）話し相手のいない高齢者

→　同年代の会話を目的に病院に通う傾向

→　医療費が必要以上にかかる

⇒　会話の場を設けることで、医療費削減につながる

→　橋本市の資金が増える



◇地域住民への聞き取り

古佐田区長（学校の所在地）　「こんな計画を待っていた！」と喜んでくださった

＜住民対象のアンケート＞

Q.　地域のグループ活動等に参加したいか

→　**参加したくない 141 人**、すでに参加している 65 人、参加してもよい 59 人、ぜひ参加したい 1 人

↓したくないが過半数

（理由）　・知り合いがいない 19 人　・輪ができていて話しづらい 13 人　・仕事をしている 49 人

・**移動手段がない 32 人**　　・その他 54 人

（住民の声）

「交通の手段がなく、場所が遠いため参加したくてもできない」

「一人暮らしなので話し合う機会・場所が月 1 回でもあればいいのに」

「歩いて出かけるのがしんどくて辛い。近くの保育園跡を借りて集いの場所を設け、近隣の方々とのゲームやおしゃべりの場が欲しい」

↓

空き家カフェの立地条件：通いやすい場所　徒歩で行ける近い場所　→　その条件に合う空き家はない

⇒　空き家カフェでは、私たちの目的である高齢者の居場所作りは実現できない

◇計画の修正

「空き家カフェ」→「**憩いのカフェ**」に たくさんの人に立ち寄ってもらう、交流してもらえる場所に

場所：　旧橋本東保育園　or　カトリック教会の裏　（区長からの提案）

・住民にとって通いやすい場所である　・生徒にとっても学校帰りに立ち寄りやすい場所

従業員：　主に高齢者を募集（高齢者の雇用創出）

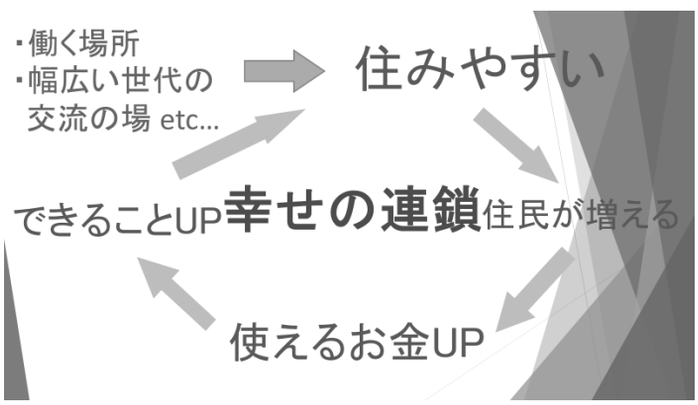
経営者：　計画採用後、募集

〇日中：高齢者の居場所　〇夕方：学生が立ち寄る場所　〇夜：こども食堂　として運営

「憩いのカフェプラットフォーム化」の実現を目指す

・高齢者の居場所
・伝統を引き継ぐ場
・世代交流の場
・イベントの開催
・高齢者の働く場所
・子ども食堂

ばらばらに考えられてきた地域の課題を
「憩いのカフェ」を拠点に解決したい



⇒「憩いのカフェプラットフォーム化」を実現することで、『幸せの連鎖』を生み出す

◇計画実現のために

橋本市の補助金制度「橋本市創業促進事業補助金」

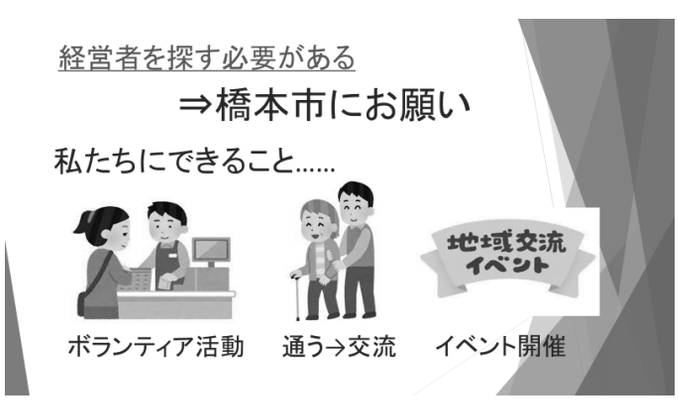
…この計画に加え、経営者がいること、営利目的で経営すること　→　対象になり得る（市の回答）

経営者を捜す必要がある　→　市に依頼

◇計画が実現したら、私たちにできること

・店でのボランティア活動
・憩いのカフェに通い、幅広い世代の交流を生むこと
・夏祭り、部活動の演奏などのイベント開催

⇒　橋本市に『幸せの連鎖』を起こします！



ユネスコスクール　オンライン近畿地方大会

日本 ESD 学会第 4 回近畿地方研究会

実践発表･研究発表要旨集

2020 年 11 月 1 日（日）･ 8 日（日）･ 15 日（日）

主催：文部科学省　　日本ユネスコ国内委員会

奈良教育大学　　近畿 ESD コンソーシアム

日本 ESD 学会第 4 回近畿地方研究会実行委員会

実践発表Ⅰ・ESD 研究発表Ⅰ

11 月 1 日（日）13 時 00 分～14 時 30 分

◆第 1 分科会

指導助言：朴　恵淑（三重大学）

司会：大西　浩明（奈良教育大学）

1）地域文化を探究する学習

小学校 3 学年総合的な学習の時間　－「金魚のまち大和郡山」を事例に－

島　俊彦（大牟田市立吉野小学校）

2）ともに学ぶ　応其小学校　～大好きな学校・地域に MINT の風を吹かそう！～

辻脇　昌義（橋本市立応其小学校）

3）大沢中学校の取組

小畑　幸一（神戸市立大沢中学校）

◆第 2 分科会

指導助言：大塚　厚（奈良市教育委員会）

司会：三木　恵介（奈良市立都跡小学校）

1）学校と森と水の源流館と近畿 ESD コンソーシアムのプラットフォームでつくる ESD 遠足の実践

新宮　済（奈良市立平城小学校）

2）水から(自ら)広げる豊かな学び

佐野　純(箕面こどもの森学園　NPO 法人コクレオの森)

3）平和学習　奈良に帰ってきた三角定規　－まみいち PEACE プロジェクト－

藏前　拓也（広陵町立真美ヶ丘第一小学校）

◆ＥＳＤ研究会

司会：河野　晋也（大分大学）

1）地域資源を活用した学びの実現に向けて　～学校と地域が連携する有効性～

中澤　敦子（近畿環境パートナーシップオフィス）

2）コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組

松浦　慎（奈良ユネスコ協会）

3）フィリピン残留日本人を通して SDGs16 を考える

太田　満（奈良教育大学）

実践発表Ⅱ

11 月 8 日（日）13 時 00 分～14 時 30 分

◆第 1 分科会

指導助言：伊井　直比呂（大阪府立大学）

司会：西口　美佐子（奈良市立東登美ヶ丘小学校）

1）パラスポーツって何だろう

圓山　裕史（奈良市立飛鳥小学校）

2）学校統合に関わる課題について　～ユネスコスクールの継続に向けて～

高尾　祐彦（大阪市立御幸森小学校）

3）高時のオオサンショウウオを守るために　－ ESD の視点をふまえた学習指導 －

足立　康輔（長浜市立高時小学校）

◆第 2 分科会

指導助言：中澤　静男（奈良教育大学）

司会：新宮　済（奈良市立平城小学校）

1）これは使える！　フォトチャット

鎌田　大雅（奈良教育大学附属幼稚園）

2）ESD の視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造

森　恭一（名張市立蔵持小学校）

3）大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動

富澤　裕美子（エリーニ・ユネスコ協会）

実践発表Ⅲ・ESD 研究発表Ⅱ

11 月 15 日（日）13 時 00 分～14 時 30 分

◆第１分科会

指導助言：及川　幸彦（東京大学）

司会：吉田　寛（奈良教育大学附属中学校）

１）生物多様性について考えよう

～小学校２年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～

中澤　哲也（平群町立平群北小学校）

２）春日山をシカが喰う　～鹿害から春日山を考える ESD 実践

山本　浩大（奈良教育大学附属中学校）

３）コロナ禍における災害復興支援の可能性　－ネスコスクールの繋がりを活かして－

狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤こころ（奈良教育大学ユネスコクラブ）

◆第２分科会

指導助言：影浦　亮平（京都外国語大学）

司会：島　俊彦（大牟田市立吉野小学校）

１）探究活動促進のための教員データベース作成

－立命館守山高校　共創探究科の実践－

水谷　深志（立命館守山高等学校）

２）関西創価高校の世界市民教育

大月　昇（関西創価高等学校）

３）ユネスコスクールにおける地域連携教育と SDGS について

中嶋　浩晶（和歌山県立橋本高等学校）

◆ＥＳＤ研究会

司会：西口　美佐子（奈良市立東登美ヶ丘小学校）

１）ESD for 2030 にもとづいた ESD・SDGs ワークショップとコーチング

－ネットを使った社会人向け実践報告－

長岡　素彦（一般社団法人地域連携プラットフォーム/ESD-J）

２）使命感と成就感を大切にした国語科×総合の教材開発

中谷　栄作（橋本市立あやの台小学校）

３）概念変化に伴う価値観の変容

河野　晋也（大分大学）

実践発表Ⅰ・ESD 研究発表Ⅰ

１１月１日（日）

１３時～１４時３０分

地域文化を探究する小学校３年生総合的な学習の時間
―「金魚のまち大和郡山」を事例に―

島　俊彦（大牟田市立吉野小学校）

Ⅰ　はじめに

本実践は、総合的な学習の時間の入門期である第３学年の児童が、奈良県大和郡山市の地域文化である金魚を教材に探究する学習である。身近な地域の文化である金魚や自分たちの生活を問い直すことで、地域に受け継がれる「金魚文化」を継承し守り継ごうとする児童を育成することを目的に、実践を展開した。

Ⅱ　授業実践

前所属校（大和郡山市立郡山西小学校）で担任した第３学年の児童26名を対象に、昨年10月から12月にかけて「金魚のまち大和郡山」と題した実践を展開した。

【単元の目標】

自分たちの住む身近な地域の文化について探究する活動を通して、金魚が大和郡山市の伝統文化であることを歴史や環境との関わりから理解するとともに、金魚を生かした町づくりや地域活性化に取組む人々の思いや組織について理解し、地域の一員として「金魚文化」を継承し守り継ごうと考え、より良い地域社会の創造や自らの生活に向けて行動に生かすことができるようにする。

主な学習活動	学習への支援・資料
１．「金魚のまち大和郡山」について探究の の問いをつくる。	・大和郡山市が作成した金魚ののぼり ・一年間に生産された金魚の数と種類
２．大和郡山市と金魚の関わりを知る。	・金魚研究家の方との交流
３．金魚すくい体験をする。	・金魚マイスターの方との交流
４．大和郡山の金魚文化を広めるために、 自分たちにできることを考える。	・今までの調べてきた資料や振り返り記述 ・成果物の作成

Ⅲ　成果と課題

本実践における成果と課題は、それぞれ２点ある。

【成果】

・地域文化を継承しようとする児童の姿が見受けられた。（手立ての有効性）
・探究的な学習を支える教師の役割を明確化することができた。

【課題】

・探究的な学びの広がりと深まり。
・ＳＤＧｓを中核に据えたカリキュラムの創造。

尚、具体的な実践の様子や児童の変容、成果と課題については、大会当日に詳細を報告する。

ともに学ぶ　応其小学校
―大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！―

辻脇　昌義（橋本市立応其小学校）

１．　学校紹介

応其小学校は、橋本市西部、高野山麓の高野口町に位置し、古くから、高野参詣の入口として栄えてきた、自然が豊かな地域です。地域住民も友好的で、学校にも協力的です。近年の地場産業の織物業の衰退、人口減少、高齢化により、持続可能なまちづくりが必要となってきており、本校の児童数も減少し続け、本年度は児童数273名となっています。

本校では、MINT（M　みんなで　I　いい笑顔で　N　なかよく　T　楽しく）を合言葉に、大人も子ども「ともに学ぶ」学校づくりを進めています。

２．　特色のある取組の紹介

（１）ふるさと学習を中心とした学習プログラム

以前からのふるさと学習を中心とした学習プログラムを見直し、本年度は、カリキュラムマネジメントとして、教科横断的な学習カリキュラム作成を行っています。様々な地域の方々を講師として招き、地元の歴史、文化についての学習や自分たちの地域の未来を考えていける児童を育むための学習を行っています。

（２）地域とともにある学校づくり

普段より学校運営協議会を中心に「地域とともにある学校づくり」を進め、様々な意見を反映させながら学校運営をしています。今年度は、「ハート型のひまわり畑づくり」（図１）を行い、地域へのメッセージつくり等を通じて、地域とのコミュニケーションの場として活用することができました。

（３）児童会活動・縦割り活動

本校の学校の活動の基盤となっている活動が、児童会での縦割り活動です。１年生から６年生まで縦割りのグループを 20 組作り、児童会行事や普段の遊びで活動しています。こうした活動の中で、学校全体での仲間づくりや人を思いやる豊かな心が育ってきています。

図1　ハート型ひまわり畑

３．　めざすべき学校の姿、子どもの姿

（１）こんな学校をつくりたい

（２）こんな子どもに育ってほしい

４．　MINTの風を吹かそう

応其小学校の応援ソングを作りました！

大沢中学校の取組

小畑　幸一（神戸市立大沢中学校）

Ⅰ　大沢校園の特徴

地域に根ざし持続可能な社会の創り手としての生徒の育成
～つながりを重視した取組～

（１）田園地域にある小規模校

（２）幼稚園・小学校・中学校・児童館が併設

（３）希望就学制度に伴う生徒数の増加

Ⅱ　地域と共に行う行事（人・自然とのつながり）

（１）人とのつながりを重視した行事
　　異学年間・異校種間・異年齢間（地域）・異国間（国際）交流活動
　　もちろん同学年との交流活動

（２）自然とのつながりを重視した行事
　　学校・地域の環境を活用した活動（里山保全活動など）

Ⅲ　新学習指導要領実施に向けて

（１）「大沢中で育みたい資質・能力（仮）」の検討

（２）「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成」について

Ⅳ　今年度の取組から

（１）「ＳＤＧｓを知る」（中２）
　　調べたことをわかりやすく発表する①

（２）「トライやる　人とのつながりで防災学習　大沢守ろう！」（中２）
　　講義・フィールドワーク・まとめ
　　調べたことをわかりやすく発表する②

（３）「トライやる」を終えて，生徒の成長とその後の取組
　　「大沢守ろう！」　⇨　「地域の方々と交流をもとう！」

～　地域からの愛情につつまれて・・・・　～

実Ⅰ　2－1）

学校と森と水の源流館と近畿ESDコンソーシアムが「学びのプラットフォーム」でつくるESD遠足の実践

新宮　済（奈良市立平城小学校）

Ⅰ　目的

近畿ESDコンソーシアムでは、2017年度から森と水の源流館（公益財団法人吉野川紀の川源流館物語）と協働して「授業づくりセミナー」を開催してきた。この４年間のESD実践の取り組みからみえてきた、ESDの効果的な現地学習とゲストティーチャーの活用方法について明らかにしていく。

Ⅱ　方法

授業づくりセミナーにおいて、本校第4学年の総合的な学習「秋篠川の恵みを未来へつなげよう」の授業開発をし、継続して授業改善を行なった。改善してきたことは３つある。１つ目は、行動化を促す学習展開である。昨年度実践した学習の主な流れと児童の秋篠川観の変化を表１に示す。２つ目は、人の営みに憧れるゲストティーチャー（以下GTとする）の活用方法である。３つ目は、地域の川に興味を持つための効果的な現地学習の開発（表２）である。

表１　2019年度実施した学習の主な流れ

学習活動	児童の秋篠川観とゲストティーチャー（GT）の活用
既存の知識の確認	「川についてわからない」と過半数が回答
地域の川の生物調査	・秋篠川は、やや汚い川・たくさん生き物がいる　GT
森と水の源流館遠足	・吉野川には多面的な役割がある。　GT ・館長のように地元の川の役割を見つけて伝えたい。GT
地域の川の役割探し	・秋篠川も同じくように多面的な役割があった。　GT ・秋篠川と地域の人がつながっている。　GT
地域の川を時間軸、空間軸で比べる	・秋篠川は昔サワガニがとれるくらいきれいな川。　GT ・今の秋篠川はゴミが多いのでなんとかしたい。
自主的にゴミ拾いや川の観察した児童の報告	・プラスチックゴミが多い。 ・川の役割に影響があるかもしれない。
漁師や環境省への聞き取り	・秋篠川のカニを大阪湾のタコがエサにしていた。　GT ・大阪湾の漁師さんは毎日船一杯になるまで川から海に流れるプラスチックゴミを拾い集めている。　GT
できることの行動化	・館長のようにプラスチックゴミを海に流さないために、一人ひとりができることをしていくことが大切。GT
行動の問い直し	・地域の大人を変えないと河川のゴミ問題は解決しない
大人への訴え	・グレタさんのように、川のプラスチックゴミの原因が大人にあることを訴えることで解決につながる。　GT

表２　2019年度現地学習の流れ

時間	学習内容
事前学習	きれいな川に興味を持つ
遠足（午前）吉野川の調査	川の恵みを体感する ・生き物観察 ・川遊び、川辺で食事 ・自然水を飲む ・滝に癒される
午前のまとめ	体験した恵みを吉野川の役割として価値づける
遠足（午後）源流館の見学	館内のインタビューや展示から吉野川の役割を見つける
事後学習①	見つけた吉野川の役割を源流館に評価してもらう秋篠川にも役割があるのか疑問を持つ
事後学習②	館長が見つけた川の役割を地域の人に伝えるという川を守る営みにふれる

Ⅲ　結果

森と水の源流館にはゲストティーチャーとして知識を説明してもらう役割だけではなく、共に調査し児童の追究を評価する役割、川を守る営みを紹介する役割、児童の行動化をアドバイスする役割として関わってもらった。結果として児童は源流館の営みに憧れ、自分も同じようになりたいと行動を起こす意欲につながった。あえて地域の河川から離れて、「水源地の村づくり」を進めている地域の「川の恵み」を実感することは、地元の川の役割探しにつながる追究のエネルギーとなった。

水から(自ら)広げる豊かな学び

佐野　純（箕面こどもの森学園(NPO法人コクレオの森)）

Ⅰ　はじめに

本校のカリキュラムには、小学部にテーマ、中学部にワールドオリエンテーション(以下、WOと表記)というテーマ学習がある。「環境」「市民性」「人権」「自然」のカテゴリから抽象的なテーマを設定し、探究学習を行っている。最初に概要を伝え、施設を見学したり、講師の方から話を聞いたりして学んだ後に個別またはグループで具体的なテーマを決めて調べ学習をして、最後に発表をするという流れになっている。

2019年度１学期については､子どもたちが｢もっと自分の関心のあることを、自分の力で進めていきたい」と感じているようだったので、初めのきっかけだけを大人が用意して、そこから先はそれぞれの考えで進めていくことを支援しようと考え、「水」というテーマに決めた。

「水」であれば、生きる上で欠かせないもので誰もが身近に感じるものだから、そこからの子どもたち自身が問いを広げていくこともやりやすいだろうということでテーマとして採用し、１学期間をかけて学ぶことにした。

Ⅱ　学習の流れ

（１）水の飲み比べ
（２）問い出し・シェア
（３）各自の問いを具体的に検討
（４）自分のテーマに沿った見学先・
　　実験などを検討
（５）見学先を訪問・実験・インタビュー
（６）調べた内容をまとめる
（７）発表する
（８）振り返る

図１　水の飲み比べ

Ⅲ　チャレンジポイントと学びの成果

＜チャレンジポイント＞
○子どもたちが自分で作っていく学びを
　尊重すること
○別々のテーマで探究していくこと
○発表形式の工夫
＜学びの成果＞
○自分の問いやテーマを持ち、
　自力で学びをつくっていく力・姿勢を育む
○学校以外の場でも自分の責任で学びを
　進める経験
○教員が協働して学習をつくっていったことで、カリキュラムが改善

図２　「水」についての問い出し

実Ⅰ　2－3）

平和学習　奈良に帰ってきた三角定規
―　まみいちPEACEプロジェクト　―

藏前　拓也（広陵町立真美ケ丘第一小学校）

Ⅰ　はじめに

本実践の学習では、奈良から沖縄の戦地に行かれた方の遺品である三角定規が、74年ぶりに遺族のもとへ届いたことが掲載された新聞記事を取り上げた。この記事は、学級の児童が夏休みの宿題でノートに貼り付けていたものであった。記事には、「戦後74年と言うけれど、私には今も終戦はない。戦争で尊い命が奪われ、残った家族は悲しい運命に翻弄されるのだから」と遺族のコメントが記されていた。

この記事を書いた新聞記者と遺族との出会いをきっかけに、奈良にまつわる戦争について知ることで、戦争を身近で切実なものととらえさせようとした。加えて、戦争の被害は、空襲や原爆による被害だけでなく「戦争によって亡くなられた方の遺族の思いや願い」にもあることに気付かせたいと考えた。

Ⅱ　実践の概要

■第６学年　総合的な学習の時間（全15時間）

（１）戦争についての主な事象を学習する。（知る）
　　「広島と長崎では何が起こったのだろう。」

（２）奈良にまつわる戦争について調べる。（調べる）
　　「奈良にまつわる戦争の被害にはどんなものがあるのだろうか。」

（３）ゲストティーチャーからお話を聞く。
　　・毎日新聞記者：塩路佳子氏
　　・ご遺族：山口紀子氏

（４）調べたことをまとめ、プロジェクトを発足する。（まとめる）
　　「自分たちにできることって何だろう。」

（５）平和学習発表会を開催する。（ひろげる）

Ⅲ　考察

奈良にまつわる戦争の内容を取り上げたことで、自分たちが住んでいる地域からも戦地へ行った人がいたことを知り、戦争を身近なものとしてとらえるができた。また、ゲストティーチャーから直接お話を聞くことで、遺族の方の思いや願いを知り、戦争の被害は空襲や原爆などだけではないことを考える機会になった。

沖縄の壕から74年ぶり奈良へ
お帰り
名前刻んだ三角定規
お父さん

図１　毎日新聞の記事

自分なりに考えた平和を実現するために、大切にしなければならないことや必要なことを考え、実行しようとする態度を養うことができた。この平和学習を通して、SDGs16への貢献につなげることができたのではないかと考える。

ＥＩ－1）

地域資源を活用した学びの実現に向けて
―学校と地域が連携する有効性―

中澤　敦子（近畿環境パートナーシップオフィス）

Ⅰ　はじめに

近畿環境パートナーシップオフィスでは、2013年度より「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るＥＳＤ環境教育プログラムの作成･展開事業」「近畿地方ＥＳＤ活動支援センター事業」等において、学校教育でのＥＳＤ環境教育の推進を目的に､地域人材や自治体環境部などのステークホルダーによる「ＥＳＤ学びのプラットフォーム」の創出や、自治体・専門家・地域拠点を通じた教材の提供、授業づくり支援などに取り組んでいる。

Ⅱ　研究の目的と方法

ＥＳＤでは、地域資源の教材開発や体験的な学習を組み込んだ探究型の学習が展開されることが多い。また、新学習指導要領でも「社会に開かれた教育課程」がキーワードの一つとなっており、学校と地域との連携が当然視されている。本研究では、本オフィスが2013年度より関わった37本のＥＳＤ環境教育の実践報告や学習指導案を分析することで、学校と地域が連携する有効性を明らかにするものである。

Ⅲ　実践報告等の分析

37本のうち､36本が地域の教材化に取り組み､体験的な学習を展開していた。また、そのうちの33本の実践において多様なステークホルダーと連携して学習を展開していた。（表１）

また、目的によって連携相手を選んでいる様子を伺い知ることができた。

例えば、学芸員との連携では、教員の事前研修時に専門的な知識を得ることを主たる目的とした事例が５本であり、生物調査時に同行し、体験と知識を結びつけることを主目的とした事例が６本であった。また、地域の方との連携では、体験活動時一緒に活動した事例が８件、インタビューや学習成果の発信時での連携が４件であった。

表１　学校と地域の連携

学芸員	14
地域の方	13
ＮＰＯ・市民団体・ボランティア	13
大学教員	13
地域の専門家（個人）	8
環境課	6
教育委員会	7
その他行政	10
民間研究所	3
民間その他	2
高校	1
合計	90

Ⅳまとめ

本研究によって､特に地域の方々との連携が、「取組を行っている大人との出会いとあこがれ」「自分も地域の役に立つことができるという自信」「地域の方々に喜んでもらえるという自己有用感」「地域の方と一緒に課題を解決していこうとする意識の高まり」など､持続可能な社会づくりへの行動化に効果的であることが明らかとなった。

ＥＩ－2）

コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組

松浦　慎（奈良ユネスコ協会青年部）

Ⅰ　はじめに

厚生労働省を中心に、自身や、周囲、そして地域を感染拡大から守るため、自身の生活に合った「新しい生活様式」の実践が叫ばれている。対面型のボランティア活動においても例外ではなく、３密（密集、密接、密閉）のリスクがある活動は中止を余儀なくされている。

しかし、時間は確実に流れている。このような時だからこそ、歩みを止めない持続可能なアクションが必要である。本発表は、奈良ユネスコ協会青年部のメンバーが、自分たちにできることを模索し、実行したことをまとめたものである。

Ⅱ　コロナ禍の活動の再構築

（１）子どもたちへのアプローチ
- ①　郵送とSNS
- ②　「カラフル」活動のすすめ
- ③　アンケート

（２）オンライン研修
- ①　ギター倶楽部
- ②　「旅心」リレー講演会
- ③　未来創造会議
- ④　「歌心」ソングカフェ
- ⑤　「本心」ブックトーク
- ⑥　交流会＆座談会
- ⑦　アナザースカイ
- ⑧　奈良プランニング

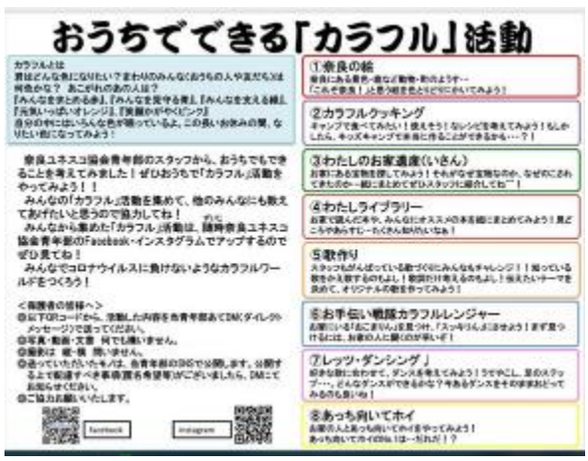


図１　参加者に発信した「カラフル活動」

Ⅲ　アクションから見えてきたこと

（１）持続可能な活動にするポイント
- ・過度な負担をかけない
  - →企画はみんなで分担する。
  - →多様な開催日を設定する。
- ・魅力的な活動にする
  - →メンバーのニーズを把握する
  - →やってよかった。・社会的承認
- ・「財」を活用する
  - →メンバーの「得意」を伸ばす。

（２）発想の転換

ESDをやらなければならない
SDGｓのためにやる、ではなく
やりたいことをやっていたら、
ESDになっていた。SDGｓにつながった。

図２　青年部「新」年間計画

ＥＩ－３）

フィリピン残留日本人を通して SDGs16を考える

太田　満（奈良教育大学）

Ⅰ　フィリピン残留日本人

フィリピン残留日本人とは、太平洋戦争終結までにフィリピンに渡るか，フィリピンで生まれた日本人で，戦争によって父親または両親と離散するなどして，現地に残留せざるを得なった日本人のことである。フィリピン残留日本人は、戦後の「反日感情」の激しいフィリピン社会で，難を逃れて山奥に隠れ、日本名をフィリピン名に変え、日本人であることを隠して生きてきた。極度の貧困にあり，フィリピン国籍を取得することもできず，不安定な社会的立場に置かれたのである。外務省第12次調査（2019年3月公表）によると，フィリピン残留日本人は，計3,810人いるとされる。その内，生存者（生死不明者含む）は1,723人（45%），死亡者は2,087人（55%）である。生存者（生死不明者含む）のうち，日本国籍取得済は654人（38%），無国籍者は1,069人（62%）である。

Ⅱ　フィリピン残留日本人の無国籍問題

無国籍者とは,「いずれの国家によってもその法の運用において，国民とみなされない者」（無国籍者の地位に関する条約第1条）である。フィリピンでは，2011年に無国籍者の地位に関する条約に批准するなど，無国者を減らそうとする取り組みがなされている。フィリピン残留日本人の願いは「日本人であることを認めてほしい」ことだが、フィリピン残留日本人が無国籍状態におかれていることの解決策をフィリピン政府にだけ委ねてよいかという問題がある。「すべての者は，国籍を取得する権利を有する」（第15条）という世界人権宣言を持ち出すまでもなく，今日では，持続可能な開発目標（SDGs）において，2030年までに「16 .9　2030年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する」ことが言われている。このような国際的取り組みの中で，日本に住む我々が，フィリピン残留日本人の無国籍問題をどう受け止めるかが問われている。

Ⅲ　フィリピン残留日本人のライフヒストリー

本発表では、アカボシハツエさん（1926年生まれ）のライフヒストリーを紹介する予定である。ハツエさんのお父さんは熊本県出身の日本人で、お母さんはフィリピンに住むバゴボ族の人である。なお、ハツエさんは、ドキュメンタリー映画「日本人のわすれもの」（小原浩靖監督）に登場している。同ドキュメンタリーは、学校の授業等でも活用できるよう、50分版（大学）、40分版（中高）が作成されている（http://wasure-mono.com/wasuremono/students/参照）

【参考文献】

河合弘之編（2005）『フィリピン日系人の法的・社会的地位向上に向けた政策のあり方に関する研究』東京財団研究推進部

実践発表Ⅱ

１１月８日（日）

１３時～１４時３０分

パラスポーツって何だろう？

圓山　裕史（奈良市立飛鳥小学校）

１．目標

パラリンピック選手やそれを支える人たち、パラリンピックの運営に関わった人の考え方にふれ、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。また、障がい者理解を深め、誰に対しても差別することや偏見を持つことなく、公正・公平な道徳的判断力や心情を育てる。

２．単元について

東京オリンピック・パラリンピックの開催にともなって、パラリンピック競技をCMやTV番組で目にする機会が多くなっている。この機会にパラスポーツを通して障がい者理解につなげるいい機会である。

また、パラスポーツには「障がい者のためのスポーツ」という認識が強いが、見方を変えれば「誰もが公平に行えるスポーツ」だというユニバーサルデザインの側面もあり、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展させることに適していると考える。実践を展開していくときには、パラリンピックのピクトグラムや競技の紹介動画、手作りボッチャ体験から、パラスポーツについて感じたり、考えたりできるようにする。

そして､パラリンピックの父と呼ばれる中村裕医師のダイバーシティ社会、共生社会といった考えにふれることで、児童にもこうした考えが芽生えるであろう。

３．ESDとの関連

【SDGsについて】　10.人や国の平等をなくそう
　　3.すべての人に健康と福祉を
【ESDの視点】　多様性　責任性
【資質・能力】　クリティカルシンキング
　　コミュニケーション力
【価値観】　世代内公正　人権尊重

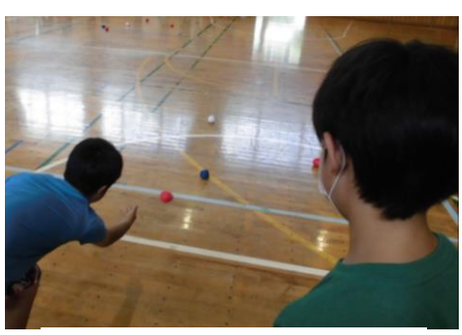


図１　手作りボッチャ体験

４．成果と課題

学習のまとめとして、最後に振り返りを書かせると、学習前には「障がい者のためのスポーツ」といった見方が大多数を占めていたのだが、学習後には、「誰とでも平等にスポーツを楽しめる」といった多面的､多角的な見方へと発展し、ダイバーシティ社会、共生社会といった考え方の基礎が育まれたと考えられる。

実Ⅱ　1－2）

学校統合に関わる課題について
―ユネスコスクールの継続に向けて―

高尾　祐彦（大阪市立御幸森小学校）

Ⅰ　発表要旨

2012年10月にユネスコスクールに認定された本校は、「児童の自尊感情と郷土愛を養い、心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ」ことをねらいとして「多文化共生」「国際理解」「平和」「人権」「地域の文化財」などをテーマとした学習に取り組んでいます。

そのような中、本校は、近年の児童数の減少により、令和３年４月に隣接する小学校との統合が予定されており、統合に向けた課題に加え、ユネスコスクールの継続に向けた課題に直面しています。

本校のユネスコスクールとしての取組を踏まえ、今後のユネスコスクール継続、取組のさらなる充実・発展について、広く皆さまのご意見、ご示唆をいただければ幸いと考えております。

Ⅱ　発表の内容

（１）多文化共生・国際理解に関わる取組
（２）地域理解に関わる取組
（３）協調性・コミュニケーション力を高める取組
（４）学校統合に向けた課題について
（５）ユネスコスクールの継続に向けた課題について

実Ⅱ 1－3）

高時のオオサンショウウオを守るために
―ESDの視点をふまえた学習指導―

足立　康輔（長浜市立高時小学校）

１　学校紹介

高時小学校は、長浜市木之本町の北東に位置している。全校児童 47 名の小規模校で、第二学年と第三学年は複式学級である。本校の学区内には、貴重な地域資源が数多くある。滋賀県最初の文化財収蔵庫である己高閣、世代閣には、鶏足寺の十一面観音をはじめ、数々の重要文化財が納められている。薬師如来像や石道寺の国の重要文化財である十一面観音像・石田光成ゆかりの地など、歴史的な遺産が多く存在する。また、自然環境にも大変恵まれている。日本のお茶栽培の発祥の地である学校周辺には豊かな茶畑があり、全校で茶摘みをしたり、児童が茶道を学び、お茶を点てたりしている。さらに、地域に流れる大谷川には、国の特別天然記念物のオオサンショウウオが生息しており、地域全体で保護に努めておられる。

２　本校の総合的な学習の時間について

上記のような貴重な地域資源について、本校では生活科・総合的な学習の時間を中心に児童たちが発達段階に応じて、探究的に学びを深めている。例えば第三学年は己高閣や十一面観音像などの主に文化財、第四学年は大谷川の水質環境やオオサンショウウオ、そして第五学年では茶道学習や学校のビオトープについて、最後に第六学年では茶道学習や高時の古墳について等をテーマに、児童が主体的にわかったことを紅葉祭会場で、広く地域や観光客の方々に発信している。

３　第４学年総合的な学習の時間の授業実践（令和元年度）

昨年度４年生では、大谷川に生息するオオサンショウウオを守るための学習を進めてきた。まず、大谷川の水質調査である。学校付近に流れる大谷川の中流や上流の水生生物を採取し、水質や川の状況を調べた。そして、大谷川のオオサンショウウオに精通している、古橋のオオサンショウウオを守る会の方、長浜バイオ大学の方、さらに長浜市役所歴史遺産課の方に出前授業をしていただいた。学習の終盤には、専門的な方から学んだことや、自分たちが調べて分かったことを通して、自分たちがオオサンショウウオを守るためにできることは何か話し合いを進めた。そして、話し合い、まとめたことを紅葉祭会場で発表し、オオサンショウウオについて知ってもらうだけでなく、手作りのチラシを作成し、多くの方々に配布した。

このようなオオサンショウウオを守るために学習を深めることに取り組んできた授業実践について発表する。

図１　高時小学校４年生が作成したチラシ(R1)

これは使える！　フォトチャット

鎌田　大雅（奈良教育大学附属幼稚園）

○はじめに

これから到来するsociety5.0時代には、自らが課題意識を持ち、仲間と考え、探究し、創造していく力が求められます。保育の現場では、子どもたちに均一な活動の経験をさせることではなく、子どもの「面白い！」「不思議！」という“トキメキ”と、「やってみよう！」「こうしたらどうなるかな？」という“ヒラメキ”を、いかに保育者が読み取り、一人一人の興味関心を深められる経験を保障できるかが重要視されています。本園では、子どもの“トキメキ”と“ヒラメキ”を読み取ることが重要であると捉え研究を重ねています。仕事量が増える教育・保育現場の中、効率的に行える研修方法としてタイトルにある【フォトチャット】を考案し、短時間での研修を行っています。

○フォトチャットとは

各園の研究テーマなどに沿って選んだ写真1枚とその時のエピソードをもとに、視点を絞って保育者間で語り合い、子どもの学びや経験、保育者の思いなどを探る研修方法です。

○フォトチャットの方法

①.保育者が研究テーマ等に沿った写真を保育中に写真を撮る。
②.撮影した写真からフォトチャットに使う写真を１枚選ぶ。
③.モニター上に写真と研究テーマ等に沿った視点の枠を映す。
④.モニター上の写真を見ながら、写真を撮った保育者が前後のエピソードを語る。（３分程度）
⑤.エピソードを受けて聞いていた保育者が研究テーマ等に沿って、視点を絞って語り合う。（７分程度）
⑥.記録者は語り合いを聞きながら、研究テーマ等に沿った視点の枠に記録していく。
⑦.フォトチャットの記録を集積し、自園の研究に反映させる。

○フォトチャット中のモニター共有画面（本園の場合）

本園では、子どもの“トキメキ”や“ヒラメキ”について語りを深めるために以下の枠組みを使用しています。

図１　フォトチャット時のモニター画面

○フォトチャットの効果

・子どもの姿を読み取る力が養われる
・遊びの様子や子どもの姿、クラスの実態等を職員間で共有することができる
・同僚性が高まる
・保育観や子ども観の形成につながる

ESDの視点を取り入れた思考力・判断力・表現力を高める授業の創造

森　恭一（名張市立蔵持小学校）

Ⅰ　はじめに

本校は平成24年にユネスコスクールに認定され,ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた学習活動を展開してきた。各教科や総合的な学習の時間での教科等横断的なカリキュラムをESDカレンダーとして編成し実践を重ねている。また，2015年に国連で提唱されたSDGs(持続可能な開発目標)の17とゴールの関連性も視野に入れながら教材を開発するようにしている。ESDを通して，言語能力を向上させ,思考力・判断力・表現力を高め,行動化につなげることができると考えている。

Ⅱ　実践例

（１）　4年生　「資源を大切に」

【活動（学習）内容】

○自分たちの生活の中で何気なく出しているゴミの現状と環境や生き物への影響を考える。

○自分たちが出しているゴミの中にも，まだ使うことのできる資源がないか考え,話し合う。

○資源を集め,自分たちでリサイクル,リユースする方法を考え,実際に行い,全校に発信する。

【他教科との関連】(教科横断的な視点)

「ゴミのしまつと活用」(社会)　　「ランドセルは海をこえて」(国語)ほか

【ESDの視点　SDGｓのゴールとの関連】・相互性・有限性・責任性，ＳＤＧｓのゴール12「つくる責任・つかう責任」など

【子どもたちの様子】

・世界的にゴミの排出が問題となり，自分たちが出したゴミを処理しきれず海にプラスチックゴミがあふれ，動物が命を落としている事例を動画や新聞でみたことで「このままでは，いけない」と問題意識をもつことができた。

・他教科とも関連させることで，１学期は「資源を活用していく」ことを意識して生活することができていた（日記や普段の生活等）

・自分たちが呼びかけて集めた資源を活用して，自分たちが考えた遊び道具をつくることで，意欲的に活動することができていた。

・１年生へ発表の場を設けたことで，自分たちが作った道具で楽しそうに遊ぶ一年生を見て，満足感を得ることができていた。また，事後にいただいた手紙もうれしそうに読んでいた。

Ⅲ　まとめ

各学年でＳＤＧｓの17のゴールとの関連性を考え，ＥＳＤの視点を取り入れた学習をすることによって，児童は自分たちの身の回りのさまざまな問題に気づき，できることを考え，話し合って発信するなど,行動化へとつなげることができるようになってきている。

大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動

富澤　裕美子（エリーニ・ユネスコ協会）

Ⅰ　地域・学校・PTAによるユネスコ・スクール晴明丘小学校の実践

晴明丘小学校創立100周年（平成12年度）記念事業として「自然にふれて命の尊さを理解できる子どもたちに」との願いを込め、地域、学校、PTAが一丸となり自然観察学習園を校庭内に１から全くの手作りで完成しました。この自観察学習園を作るのにあたって、維持管理のお手伝いと植栽を学校とPTA・地域の人で構成する自然観察学習園運営委員会・地域園芸クラブが組織され現在に至っています。20年たった今、自然観察学習園は、田んぼ、季節の花と「なにわ伝統野菜」をはじめとする野菜づくりのエリア、池と川のビオトープのある自然豊かな場所となりました。今春開墾された「くすのき畑」を含め、小学校課程の教科書にある植生物が校庭で見ることができるよう植栽を進めています。米作り・「なにわ伝統野菜」・さつまいもなど栽培し収穫して食べること、あおむしから蝶・バッタやカマキリなど「自然とふれあい、命の尊さを学ぶ」生きた学びを得ることのできる環境教育の場となっています。なにわ伝統野菜の復活に取り組んでこられた市民活動団体や生産者農家、お茶・植物・生物・草木染・食育等各分野の研究者・専門家の方々からアドバイスをいただきながら、セミナー・イベントなどを通して、子どもたちが豊かな学びを得ることができるだけでなくPTA・地域の人の生きがいを見出しています。

2年 生さつまいも

自然観察学習園での感想

・天王寺蕪や勝間南瓜などこの年になってはじめて知り、味わいました（80歳）
・なにわ伝統野菜や秋の七草をこの小学校にきて初めてみました（50歳・教員）
・［お茶の授業を終えて］１年生の時、５年後に飲めるといいねということで植えつけてから、ずっと楽しみにしていました。お茶を飲めたのは校長先生や地域園芸クラブのみなさんがお茶の木を守ってくださったからだと思います。お茶はとてもおいしかったです。（６年）

私のまちのたからもMAP
（エリーニ・ユネスコ協会ユース発行）

Ⅱ　地域学習

晴明丘地域は大阪・上町台地の熊野街道沿いに位置し、「わたしのまちのたからものMAP」づくりによって地域の歴史や文化の学びを通してローカル・アイデンティティを育んできました。自然観察学習園における地域の特産物や伝統野菜、片葉の葦などの植栽から自然に触れあえる学び合いが世代を超えて行われ、さらなる発展を目指したいところです。

実践発表Ⅲ・ESD 研究発表Ⅱ

１１月１５日（日）

１３時～１４時３０分

生物多様性について考えよう

―小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より―

中澤　哲也（平群町立平群北小学校）

Ⅰ　目的と背景

平成29年３月に小学校学習指導要領が公示され、その前文に「持続可能な社会の創り手を育む」ことが明記された。一方で、同年改訂された小学校学習指導要領解説生活編では、上記の視点を取り入れた改訂は見られない。本研究では、持続可能な社会における生物多様性を理解し、大切にしようとする態度を育むために小学校生活科で活用できる教材の開発を行い、授業実践を通してそれらの有効性を検討した。

Ⅱ　方法

本校の小学校２年生 26 名を対象に 2019 年秋に実施した。児童が生き物間のつながりについての知識を深めるために、天王寺動物園と協力して開発した授業実践を行い、実践後の子どもの変容をもとに生き物への親しみだけでなく、知識理解を促す授業のあり方について考察する。

主な学習活動	学習への支援
1．クイズ「だれのフンでしょう？」	・「ウンチ標本」を使って、クイズを出し、よく観察させることで、動物の種類によって様々な違いがあることに気付かせる。
○動物によってフンの形や大きさ、付着物が違うことに気付く。	
○動物の食べているものや、生活の様子など、生き物の生態について関心を持つ。	
2．生き物の生態について調べてみよう。	・天王寺動物園で飼育されている生き物から、選ばせるようにする。また、図書館や、天王寺動物園の獣医とも連携を取り、調べ活動のサポートを行うようにする。
○図書館の図鑑を利用して、次の５点について調べる。	
①体長②体重③主な生息地④主な食べ物⑤調べて気付いたこと	
3．天王寺動物園で生き物の観察をしよう。（課外）	・事前に園内の地図を配布し、自分たちで道順を考えさせる。
○園内を回りながら、生き物だけでなく、周りの環境にも視点を向け観察する。	
4．生き物はどんなものを食べているのだろうか。	・調べて出てきた動物を張り出したり、矢印でつないだりしながら、生物のつながりを可視化していくようにする。 ・様々な種のバランスを崩すとどうなるかを考えさせることで、生態系バランスの大切さを考えさせる。
○調べた動物を発表することを通して生き物同士のつながりに気付く。	
○肉食動物・草食動物・植物の相互性について考える。	
5．学校の観察池にいるタニシを飼育しよう。	・観察池に行き、池の水の様子や周りの環境の様子にも視点が向くように支援する。
○タニシのエサや、身の回りの環境について調べる。	
○タニシが住みやすい環境を考え飼育する。	
○図鑑をもとに、タニシの生態について観察し、カードを記入する。	・子どもの関心が高まるように、図鑑を用意する。

図１　単元展開の概要

Ⅲ　結果と考察

実践を通して、多くの子どもは「食う−食われる」といった生き物どうしの関わりだけでなく、生き物から出た糞が、植物の栄養になり、循環しているということに気づいた。また、生き物の糞が植物の栄養の一部になることがわかると、糞に対する抵抗が減少しつつあると感じた。

児童一人一人がタニシを飼育したことによって、タニシの住む池の環境や水に注目しながら飼育環境を自分たちで考え作り出すことができた。

春日山をシカが喰う
―鹿害から春日山を考えるESD実践―

山本　浩大（奈良教育大学附属中学校）

Ⅰ　はじめに

春日山原始林は日本でも有数の照葉樹林が成立しているが、近年“奈良のシカ”によって森林生態系に負の影響が生じている（前迫2013）。日本各地でも、シカによる植生の変化が報告されており（辻野他2013，Tsujino et al.2013）、それに伴って土壌の改変や他の動物相への影響、外来種の侵入なども報告されている（前迫2013）。春日山も同様に、シカにより後継樹への影響が報告されている（前迫2013）。このようなことが春日山で起こっているが、生徒たちは漠然としか、春日山の問題を知らない。そこで、事前学習を通して春日山について知り、自然を保護する立場にある人の説明や春日山の状況を見て、食害の状況やそれに関わる問題について学習する機会を総合的な学習の時間に設けた。

Ⅱ　授業実践（計７時間、7は本校の校外学習の時間で行った）

主な学習活動
0、大台ケ原を歩く（希望者のみ） ・大台ケ原を散策し、森林の現状・問題について学び、自然環境の保全に対する興味や関心を高める。
1、春日山原始林についてのマップを作成する ・SDGsの視点で、春日山原始林で起こる問題を見つめ、負の連鎖構造を知る。
2、調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する ・マップを作成し、様々な問題が絡み合っていることを知る。
3、他学年の生徒に、奈良めぐりの際レクチャーをするための資料作成
4、食物連鎖ゲーム（実習）
5、食物連鎖ゲーム（まとめ）
6、前鬼モニタリング調査の報告会 ・事前に２泊３日のモニタリング調査に参加し、自然の測定方法を学ぶ。 ・学んだことの整理とアウトプット。
7、春日山を歩く（奈良めぐり）
8、まとめ ・諸問題を解決していくために今の自分ができることやこれからの春日山の活用を考える。

上の表のように授業実践を行った。本校では、1，2年合同で校外学習を行っており、2年生が春日山の現地で1年生に向けて説明を行う場を持っている。詳細については、当日の発表で行う。

Ⅲ　引用文献

・前迫ゆり（2013）世界遺産春日山原始林．ナカニシヤ出版
・Tsujino Riyou et al.(2013) Degradation of Abies veitchii wave-regeneration on Mt.Misen in Ohmine Mountains：effects of sika deer population. Journal of plant research.126(5). p.625-634
・辻野亮他（2013）大峯山系弥山におけるシラビソ縞枯林とニホンジカの影響の変化．奈良植物研究会．34．p.13-20

コロナ禍における災害復興支援の可能性
―ユネスコスクールの繋がりを活かして―

狗飼　菜々子・谷垣　徹・佐藤　こころ（奈良教育大学ユネスコクラブ）

Ⅰ　はじめに－ユネスコクラブと災害復興支援

本団体は2011年７月に活動を開始した学生団体で、ESDを実践できる教員になることを目的に、ESD-SDGsに関する勉強会、他大学学生や地域活動団体等との多様な連携事業、ユネスコスクールを中心とした学習支援や子ども向けイベントの企画運営等に取り組んできた。また、東日本大震災をきっかけに、災害復興支援にも取り組んできた。東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市へは毎年、陸前高田市文化遺産調査団として学生を派遣し、文化財保護調査および防災教育調査、教材開発を行ってきた。2018年に発生した西日本豪雨災害においては、その発災直後に災害復興支援ボランティアチームを立ち上げ、岡山県倉敷市および岡山市でのボランティア活動に13回､計64名の学生が参加した。

Ⅱ　コロナ禍における災害復興支援の始まり

2020年７月に九州地方で豪雨が発生し､九州各地で甚大な被害をもたらした。今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、遠方からのボランティアの受け入れがなされず、人手不足に陥っていた。本団体も現地へボランティア活動に駆けつけることが出来ず、遠方からでも出来る支援がないかと、企画チームを立ち上げた。ユネスコスクールのネットワークから、学校が被災した大牟田市立みなと小学校と繋がることができ、ニーズ調査をし、まずはユネスコクラブ学生有志によるメッセージ動画の作成から取りかかった。

みなと小学校へのメッセージ動画

Ⅲ　オンラインでの学習支援

みなと小学校の先生からのご提案で、オンラインでの学習支援を行うこととなった。新しく立ち上げられた「みなとESDすすめ隊！」の児童らと、Zoomを用いたオンライン交流を開始し、初回はユネスコクラブから奈良という地域について、クイズを交えながら紹介した。児童らが自分たちの身近な地域を題材に活動に取り組む際の、地域を見る視点の手助けとなるよう、紹介の仕方を工夫した。今後も継続したオンラインでの学習交流を予定している。

Ⅳ　まとめ

奈良教育大学ユネスコクラブは創設当初より継続的に災害復興支援に取り組んできた。令和２年７月豪雨で被災された大牟田市立みなと小学校へ、オンラインでの学習支援を開始した。現地で直接的に支援するだけでなく、遠方からでも出来る災害復興支援のあり方を見つけることが出来た。ユネスコスクール・ESDの繋がりを大切にして、今後も継続的に関わっていきたい。

探究活動促進のための教員データベース作成
－ 立命館守山高校 共創探究科の実践 －

水谷 深志・中條 岳青（立命館守山高等学校）

１．立命館守山における探究学習

本校は中高一貫校として６年間を見通した探究学習のストリームを構築している。特に高校では１年次に様々なトピックを基に思考力の向上を目指す「Thinking Design」、２年次では文理に分かれて個別の探究テーマを設定して活動する「文社探究Ⅰ・理数探究Ⅰ」、３年次では２年次での取り組みを発展させた科目として、「文社探究Ⅱ・理数探究Ⅱ・グローバルAP*1・サイエンスAP」を設定している。高校卒業時には12,000字のレポートや研究発表用のポスターなどを集大成として作成することとなっている。本年度は３年間の探究ストリームの完成年度であり、高校３年生の生徒たちがこれまでの成果をまとめるべく鋭意活動を進めている。

*1：Advanced Placementの略。本校で独自に設定している高大連携授業のこと。

２．探究学習と教員データベース

生徒が探究活動を進める上で教員には伴走者としての役割が求められるが、生徒たちが設定する探究テーマは非常に多岐にわたり学外の専門家に協力を要請することも多い。その一方で、生徒にとって教員は最も身近な専門家であり相談を持ち掛けたいと考える生徒も多い。これを円滑に進めるために我々は中高教員合わせて105名分の専門領域や興味の対象などを調査し、ひとつにまとめた「教員データベース」の作成を行った。このデータベースを生徒に配信することで、生徒は学内で自分の掲げるテーマに近い専門性をもつ教員や理解を示して協力してくれそうな教員を探すことができる。教員は一社会人として生徒の依頼を状況に応じて受けることとなる。生徒にデータベースの配信を行ってから約1ヶ月が経過したが、既に多くの生徒がデータベースから情報を得て、教員に相談を持ち掛けている。

また、副次的効果として生徒のキャリア教育に対しても一定の影響を与えている。データベースを通じて教員の背景を知ることができ、進路選択をする際にどのようなことを考えて決断したのか？といった相談を持ち掛ける生徒もおり、想定していなかった価値と活用法が生まれつつある。

３．まとめ

立命館守山では中高を通じた探究活動を学校全体で促進し、サポートするべく教員データベースを作成した。本来の目的に対する好影響に加えて、副次的な効果も感じている状況ではあるが、今後直接面識のない教員へ気軽にアポイントメントを取りに行けるような風土の醸成や、文理を問わずに活用しやすくするような指導、より見やすく検索性の高いデータベースへのアップデートなど継続的な改善が必要である。

関西創価高校の世界市民教育
―ユネスコスクールとして―

大月　昇（関西創価高等学校）

創造性豊かな世界市民育成のため、独自のプログラムを展開

関西創価高校は、第１回入学式で創立者池田大作先生が訴えられた「他人の不幸のうえに自分の幸福を築くことはしない」との平和の信条を根本に、世界の平和に貢献する「世界市民」の育成を目指し、「環境・開発・人権・平和」の４分野学習を中心に据えた「世界市民教育」を実践しています。

５年間のSGH（スーパーグローバル ハイスクール）の経験を踏まえながら、ユネスコスクールとして、SDGsをはじめとする、国連が提起している地球的課題の解決を模索する、独自の探究活動を通して、「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を備えた、力ある「世界市民」の育成に取り組んでいます。

具体的なプログラムは、①全校生徒対象の探究型総合学習GRIT （Global Research &Inquiry Time)、②希望者を対象とした高度な内容の授業SP （SOKA Progress Class)、③主に１年生の希望者が対象の高大連携プログラムUP（University Partnership）クラス、④２・３年生から選抜した生徒を対象にオール・イングリッシュで発展的な探究活動を行うLC （Learning Cluster ）からなります。

１・２年次で地球的課題に関する知見を広げ、表現力を磨きます。３年次では、GRITの集大成として学年模擬国連を開催し、合意形成の力を養成します。過去４回の模擬国連のテーマは、いずれもSDGsにつながるものになっています。

SGH期間は、SGH委員会が中心になって、各プログラムを企画してきましたが、SGH後の今年度からは「世界市民教育推進室」がその役目を担い、推進力となっています。また、GRITの実施内容を検討し、評価する「探究科」も設け、教育の質の向上を図っています。

さらに、ユネスコスクールの全世界に通じるネットワークは、世界市民教育を進める上で大きな糧になると考え、積極的に国内外の教育機関と連携していくことを計画しています。また、SDGsについては、GRITの枠にとどまらず、各教科でもカリキュラムに取り入れていくことを目指します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、当初の予定から変更を余儀なくされたものも多くありましたが、今年度の取り組みの主眼となる〈My SDGs in Action!〉がいよいよ始まります。

３年生全員による模擬国連を開催

地球的課題を「我が事」と捉え、その歩みは小さくともSDGs達成に向けた動きを自分から起こしていこうとの思いから、〈My SDGs in Action!〉を企画しました。ユネスコスクールの一員として、取り組む主体においても「誰も置き去りにしない」ことを目指します。

実Ⅲ　2－3）

ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGｓについて

中嶋　浩晶（和歌山県立橋本高等学校）

Ⅰ　はじめに

本校は、平成 22 年に文部科学省の人権教育開発事業において研究指定校となったのをきっかけとして、平成 24 年度からボランティアの組織的な活動を試みた。それ以前のボランティア活動は、個人やクラブ単位で不定期に実施されていた。そこで、この研究指定を受け高校２学年全員が１日以上、市内の福祉施設や教育機関等においてボランティア活動を行うこととした。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、実施できなかったが、昨年度まで市内の福祉施設や教育機関等の協力で継続実施することができた。

平成 26 年には「ユネスコスクール」の登録を受け、それまで委員会仕立てであった国際教育を分掌内に位置づけ、「ふるさと教育」、「世界遺産教育」として地域についての理解を深めるとともに、清掃活動や語学部によるガイドなどを通して文化財への興味関心を高めることとした。

平成30年度には､本校でコミュニティスクール制度を導入したことにより、平成 24 年度以降に実施してきた施策を､ＥＳＤの理念に基づき地域と連携した教育としてコミュニティスクールの中に位置づけた。また、平成 31 年度から実施した「総合的な探究の時間」についても地域連携教育やユネスコスクールの中に位置づけていくこととした。

Ⅱ　実践内容

（１）本校のボランティア活動について
- 高校２学年のボランティア体験
- 通年のボランティア活動とボランティアセンター、ボランティアBANK 設立
- 地域の小中学校の連携と学習支援活動
- 生徒会と各クラブのボランティア活動　など

（２）国際交流について
- 留学生の受け入れ、派遣と姉妹校（山東省済南中学）との交流

（３）世界遺産教育について
- ふるさと学習（世界遺産教育）
- 語学部の高野山ガイド

（４）「総合的な探究の時間」について
- １学年の橋本市との連携
- ２年次の和歌山大学との連携による SDG　s

[高校２学年ボランティア体験]

[子ども食堂ボランティア]

EⅡ-1）

ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチング

― ネットを使った社会人向け実践報告 ―

長岡　素彦（一般社団法人 地域連携プラットフォーム　共同代表理事）

2030持続可能な開発アジェンダ(SDGs)はその全体のアジェンダのタイトル”Transforming our world”（私たちは世界を変革する)にあるようにサステナブルトランスフォーメーションであり、共生(1)による持続可能な開発による地域・世界づくりである。(2)

第74回国連総会決議「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030)」（以下、「ESD for 2030」とする）ではトランスフォーミング(変革する行動)する学習者の重要性も述べられた。

このトランスフォーミング(変革する行動)する学習者はSDGsチェンジエージェントである。SDGsチェンジエージェントは、環境、経済、社会の新たなトランスフォーメーションをすすめる「システム」のチェンジエージェント(変革の担い手)(3)であり、同時に、ひとりひとりが学びによって自身の行動、態度、ライフスタイルからトランスフォーメーションをすすめる「個人」としてのチェンジエージェント(変革の担い手)(4)の両方である。このことにより、システム・社会と個人のそれぞれのSDGsトランスフォーメーションをすすめることができる。そして、ESD for 2030の4.3において、このトランスフォーミング(変革する行動)としての学習プロセスが明示されている。

今まで､DESD期間中はESDワークショップを多数企画実施し､SDGs策定後はSDGsワークショップを行っている。(5)、また、これらのワークショップを考案、実施し、ワークショップを学的に分析し、改良(6)している。

今年度は、ESD for 2030のトランスフォーミング(変革する行動)としての学習プロセスにもとづいたESD･SDGsワークショップとコーチングを多数展開した。

註

(1)長岡素彦,2018,SDGs・持続可能な共生をすすめる ESD・地域連携教育,共生科学第9巻

(2)長岡素彦,2020,SDGsロードマップ -2030アジェンダ・SDGs よるトランスフォーム,武蔵野大学環境研究所紀要 9

(3)長岡素彦,2019,SDGsとSociety5.0の時代のESDと新らたなシチズンシップ―ESDとしてのSDGs―,　日本ESD学会大会

(4)長岡素彦,2020,ESD for 2030持続可能な開発アジェンダとMIL、デジタルシチズンシップ―科学技術イノベーション型の教育からESD for 2030への転換,メディア情報リテラシー研究,第2巻第1号,法政大学

(5)長岡素彦,2018,ESDとしてのSDGsワークショップー目的別のワークショップ「持続可能な未来」,日本ＥＳＤ学会大会

(6)長岡素彦他,2019,2030アジェンダ・SDGsを理解し，自分事化するためのワークショップの実践－6つの事例と自分事化のフェーズ,武蔵野大学環境研究所紀要 8

EⅡ-2）

使命感と成就感を大切にした国語科×総合の単元開発

中谷　栄作（橋本市立あやの台小学校）

Ⅰ　なんで勉強せなあかんの

いつの時代も子どもたちからのこの「ぜいたくな問いかけ」はなくなりません。教員11年目にしても、未だに感じます。この問いかけに答えることなくして、私たち教員は教鞭をとることはできないのではないでしょうか。

Ⅱ　なんでそこまでやらなあかんの

私はESDの推進に努めています。総合的な学習の時間を軸にしたカリキュラムマネジメントを行うことで、子どもたちが１つのテーマの元に収斂された学びを享受しつつ、多様な価値観を創出、醸成していけるような学校教育の実現を目指しています。その効果については評価と納得をいただく一方で、そこまで手間をかけることによって働き方改革とは逆行した流れを生み出しているのではないかという指摘もあります。

Ⅲ　ＰＢＬの実践から

そこで、ＰＢＬの実践を参考に、子どもたちが本気になれるようなミッションをつくり、それに向かう中で教科教育の目標を達成していく単元作りを行いました。例えば「ミツバチの絵を描いて植樹活動に貢献しよう」であれば、ミツバチを探して自然の豊かなミツバチの好む場所について知ったり、その特性や環境への寄与について調べたりしたうえで、絵に描いて応募をしました。みんなに伝える、賞をとる、という目的達成のためにがんばる内に、図工科の目的も達成していく、ということです。これであれば大きな負担増なしに子どもたちの学びを活性化させることができます。

Ⅳ　使命感と達成感をシェアすることが重要

ただＰＢＬの考え方を取り入れるだけでは、育つ資質能力について共通点はあれど、子どもたちに示す学びの方向性としてはばらけてしまいます。今回は５年生で環境をテーマに1年間実践を行っているので、国語科「」の単元において、環境をテーマにミッションを立て、子どもたちに課題を与えました。全６時間の単元で、最後に審査を関係教員によって行ってもらい、グランプリまで決めています。全員審査を通過できれば、自分たちが手に入れたいある資格に認定してもらえるのだから、真剣に頑張らねばならない。そんな使命感を共有した仲間となれば、教え合いも活発になります。そこで得た成就感が共有できれば、次の活動に向けての意欲にもつながります。そして1年間同じジャンルのテーマについて学ぶことを繰り返していくうちに、勉強する理由は自己実現のためであることが見えてくるのです。教科によって分断されないカリキュラムデザインについて今回提案させていただきます。

ＥⅡ-3）

概念変化に伴う価値観の変容

河野　晋也（大分大学教育学研究科）

Ⅰ　はじめに

Education2030プロジェクトにおけるポジション・ペーパーにおいて、「コンピテンシーの概念は，単なる知識及びスキルの獲得以上のものであり，複雑な要求に応えるために知識やスキル，態度及び価値を動員することを含む」ものとされ、それらの相互関係について言及されている。協調的学習によって構築された知識は、スキルを働かせることによって活用され、また態度や価値観によって媒介されるものである。つまり価値観の変容には知識の構築が伴い、また価値観が知識の構築を促進するということである。

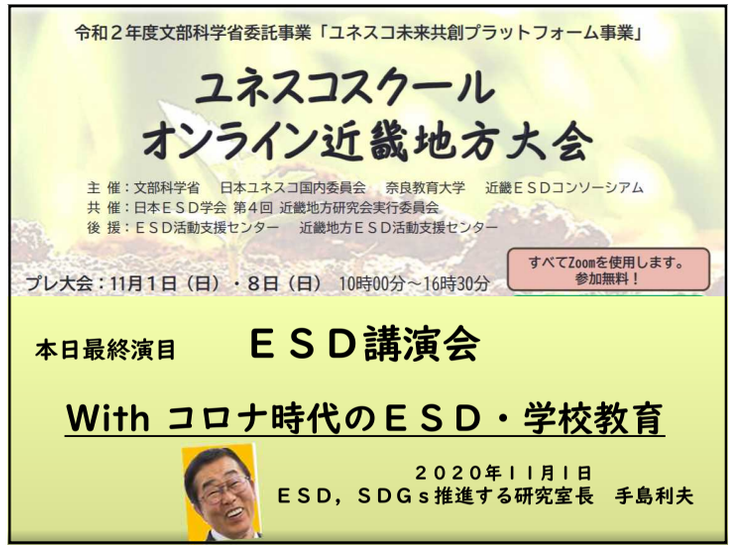
Ⅱ　参加メタファの学び

参加とはレイヴとウェンガー(1993)の正統的周辺参加を代表とする状況的学習論の視点に立った学習理論における学習者の役割のことであり、「役割を担うこと」「一部を担うこと」と同義である。参加メタファの学習に取り組むことで、学習者は、既存の知識を活用しつつ新たな知識の構築へ加担していくことになる。知識の構築については、上述のポジション・ペーパーにおいても、「他者との協力と共同により既存の知識から新しい知識を生み出すことを通して」価値の創造がなされると述べられており、知識の構築による価値観の変容は今後のESDにおいて重要なテーマとなりうる。

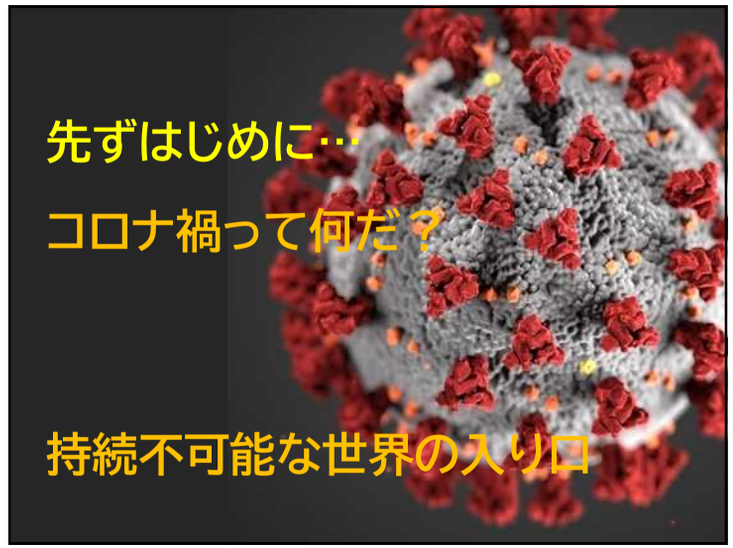
実際に、レイヴとウェンガーは、実践共同体の取り組みに参加することで、十全的参加、すなわち「共同体において中心的役割を担い、『一人前』としてのアイデンティティの感覚を得ること」に至ると述べる。実践に参加するということは、その共同体において重視されていること、優れているとされていること、善いとされていることを学んでいく価値観に関わる学びである。つまり実践共同体に属して行われる知識の構築は、その共同体が重視する価値観に左右されると言うことができる。その共同体内で、それまでにはできなかった知識を構築することができるということは、学習者の価値観が変容したと見なすことができる。

Ⅲ　知識の構築が起こる仕組み

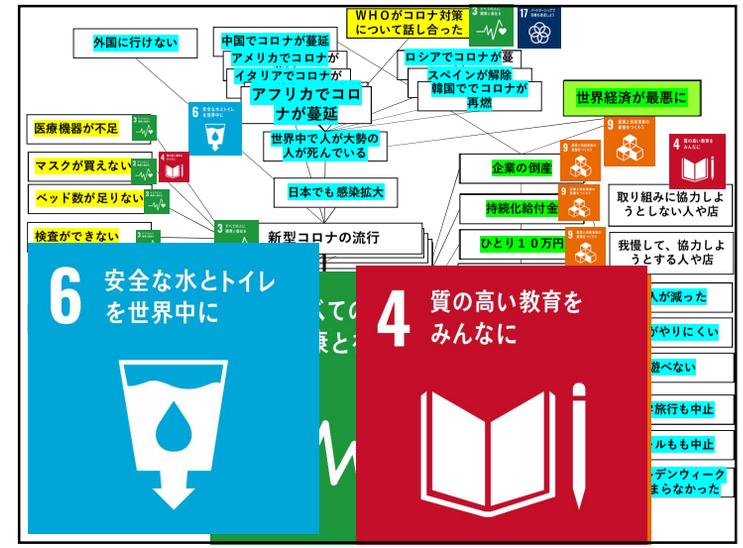
このように捉えれば、価値観の変容は知識の構築がなされるたび、実践のたびに新たな価値観を獲得することになってしまう。しかし実社会において、価値観の変容はそれほど頻繁に起きるものではない。このことを、断片的知識論を援用することで論じる。断片的知識論においては、知識の断片は無数に存在するが、実際に何かの課題や必要に際して、どんな断片的知識を呼び出すか、そして呼び出した知識を活用するかどうかは、それぞれの学習者の経験に基づく優先度に支配されているとされる。そのため知識の構築は容易に起きるものではない。この結びつき方は、価値観に大いに干渉されると考えられる。このように考えれば、ESDにおける価値観の変容は、どのように知識を構築しなおすかという再構成の過程で可能になると言うことができる。

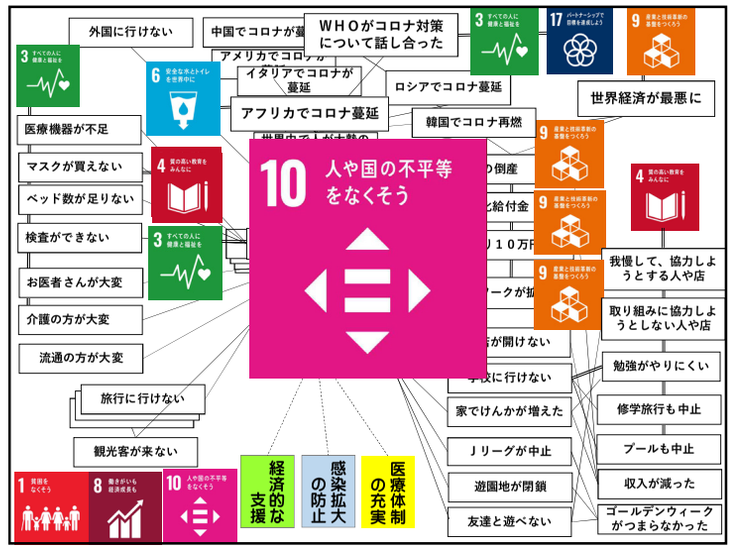

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」
ユネスコスクール
オンライン近畿地方大会
主 催：文部科学省　日本ユネスコ国内委員会　奈良教育大学　近畿ＥＳＤコンソーシアム
共 催：日本ＥＳＤ学会 第４回 近畿地方研究会実行委員会
後 援：ＥＳＤ活動支援センター　近畿地方ＥＳＤ活動支援センター
プレ大会：11月１日（日）・８日（日）　10時00分～16時30分
すべてZoomを使用します。
参加無料！
本日最終演目
ＥＳＤ講演会
With コロナ時代のＥＳＤ・学校教育
２０２０年１１月１日
ＥＳＤ，ＳＤＧｓ推進する研究室長　手島利夫

日本の学校教育が 大変ですよ！！
日本の学校教育が 大変ですよ！！
日本の学校教育が 大変ですよ！！
日本の学校教育が 大変ですよ！！
ＥＳＤ講演会


先ずはじめに…
コロナ禍って何だ？
持続不可能な世界の入り口

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年までに達成すべきゴールであると同時に・・・





コロナの感染拡大

感染予防→交通封鎖→経済の停滞→

倒産・廃業の増加

病気でで死ぬか、経済で死ぬか

コロナに目を奪われ、資金を奪われて、

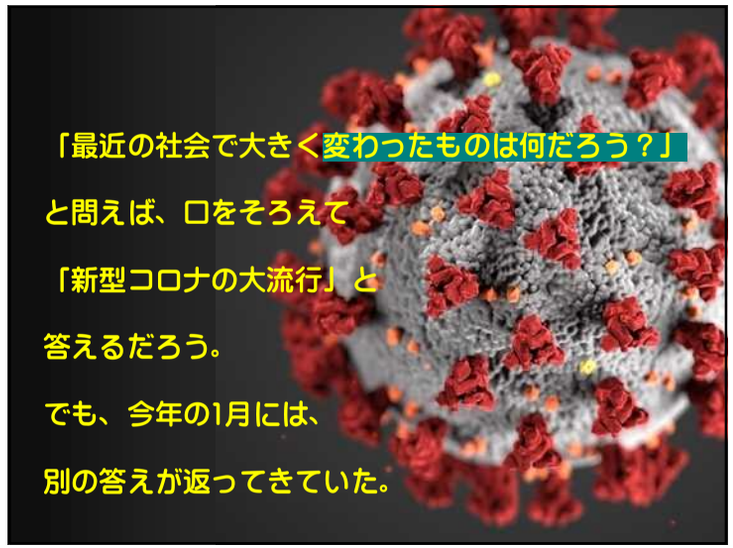
他への対応ができなくなり…、で終わるか

10:20

①変わりゆく時代の変化に合わせて、子どもたちの学びも変わっていく

②学習指導要領が改訂された・・学びを進化させる

③保護者・地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい・・社会に開かれた教育課程



「最近の社会で大きく変わったものは何だろう？」

と問えば、口をそろえて

「新型コロナの大流行」と

答えるだろう。

でも、今年の1月には、

別の答えが返ってきていた。

情報化の進展

スマフォの便利な点を5つ挙げてください。
ＳＮＳが使える。動画里帰り、スイカにもなる
情報が世界を瞬時に駆け巡り、世界を変える
・どんな知識も瞬時に取り出せる魔法の機械ですね。
・世界の５０億人の知脳がつながり、情報の共有が広がる。

防災・エネルギー問題の深刻化

もうすぐ１０年・・・

BIGLOBEニュースより　福島第一発電所航空写真

※ 東京弁護士会サイト写真展ポスターより

温暖化の影響

巨大台風の発生
（NHK**クローズアップ現代2013年11月18日フィリピン巨大台風の衝撃）**

中心気圧は900ヘクトパスカルを下回り、
最大瞬間風速は100メートルを超えます。

去年の秋に来たのが、台風15号であり、台風19号でした。

その勢力を保ったまま、台風は関東に直撃する可能性が指摘されていました。

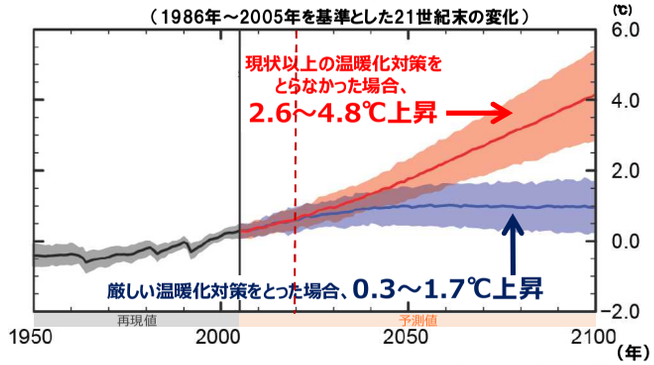
これ宇宙から見た台風ですが・・・

IPCC AR5より

21世紀末に最大で4.8℃上昇

世界の平均気温の変化の予測

（1986年～2005年を基準とした21世紀末の変化）



出典：IPCC AR5 WG1 政策決定者向け要約　図 SPM.7

今の世界はどちらに向かって　進んでいると思いますか。

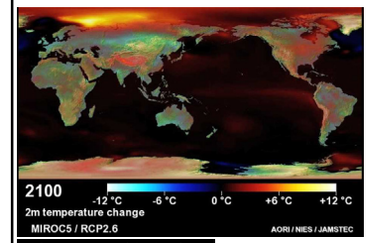
15

10:30

＊1986年～2005年を基準とした変化

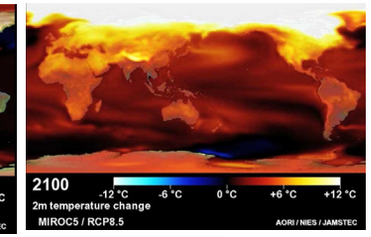
2100年までの気温変化の予測

厳しい温暖化対策を取った場合



地表から2メートルの高さの気温変化

現状以上の温暖化対策を取らなかった場合



地表から2メートルの高さの気温変化

今の世界はどちらに向かって　進んでいると思いますか。

16

ー　私たちの社会の現実　ー

・[　　]の感染症が拡大し、世界が大混乱
・情報機器の発達により[　　]がつながり、
・私たちの世界は激しく[　　]している。
・地球の[　　]は確実に進行している。
・変化は、加速度的に[　　]なっている。
・社会の[　　]が危うくなっている。
・[　　]だけではうまくやっていけない。
（私、自校、日本、人間）

子どもたちを取り巻く世界はグローバル化・情報化が進む中、激しく変化しております。

世界の条件が変われば、**物ごとの正解も**どんどん**変わります**。

決まった正解のない社会

そして、そのような時代に求められる**人間像**も大きく変わってきています。

ですから、求められる**教育**も変化しています。

そもそも、知識・理解中心の日本の「学力」は、そして、日本の教育は

今の世界で　どんな価値があるのでしょうか。

この後お示しする4枚のスライドは尾木直樹先生のご著書からお借りしたものです。

イギリスの教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションによる

2013、2014、2015、
3年連続1位

順　位	大　学	国
1	東京大学	日　本

2016　THEアジア大学ランキング

順位	大学名	国・地域
1	シンガポール国立大学	シンガポール
2	南洋理工大学	シンガポール
2	北京大学	中国
4	香港大学	香港
5	清華大学	中国
6	香港科技大学	香港
7	東京大学	日本
8	ポハン（浦項）工科大学	韓国
9	ソウル大学	韓国
10	韓国科学技術院	韓国
11	京都大学	日本
23	東北大学	日本
24	東京工業大学	日本
30	大阪大学	日本

アジアの中での大学の順位が
急　落

世界でも

2014年に20位だったのが

↓

2016年に39位

THE世界大学ランキング2016-2017

順位	大学名	国・地域
1	オックスフォード大学	イギリス
2	カリフォルニア工科大学	アメリカ
3	スタンフォード大学	アメリカ
4	ケンブリッジ大学	イギリス
5	マサチューセッツ工科大学	アメリカ
6	ハーバード大学	アメリカ
7	プリンストン大学	アメリカ
8	インペリアル・カレッジ・ロンドン	イギリス
9	チューリッヒ工科大学	スイス
10	カリフォルニア大学バークレー校	アメリカ
10	シカゴ大学	アメリカ
39	東京大学	日本
91	京都大学	日本
201 ～ 250	東北大学	日本
251 ～ 300	大阪大学	日本
251 ～ 300	東京工業大学	日本

出典：Times Higher Education：Asia University Rankings 2016, World University Rankings 2016-2017

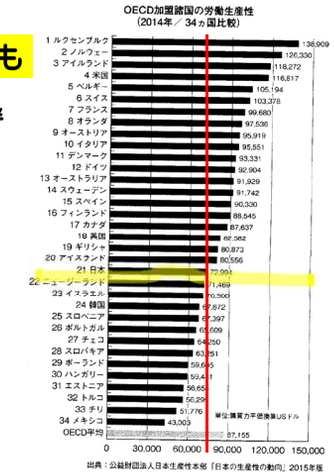
給料（労働生産性）でも

労働生産性はルクセンブルグの半分にしか評価されていない

これで同じ収入を得るには、ルクセンブルグやノルウェーの2倍の時間、働くしかない。

生産性の低い労働者に、他国と同じ給料を払ったら、経営は、すぐに破綻する。

シンガポールも香港もＯＥＣＤに加盟していないので出ていません。



日本の国際競争力

「経済状況」「政府の効率性」「ビジネスの効率性」「ビジネスインフラ」で評価している国際競争力
日本は、1992年までは1位をキープ、その後1997年に17位に急落し、2015年には27位まで凋落

IMD世界競　国際経営開発研究所（IMD）による世界競争力ランキング

	2009年	2010年	2011年	2012年
1	アメリカ	シンガポール	香港	香港
2	香港	香港	アメリカ	アメリカ
3	シンガポール	アメリカ	シンガポール	スイス
4	スイス	スイス	スウェーデン	シンガポール
5	デンマーク	オーストラリア	スイス	スウェーデン
6	スウェーデン	スウェーデン	台湾	カナダ
7	オーストラリア	カナダ	カナダ	台湾
8	カナダ	台湾	カタール	ノルウェー
9	フィンランド	ノルウェー	オーストラリア	ドイツ
10	オランダ	マレーシア	ドイツ	カタール
	日本（17位）	日本（27位）	日本（26位）	日本（27位）

	2013年	2014年	2015年	2016年
1	アメリカ	アメリカ	アメリカ	香港
2	スイス	スイス	香港	スイス
3	香港	シンガポール	シンガポール	アメリカ
4	スウェーデン	香港	スイス	シンガポール
5	シンガポール	スウェーデン	カナダ	スウェーデン
6	ノルウェー	ドイツ	ルクセンブルク	デンマーク
7	カナダ	カナダ	ノルウェー	アイルランド
8	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦	デンマーク	オランダ
9	ドイツ	デンマーク	スウェーデン	ノルウェー
10	カタール	ノルウェー	ドイツ	カナダ
	日本（24位）	日本（21位）	日本（27位）	日本（26位）

出典：IMD：World Competitiveness Ranking（2009-2016）

シンガポールでは、1997年に

「考える学校、学ぶ国家」というビジョンを打ち出し、

資質・能力を育むコンピテンシーベースの教育に舵を切り、

勉強から学習へ、また教授法の見直し等を進める

香港 教育コミッション（諮問会）では、2000年に

経済成長、雇用可能性の教育から、

社会に必要な人材、新たな世界に住む人々の質へ転換

「アジアにおける教育の質的変化」2019年9月5日教育新聞　木村大輔による

10:20

①変わりゆく時代の変化に合わせて、子どもたちの学びも変わっていく

②学習指導要領が改訂された・・学びを進化させる

③保護者・地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい・・社会に開かれた教育課程

このような現実を前に、日本の
学校教育 を変えるとしたら、

どのように変えていく
必要があるのでしょうか。

これからの時代に皆さんが重要だと思う教育上のキーワードを書いてください。
・

日本としての教育政策のお話です

今回の改訂では、
学習指導要領に前文がつきました。

法令に前文が加えられるって、滅多にありません。

今回の学習指導要領には、これが書き加えられたのです。
改訂の「理念」を特に強調するためのものです。

学習指導要領の前文や総則からは、これからの世界に向けた教育理念（前文）や具体策（総則）が見えてきます。
日本の教育施策の中に、どのような理念や具体策が書かれているか、確かめましょう。

に，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓 き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが，各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して，これからの時代に求められる教育を実現していくためには，よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら，社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという，社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは，こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは，公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また，各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学

英語教育もギガ・スクールも、プログラミングも書かれていません！理念ではないからですね。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え，一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは，教職員をはじめとする学校関係者はもとより，家庭や地域の人々も含め，様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に，中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら，児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して，ここに小学校学習指導要領を定める。

これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，**一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓 き，持続可能な社会の創り手となる**ことができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが，各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して，これからの時代に求められる教育を実現していくためには，よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら，社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという，**社会に開かれた教育課程の実現**が重要となる。

学習指導要領とは，こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは，公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また，各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら，児童や地域の現状や課題を捉え，家庭や地域社会と協力して，学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え，一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは，教職員をはじめとする学校関係者はもとより，家庭や地域の人々も含め，様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に，中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら，児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して，ここに小学校学習指導要領を定める。

これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓 き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが，各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して，これからの時代に求められる教育を実現していくためには，よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら，社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという，社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは，こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは，公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また，各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら，児童や地域の現状や課題を捉え，家庭や地域社会と協力して，学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

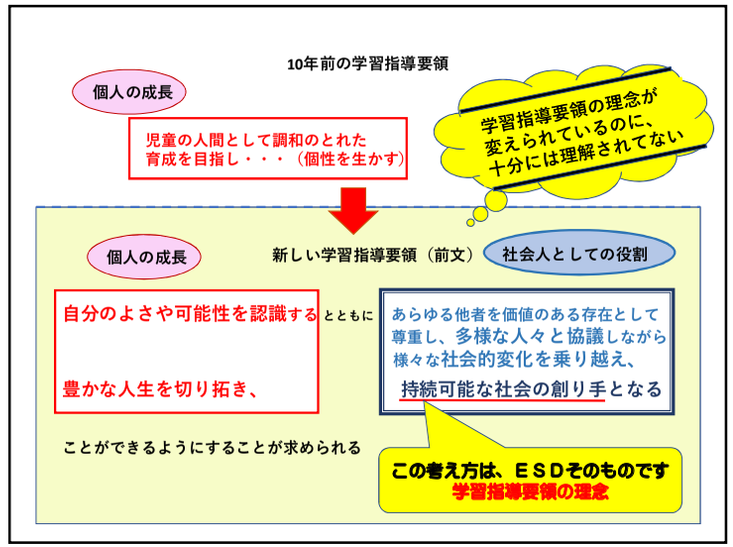
児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え，一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは，教職員をはじめとする学校関係者はもとより，家庭や地域の人々も含め，様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に，中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら，児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して，ここに小学校学習指導要領を定める。

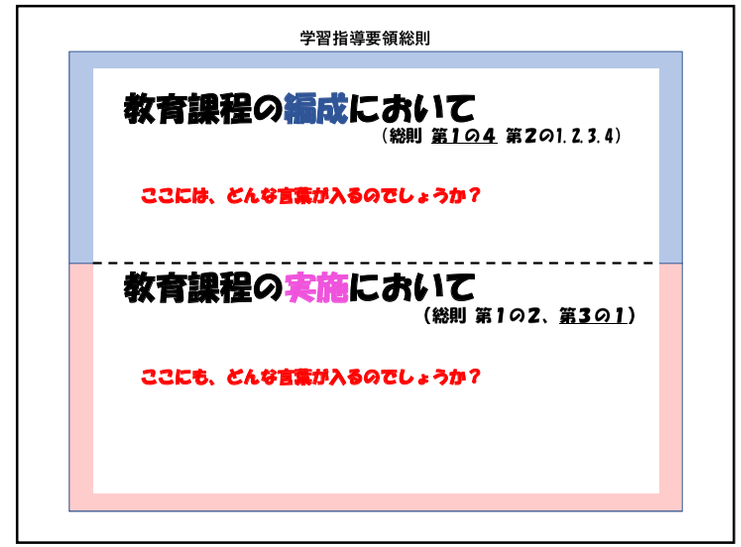
これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，**一人一人の児童が，自分のよさや可能性を認識する**とともに，**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓 き，持続可能な社会の創り手となる**ことができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが，各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

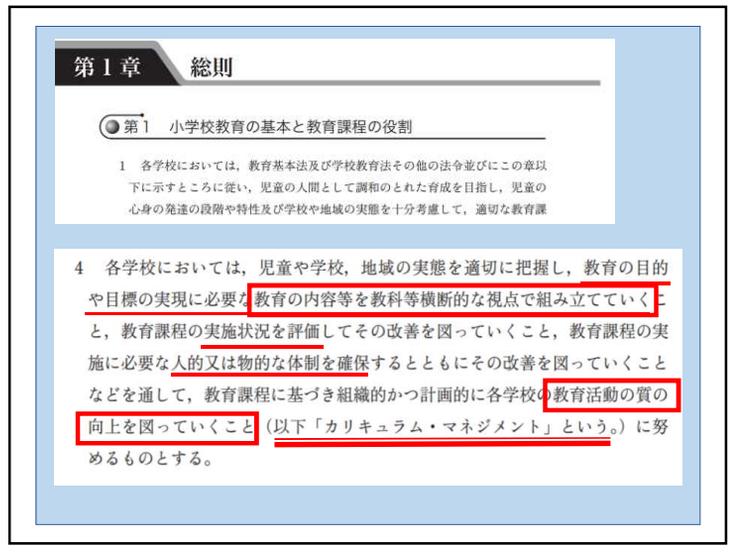
教育課程を通して，これからの時代に求められる教育を実現していくためには，よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し，それぞれの学校において，必要な学習内容をどのように学び，どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら，社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという，**社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。**

学習指導要領とは，こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは，公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また，各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね，長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら，児童や地域の現状や課題を捉え，家庭や地域社会と協力して，学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え，一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは，教職員をはじめとする学校関係者はもとより，家庭や地域の人々も含め，様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に，中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら，児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して，ここに小学校学習指導要領を定める。





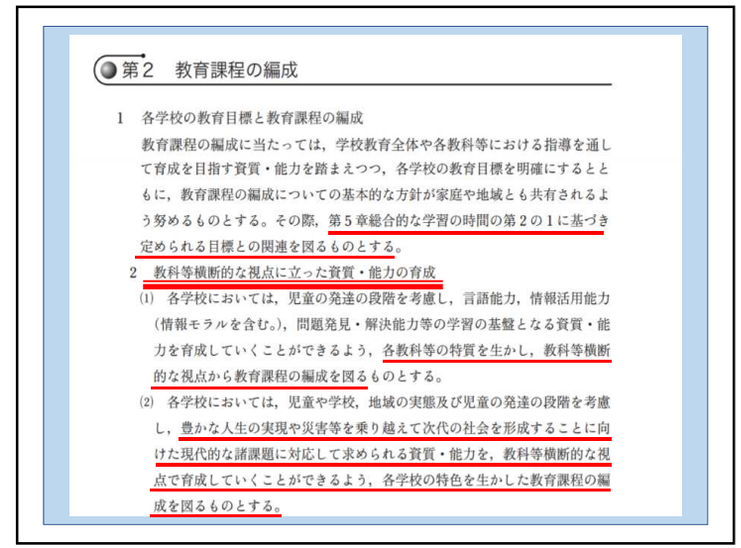


第１章　総則

第１　小学校教育の基本と教育課程の役割

1　各学校においては，教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い，児童の人間として調和のとれた育成を目指し，児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して，適切な教育課

4　各学校においては，児童や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。



第２　教育課程の編成

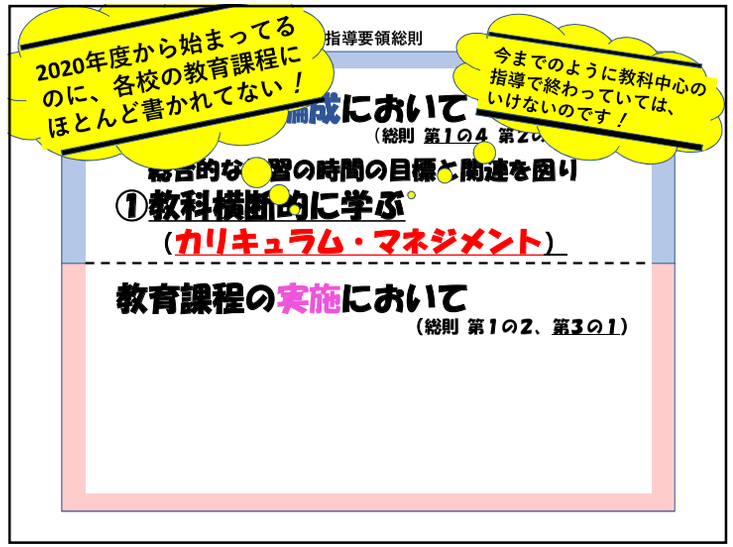
1　各学校の教育目標と教育課程の編成

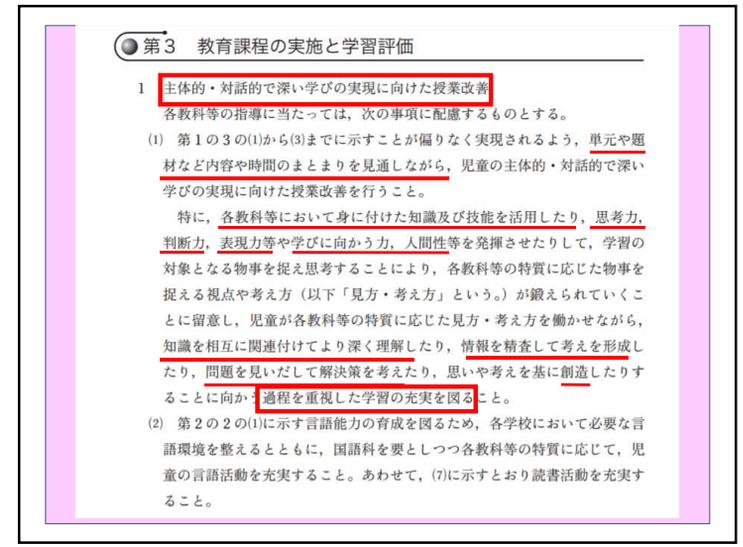
教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，各学校の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際，第５章総合的な学習の時間の第２の１に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2　教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1)　各学校においては，児童の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。），問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

(2)　各学校においては，児童や学校，地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し，豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を，教科等横断的な視点で育成していくことができるよう，各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。





第3　教育課程の実施と学習評価

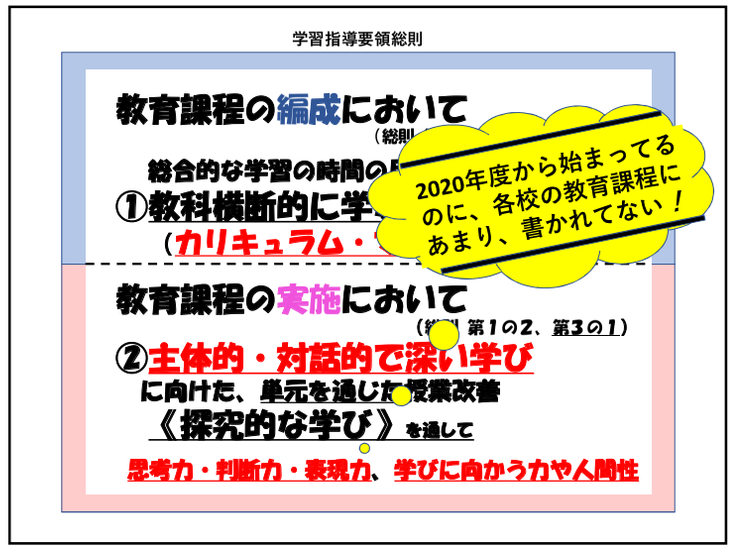
1　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

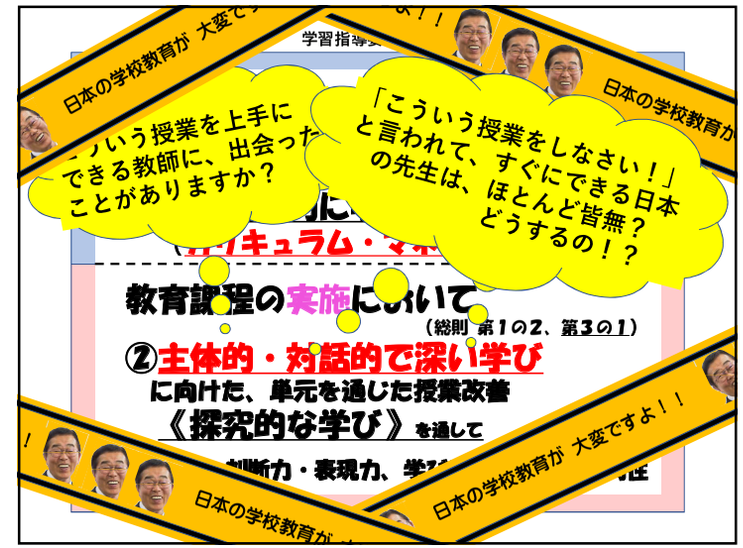
各教科等の指導に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に，各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等を発揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し，児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

(2)　第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため，各学校において必要な言語環境を整えるとともに，国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて，児童の言語活動を充実すること。あわせて，(7)に示すとおり読書活動を充実すること。



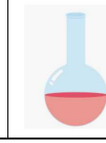
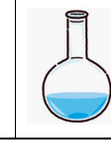


それでも、これらの課題に取り組もうとしている学校は、どれくらいあるのでしょうか。
皆さんの学校では、これらの理念や方針をどのように捉え、具体化しようと、しているでしょうか。

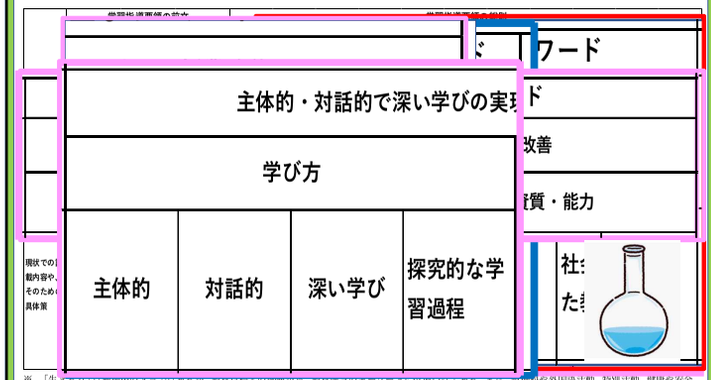
「各校の教[illegible]経営計画やグランドデザインをおし[illegible]

これから試薬を使って、現場検証をはじめます！！

学習指導要領の理念や、編成及び実施の要点 検査キット

	学習指導要領の前文			学習指導要領の総則										
	教育理念のキーワード			教育課程の編成に関するキーワード				教育課程の実施に関する主なキーワード						
	持続可能な社会の創り手の育成など、教育目標に直結するキーワード			カリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上				主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善						
								学び方				資質・能力		
教育改革のキーワード	持続可能な社会の創り手	生きる力	社会に開かれた教育課程	カリキュラム・マネジメント	教科等横断的指導	総合的な学習の時間の充実	言語、情報活用、問題発見・解決等の能力	主体的	対話的	深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
現状の教育課程への記載の有無														
現状での記載内容や、そのための具体策														

検査キットの主成分とその構成



※ 「生きる力」は総則中の文言ではあるが、教育目標との関連から、教育理念のキーワードに位置づけてある。また、道徳科や外国語活動、特別活動、健康や安全、発達の支援等に関して記述しきれていない点については、ご理解の上ご活用いただきたい。なお、「探究的な学習過程」については、第２の１の「総合的な学習の時間…との関連を図る」を踏まえて記載してある。ここに示した全てのキーワードを教育課程に盛り込まなくてはいけないという意味ではない。チェックリストとしてご活用いただきたい。重要なのはこれらを踏まえて、どのように教育活動の充実を図り、児童・生徒の成長につなげるかという具体策の中身である。

学習指導要領の理念や教育課程編成の指針を踏まえた学校づくり

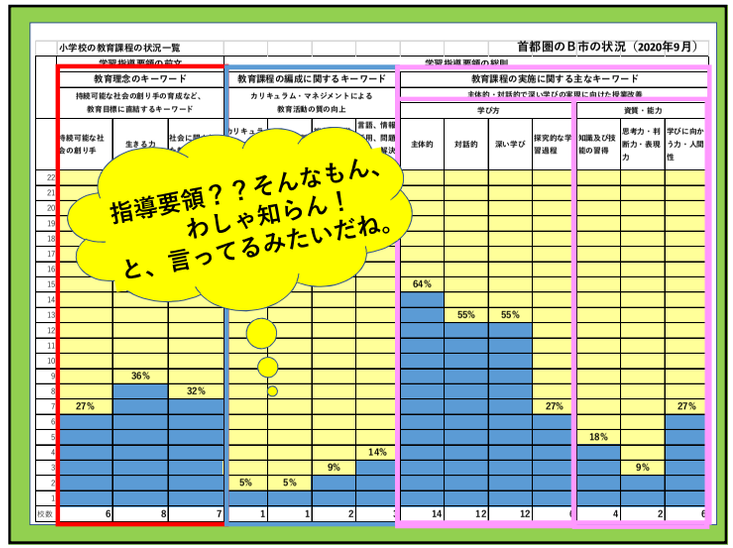
ＥＳＤを踏まえた学習指導要領の視点から教育課程を見直す

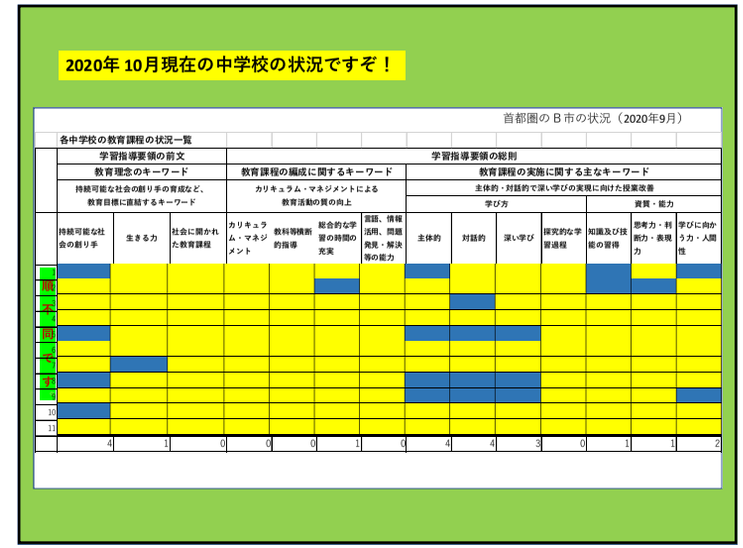
白方小学校のホールスクール・アプローチ
デザインシート上のキーワードをあてはめる。

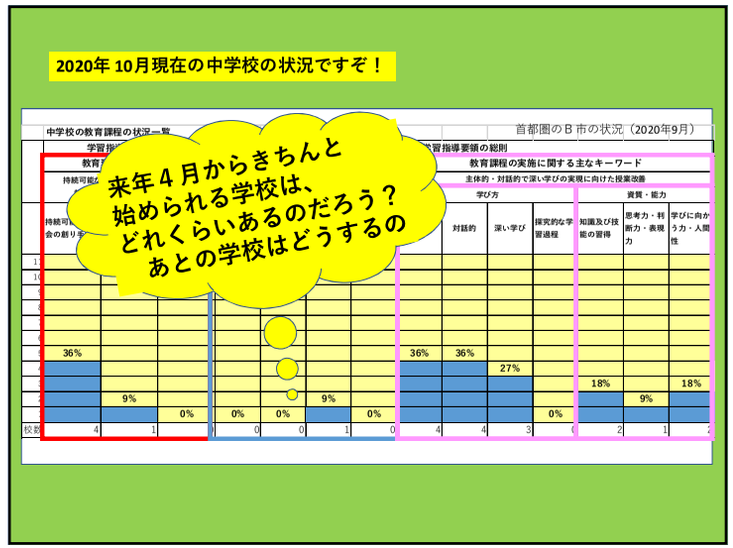
	学習指導要領の前文			学習指導要領の総則										
	教育理念のキーワード			教育課程の編成に関するキーワード				教育課程の実施に関する主なキーワード						
	持続可能な社会の創り手の育成など、教育目標に直結するキーワード			カリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上				主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善						
								学び方				資質・能力		
教育改革のキーワード	持続可能な社会の創り手	生きる力	社会に開かれた教育課程	カリキュラム・マネジメント	教科等横断的指導	総合的な学習の時間の充実	言語、情報活用、問題発見・解決等の能力	主体的	対話的	深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
現状の教育課程への記載の有無	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—
現状での記載内容や、そのための具体策	持続可能な未来を切り拓く児童 地域との連携事例			カリキュラム・マネジメント 教科等横断的 総合的な学習の時間 探究的な学び				主体的・対話的で深い学び 探究的な学習				思考力 （判断力） 表現力		

※ 「生きる力」は総則中の文言ではあるが、教育目標との関連から、教育理念のキーワードに位置づけてある。また、道徳科や外国語活動、特別活動、健康や安全、発達の支援等に関して記述しきれていない点については、ご理解の上ご活用いただきたい。なお、「探究的な学習過程」については、第２の１の「総合的な学習の時間…との関連を図る」を踏まえて記載してある。ここに示した全てのキーワードを教育課程に盛り込まなくてはいけないという意味ではない。チェックリストとしてご活用いただきたい。重要なのはこれらを踏まえて、どのように教育活動の充実を図り、児童・生徒の成長につなげるかという具体策の中身である。

※ 本資料は「ＥＳＤ、ＳＤＧｓを進める手島利夫の研究室」の新着情報コーナー https://www.esd-tejima.com/newpage6.html に 2020 年 9 月 13 日付け掲載中



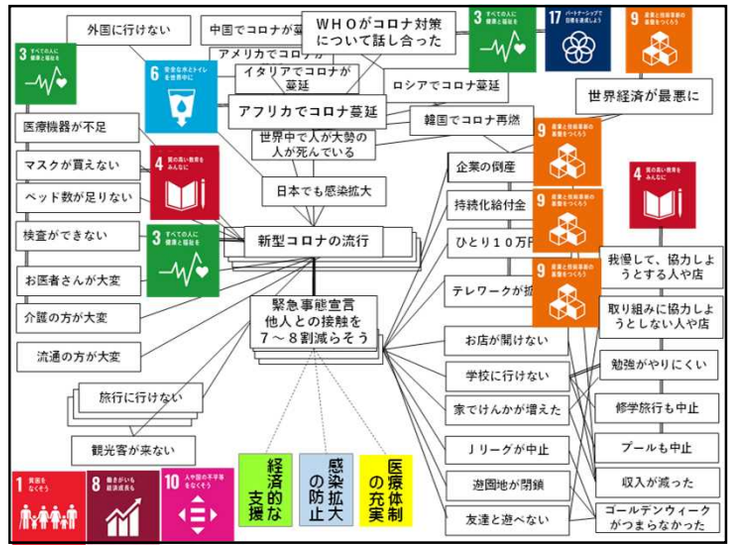




昔は、教科の内容を教えるだけで良かったのに、

どうしてカリキュラム・マネジメントなどと

いうことが、求められるようになったのでしょうか。



でも、日本中の学校でカリキュラム・マネジメントがきちんと理解されていない！

「マネジメント」という言葉が災いして、
「働き方改革」や「業務の効率化」だと、
間違えた解説のために、
教育的価値のないものと見なされ、各校で取り上げられていないから と思われます。

働き方改革に取り組んだって、子どもたちが賢くなるわけではありません。

本当は、
「カリキュラムをマネジメントすること」なのです。

・・総合的な学習を教科横断的に計画し、進めることなのです。

カリキュラム・マネジメントの本質についての手島の考え

文部科学省学習指導要領解説
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

新しい学習指導要領で目指すこと

新しい学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を3つの柱で整理しました。

ここで「教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント」と言っておきながら、あとで、変なことを言い出さないこと。

このような資質・能力を育成するため、各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて紹介します。

2

文部科学省学習指導要領解説
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

基本の考え方

カリキュラム・マネジメントとは

「教育課程を中心に」教育課程をつくるのかな？

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

何をどうやるのか、伝わってきませんね。本当は、「総合的な学習の時間を中心に、教科等横断的に学びを関連づけた教育課程を創ること」が重要なのです。

文部科学省学習指導要領解説
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

カリキュラム・マネジメントの3つの~~側面~~

教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる

これは側面ではなく、中心課題です。

学校教育の効果を常に検証して改善する

地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

文部科学省学習指導要領解説
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

大切にすること

各学校のカリキュラム・マネジメントを充実させることは、~~新たな取組を追加することではありません。~~

カリキュラム・マネジメントは今回の学習指導要領に加えた、最大の新たな視点です。「寝ぼけた解説」をするから、各学校が本気にならないのです。

学校の様々な~~業務の効率化を図ることにより~~、カリキュラム・マネジメントの~~充実~~につなげていきます。

学校の業務を効率化させたいのなら、行政からの依頼や調査を減らすのが効果的です。カリキュラムをマネジメントするの！

カリキュラムをマネジメントするということは、

従来、教科・領域ごとに指導してきたを内容を

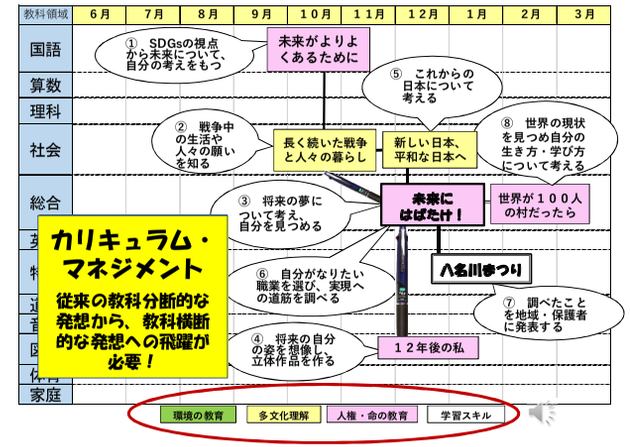
特別活動
特別の教科道徳
外国語

各教科

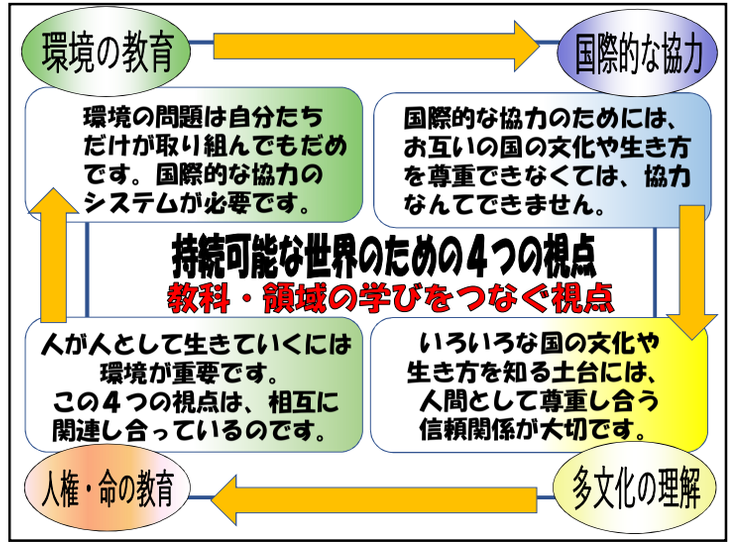
生活科
総合的な学習の時間

深い学び を創ること

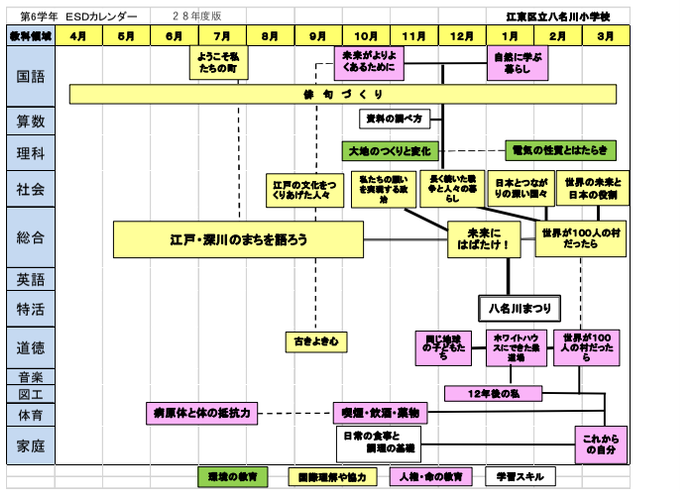
第６学年　「未来にはばたけ」学習カレンダー　　江東区立八名川小学校



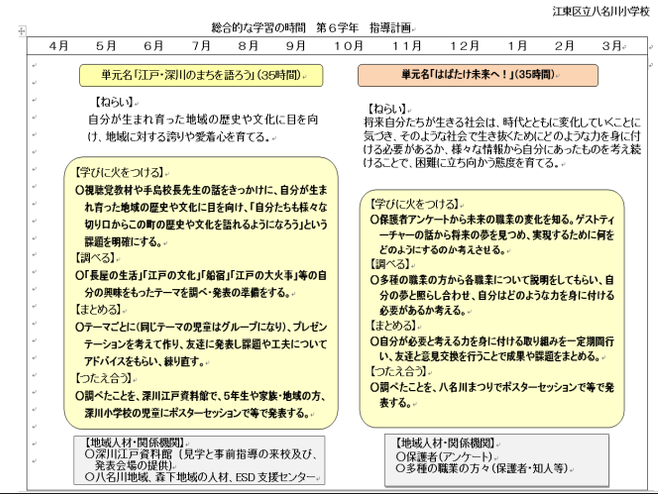
カリキュラム・マネジメント
従来の教科分断的な発想から、教科横断的な発想への飛躍が必要！



これは、ＥＳＤカレンダーといって、教科横断的な学習指導のイメージマップなんですよ。



ＥＳＤカレンダーと、この具体的な指導計画がセットになっていることが重要です。


江東区立八名川小学校

総合的な学習の時間　第６学年　指導計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

単元名「江戸・深川のまちを語ろう」（35時間）

【ねらい】
自分が生まれ育った地域の歴史や文化に目を向け、地域に対する誇りや愛着心を育てる。

【学びに火をつける】
○視聴覚教材や手島校長先生の話をきっかけに、自分が生まれ育った地域の歴史や文化に目を向け、「自分たちも様々な切り口からこの町の歴史や文化を語れるようになろう」という課題を明確にする。
【調べる】
○「長屋の生活」「江戸の文化」「船宿」「江戸の大火事」等の自分の興味をもったテーマを調べ・発表の準備をする。
【まとめる】
○テーマごとに（同じテーマの児童はグループになり）、プレゼンテーションを考えて作り、友達に発表し課題や工夫についてアドバイスをもらい、練り直す。
【つたえ合う】
○調べたことを、深川江戸資料館で、5年生や家族・地域の方、深川小学校の児童にポスターセッションで等で発表する。

【地域人材・関係機関】
○深川江戸資料館（見学と事前指導の来校及び、発表会場の提供）。
○八名川地域、森下地域の人材、ESD支援センター。

単元名「はばたけ未来へ！」（35時間）

【ねらい】
将来自分たちが生きる社会は、時代とともに変化していくことに気づき、そのような社会で生き抜くためにどのような力を身に付ける必要があるか、様々な情報から自分にあったものを考え続けることで、困難に立ち向かう態度を育てる。

【学びに火をつける】
○保護者アンケートから未来の職業の変化を知る。ゲストティーチャーの話から将来の夢を見つめ、実現するために何をどのようにするのか考えさせる。
【調べる】
○多種の職業の方から各職業について説明をしてもらい、自分の夢と照らし合わせ、自分はどのような力を身に付ける必要があるか考える。
【まとめる】
○自分が必要と考える力を身に付ける取り組みを一定期間行い、友達と意見交換を行うことで成果や課題をまとめる。
【つたえ合う】
○調べたことを、八名川まつりでポスターセッションで等で発表する。

【地域人材・関係機関】
○保護者（アンケート）。
○多種の職業の方々（保護者・知人等）。

平成２６年１０月８日　参議院予算委員会にて（ＮＨＫ国会中継画面より）

持続可能な開発のための教育を視野に、ＥＳＤカレンダーの活用をしてはいかがか。

江東区立八名川小学校の取り組みについては承知している。ＥＳＤカレンダーは、ユネスコスクールだけでなく全国の学校教育に広めていきたい。

（公明党荒木参議院議員）

これが**カリキュラム・マネジメント**として、指導要領に示されていく。でも、**へたくそな命名！**

◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた **授業改善** を通して、生きる力を育むことを目指す。

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得 と活用
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- 主体的学習態度や多様な人々との協働
- 豊かな心や創造性の涵養
- 学びに向かう力、人間性等

学習規律

ベーシックドリル

などが、どうしたら自然に身についてくるの。
詰め込み教育をすると主体性も、豊かな心も育ちにくい。
別々にやろうとしても時間ばかりかかる！
だから

ＥＳＤカレンダーを工夫して、その中で学習をつなげカリキュラム・マネジメントすることで、活用能力を高める。

問題解決的な学習過程を重視して、その中に、対話的な協働場面を位置づけることで問題解決能力を高める。

主体的・対話的な学習過程

【学びに火をつける】 ⇨【調べる】 ⇨【まとめる･実行する】 ⇨【伝え合う】

単元全体に関わる大きな問題意識を共有することが重要。目標に向けて、教師の仕掛ける能力が成否を分ける。下に示した「火をつける３つのステップ」を意識して指導する。

「計画する→調べる」というステップ。予想を立て、何時間で、どんな方法で、だれに聞いて、どこに行って、どうやって調べるか、どのようにまとめ、それを誰に伝えるかなど

ポートフォリオ等を活用しながら、効率よくまとめる。
発表練習では、助言カード等を活用する。
友達と練習の交流をさせることで、説得力のある結論が導き出せる。

〇〇報告会、八名川まつり（ＥＳＤ学習まつり）など、子どもたちが、学年や学校・地域を越えて発表したり、行動したりする場を設定する。自ら考えたことを進んで実行させる。

1.出会う	2.気付く	3.問題意識をもつ
①体験活動や資料をもとに基本的な事実と出会い, 共有する ②多様な気づきや感想を共有する	①教師が提示したり、子どもが調べたりして合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す	①グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理して学習問題化する ②問題について予想をする
親しみ・憧れ・共感	それらをひっくり返す	疑問から学習問題へ

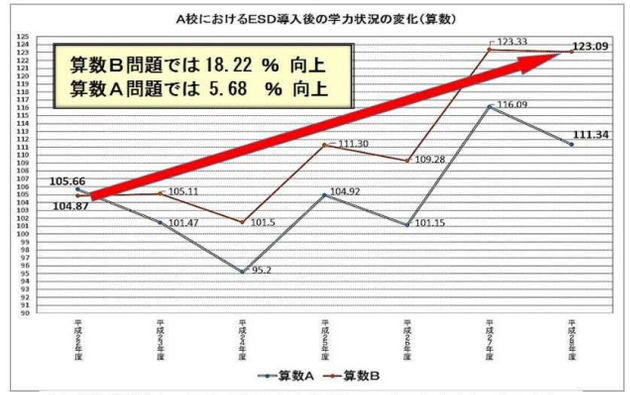
学びのコーディネーターとして指導計画をデザインし、地域にある素材を生かし、主体的で対話的な学びづくりをします。それができないと、教師としてやっていかれない時代になりました。先生方、がんばりましょう！

『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ

① ＜問題に気づかせる＞	② ＜　火をつける　＞	③ ＜テーマを決める＞
1) 体験活動や提示資料をもとに基本的な事実と出会う 2) 体験したり資料を見たりしたことから、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する	3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す	4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる 5) 問題について、自分なりの予想をする
親しみ・憧れ・共感	それらをひっくり返す	疑問から学習問題へ

総合的な学習を中心にカリキュラムを工夫し、学びに火をつける指導を心がける。

1年や2年で結果は出ませんでした。でも、結果が出始めると、雪だるま式に向上します。



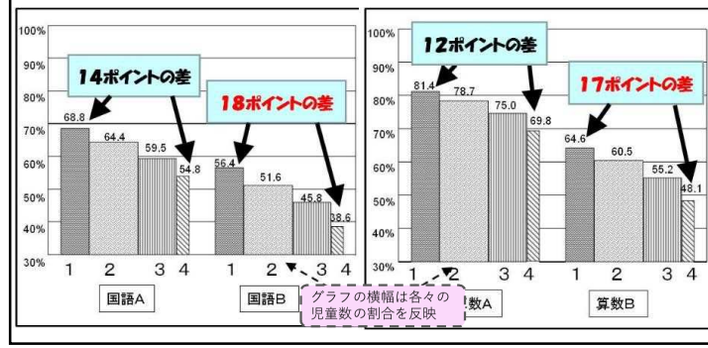
Bの《活用能力》を　15％、18％　向上させるって、とても大変なことですよ。

総合的な学習の時間と学力との相関

H25全国学力・学習状況調査（小学校6年生）

「「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

＊「1　当てはまる」「2　どちらかといえば、当てはまる」
「3　どちらかといえば、当てはまらない」「4　当てはまらない」



総合的な学習の時間と学力との相関

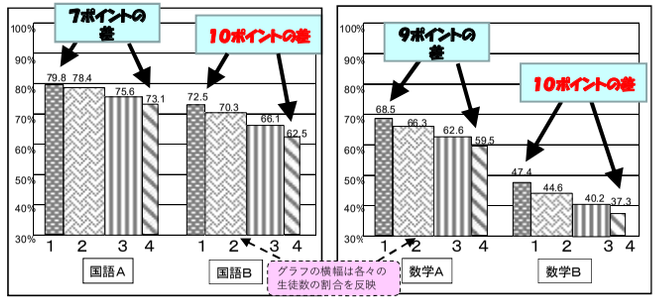
H25全国学力・学習状況調査（中学校3年生）　**中学校でも同じ！**

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

＊「1　当てはまる」「2　どちらかといえば、当てはまる」
「3　どちらかといえば、当てはまらない」「4　当てはまらない」

「総合的な学習の時間」の趣旨に即した活動に取り組んでいる生徒ほど、平均正答率（特にＢ問題）が高い。

その差が小学校に比べて小さいのが課題。



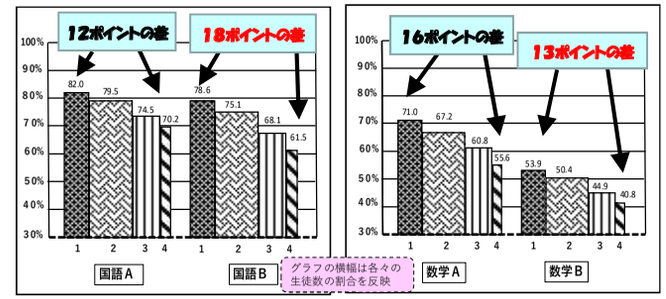
総合的な学習の時間と学力との相関

H29全国学力・学習状況調査（中学校3年生）　中学校で大きな改善が進行中！

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

＊「1　当てはまる」「2　どちらかといえば、当てはまる」
「3　どちらかといえば、当てはまらない」「4　当てはまらない」

その後、中学校の「総合的な学習の時間」の充実が進んだようで、「4　あてはまらない」生徒との平均正答率の差が年々拡大しています。



学力以外での児童の変化

① 学習全般に対する積極性が高まる　意欲

② 子ども同士の人間関係が穏やかになる　信頼

③ 誰の意見に対しても尊重し、聞き合えるようになる　対話

④ 大人に対する信頼感が高まる　信頼

⑤ どの学年もプレゼン能力が飛躍的に高まる　表現力

⑥ 全校集会など、児童の活動が主体的になり、質も向上　主体性　学びの質の向上

⑦ 高学年が頼りになる　自覚

教員の変化　、保護者や地域の変化

① 子どもを怒鳴りつけるような指導が影を潜め、　指導力の向上意欲　指導法の改善

② 子どもの学びに火をつける工夫をしようとする

③ 的確な指示・説明や称揚が増える　指導力の向上意欲　カリキュラム・マネジメント

④ 前年までの指導を共有・改善し、授業を進化させる

⑤ この学校で働けることに誇りと喜びを感じる

⑥ 保護者アンケートが感謝の言葉で始まるようになった　開かれた教育課程づくりへ

⑦ 保護者・地域は参観から参画へ、そして協力者へ

校長として気をつけていたこと

① 学校の最終責任者は校長　（問題から逃げない）

② 自分と異なる意見の教員の声にこそ耳を傾ける

③ 教師を委縮させるような指導をしない

④ 教育課程全てを職員とともにESDの視点で見直す

⑤ （児童）SDGsまつり・（職員）ESD実践交流会の継続

⑥ 職員に名刺を作って持たせる（開かれた学校の基本）

⑦ 学校とESDの営業に徹する

令和元年の八名川まつりＥＳＤパワーアップ交流会は、10月19日（土）。児童の発表内容・研究交流の時程等は、江東区立八名川小学校ホームページからご確認ください。

第7回八名川まつり発表内容

1年　秋のおもちゃの店
ドングリやまつぼっくりで楽しもう

2年　うごくおもちゃ大しゅう合
ゴムで、風で、坂道で・・・いっしょにあそぼ！

3年　八名川タイムトラベル
町の史跡や道具を調べて語ります。

4年　やさしさパワーアップ大作戦
妊婦さん・外国人・お年寄り・・・・

5年　今やろう！
地震から身を守る備えを！
保護者や地域の方と備えを語る

6年　未来にはばたけ！
～小学校卒業研究～
キャリアの視点から将来設計と学び方を語る

八名川まつりのような
「全校児童（生徒）によるＥＳＤ学習発表プレゼンまつり」
をすることの価値

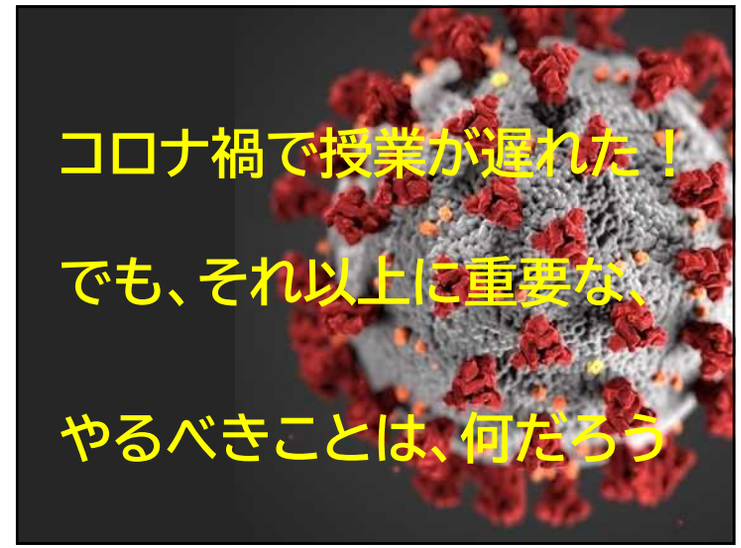
① 一人一人の子どもが、「大人から子どもまで様々な世代の方に向かって、自分の学びを、何回も語る。」という経験ができる。
人に伝える中で、自分の学びへの深い理解が進む。
② 多くの人に認められ、自信と誇りと課題意識が育つ。
③ テーマごとにグループを作って学び・まとめ・発表することで、開かれた学年ができる。
④ あこがれをもって上級生の取り組みを見る中で、毎年、無意識のうちに、前年の取り組みを越えようと工夫され、全校の学びの質が、自動的に高まる。

これを教育課程に位置づけるのもカリキュラムマネジメントです

最近、ＳＤＧｓのロゴを目にするようになりました。そのこと自体は悪いことではないのですが、ばらばらに、部分的な取り組みを、コンクールや競争的に進めても、ダメなのです。

ＥＳＤ for ＳＤＧｓ

ちょっと取り組んで達成できるような甘いものは一つもありません。そこには、深い理解や学びを通じた、本気で考える人づくりが欠かせないのです。全国の学校でやらないとだめです。



ここで、子どもの声にも

耳を傾けてみましょう。

ところでみんな・・・、

学校教育を変えられる、素敵な大人ってだ～れ？

子どものためにと言いながら…

「学力向上」や「知・徳・体」にしがみついて

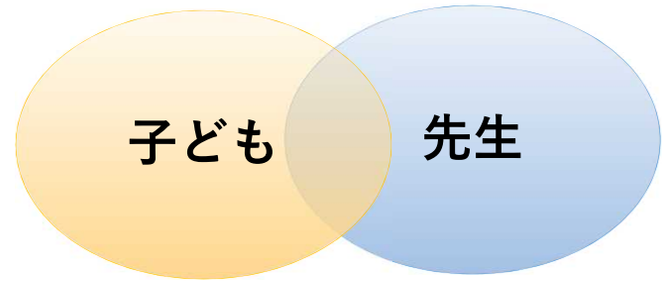
いつまで、
時代遅れの教育を引きずっているの？

ESDの授業づくり

奈良教育大学次世代教員養成センター
特任准教授　　大西　浩明

楽しくなければ授業じゃない

だれが？



楽しくなければ授業じゃない

「楽しい」って？

わかった！

できた！

自分の力で

みんなといっしょに

探究的な学び

課題の発見・教師による提示

既有の見方・考え方を用いた仮説の作成

調査活動

調査結果に基づく話し合い

留保条件付きの解決（自分の生き方への問い直し）

発信・行動化

協働的な学習・活動

ESDの授業を構想する際には･･･

その題材（教材）を通して学習することで、

どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか
どんなESDの資質・能力を育てることができるのか
どのようにESDの価値観を変革させようとするのか
どのようなESD的な行動化を求めようとするのか

↓

SDGsの何を達成することに貢献するのか

学習展開の構想

教科書超え

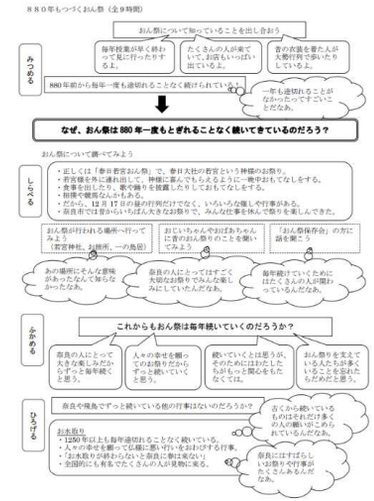
ＥＳＤやＳＤＧｓに関する知識

確かな教材解釈　　子ども理解

単元デザイン力

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの



小学校４年
「880年もつづくおん祭」

単元の目標

・「おん祭」は，奈良の人々の生活の安定と向上を図ろうとする人々の願いが込められたものであり，祭りを保存・継承するために工夫や努力を続けてきたから，880年も一度も途切れることなく行われていることを，見学や聞き取りなどから必要なことがらを見たり聞いたりして理解する。（知識・技能）
・「おん祭」が，奈良の人々の幸せなくらしを願ってのものであることや，880年も一度も途切れることなく続けられてきたわけを，調べたことを基に考え，適切に表現する。（思考・判断・表現）
・「おん祭」に関心をもち，一度も途切れず続いてきたことについて意欲的に調べたり考えたりするとともに，大切に守り続けていこうとする態度をもつ。（主体的に学習に取り組む態度）

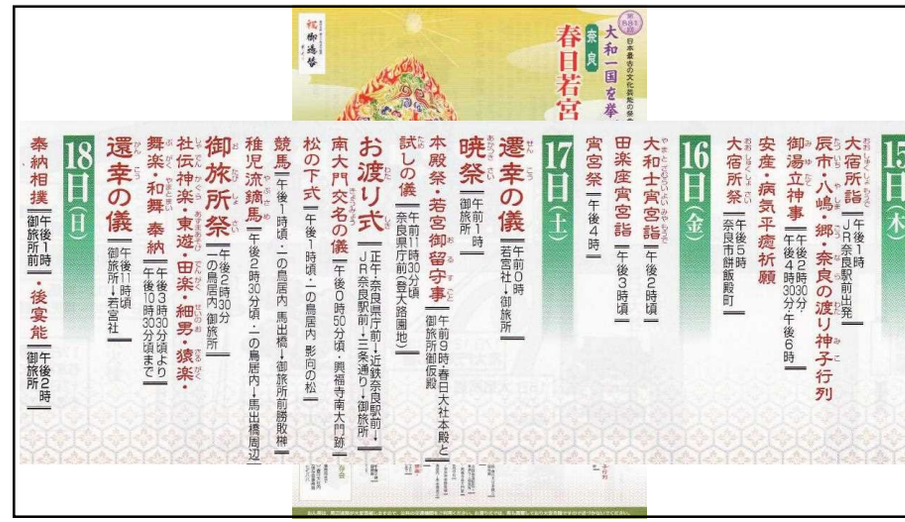
12月15日～18日
17日　時代行列
↓
お渡り式（おわたりしき）
はじまったのは
1136年

880年　一回もとぎれていない

おんまつりって、いったい何の、どんなおまつりなのだろう？

春日若宮神社の若宮という神様を
外に連れ出して、おもてなしをする。

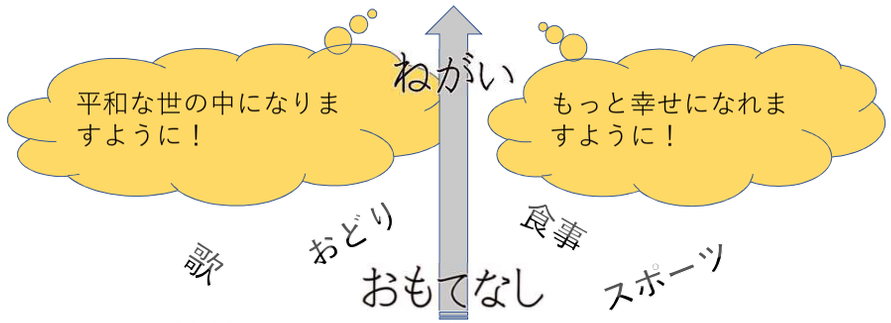
春日若宮おんまつり



おんまつりって、いったい何の、どんなおまつりなのだろう？

おんまつりって、いったい何の、どんなおまつりなのだろう？

春日若宮という神様



（神社の）おまつり　ー　人々のねがい

むかしのおんまつりとくらべて・・・

ちがうところ

・今より店が多かった（今はないような店）
　カニ、ひよこ、植木のなえ、ぼんさい
　正月用品
　おひゃくしょうさんが仕事でつかうもの
　山仕事につかうもの、
・サーカス
・かめつり、ひよこつり、ハムスターつり
・型ぬき
・からあげやポテトとかの店がない
・家でとりのすきやき、のっぺじるを食べる

大人向けの店が多い　　正月のじゅんび

同じところ

・まつりの中身
・行列のようす
・たこやき、ベビーカステラ

・来ている人が楽しそう

おんまつりそのものは変わっていない
みんながおまつりを楽しんでいる

おんまつりは、むかしとくらべてちがうところもあるけど、

奈良の人にとって

とても楽しみなお祭り
大切なお祭り
すてきなお祭り
１年に１回だけ、いつもできないことができるお祭り
その日はぜいたくができるお祭り

大和一国のまつり

春日大社の方にお話を聞く

これからもおん祭は続いていくのだろうか？

つづいていく（２８人）
・もう戦争もないし，起こらないと思う
・できないときも次の年に2回やればいい
・ここまで続いたら何があっても続いていくと思う
・奈良の人みんながお金を出し合うから

これから戦争が起こるかもしれない。

おん祭を続けたいと思う人が減ってきたらどうするの？

つづいていかない（４人）
・お金が続かない
・自然災害が必ず起きる

できなくても次の年に2回やるとか工夫してきた。

だからみんなでお金を出し合ってきたんだと思う。

つづいていかなくなるときって、どんなときだろう？

・戦争が起こる。
・災害が起こる。
・おん祭をするお金がなくなる。
・住んでいる人が少なくなる。
・続けようとする人が少なくなる。

おおやぎゅう
大柳生たいこおどり

なぜ、おんまつりは880年間、一度もとぎれずつづいているのだろう？

・つづけていきたいと思う人が多かったから。
・だから、みんなでお金を出し合った。
・ききんや戦争があっても、だからこそ幸せを願う人が多いから、つづけてやっている。
・みんなに楽しんでもらっていい笑顔をつくりたいという人がいるから。
・奈良の人みんなが、おんまつりを愛しているから。
・願いをかなえてほしいと思う人がたくさんいるから。

◇奈良には，人々の幸せを願う，昔から続いていることがたくさんあることが分かりました。また，それらの行事を行うために，たくさんの人が苦労や工夫を重ねていることも分かりました。このように，みんなが楽しみにしている行事やお祭りは残していかなければいけないと思います。そのためには，わたしたち子どもも関心を持ち続けていくことが大切だと思います。

◇奈良は，古くからの祭りや行事，世界遺産などのものを大切に次の世代にわたしてきた。そこには，「つづけよう」「残していこう」とたくさんの人が努力してきたことが分かった。もっと長く続けていくためには，ぼくたちが伝統を受け継いだり，行事に協力したりすることが大切だと思う。今年のおん祭は，しっかりといろんな行事を見たいと思う。

子どもおんまつりでの発表

「ＥＳＤの視点（見方・考え方）」「ＥＳＤで育てたい資質・能力」「ＥＳＤで育てたい価値観」については、項目を並べるだけでなく、自分の考えた題材や活動に落とし込んで具体的に説明できることが重要。

〇この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

・有限性・・・長く続いてきた祭りや行事でも様々な要因によって途絶えてしまう
・公平性・・・おん祭は時代を超えて奈良の人々のよりよい生活のために続けられている。
・連携性・・・様々な立場の多くの人々が協力して続けてきた
・責任性・・・続けていくのはそこに住む自分たちの行動が大切である

〇この学習を通して育てたいESDの資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力
途絶えてしまうかもしれないおん祭が毎年続いていくために、どんなことが必要か、そのためにどうすることが大切かを考える。

・批判的に考える力（Critical Thinking）
毎年見てきたおん祭は続いてきたのではなく、多くの人たちの努力と工夫によって続けられてきたことに気付く。

・コミュニケーションを行う力
おん祭がなぜ続いてきたのか、また続いていくためにはどんなことが必要なのか、根拠を明らかにして話し合う。

・進んで参加する態度
これからの自分のおん祭への見方や参加の仕方を考える。

〇この学習を通して育てたいESDの価値観

・世代間の公正
人々の幸せを願って続けられ、奈良の人たちの大きな楽しみであるおん祭をこれからも続けていかなければならない。

・人権・文化を尊重する
奈良に大切に受け継がれてきた、おん祭という文化を大切に守っていく。

・幸福感を大切にする
いつの時代も、だれもが幸せに生きたいという願いをもって、「豊かなくらし」を追い求めている。

〇関連するSDGs

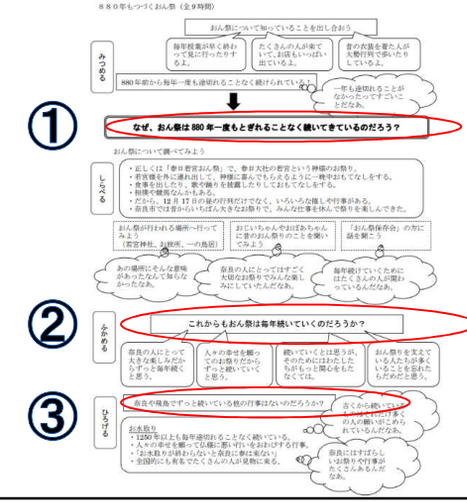
問いを考える

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

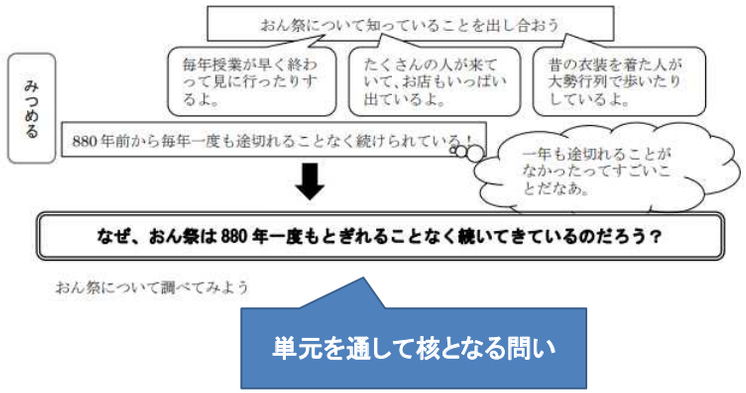
単元の目標につながるもの
単元の流れで必然性があるもの
答えがいくつもあるもの

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

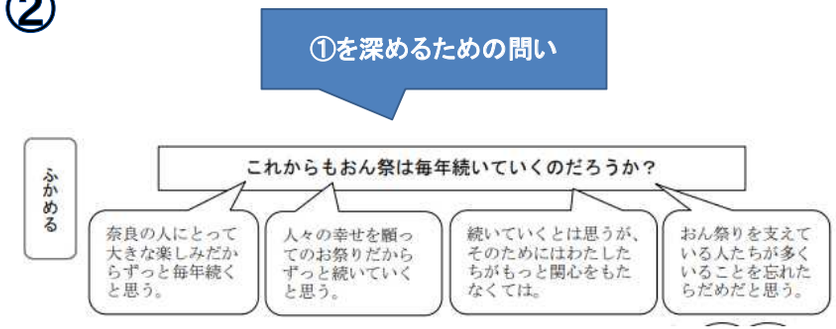
言葉やその使い方にこだわる



①



②



③

①を発展的に考える問い

ひろげる

奈良や飛鳥でずっと続いている他の行事はないのだろうか？

お水取り
・1250年以上も毎年途切れることなく続いている。
・人々の幸せを願って仏様に悪い行いをおわびする行事。
・「お水取りが終わらないと奈良に春は来ない」
・全国的にも有名でたくさんの人が見物に来る。

古くから続いているものはそれだけ多くの人の願いがこめられているんだなあ。

奈良にはすばらしいお祭りや行事がたくさんあるんだなあ。

① 単元を通して核となる問い

② ①を深めるための問い

③ ①を発展的に考える問い

たとえば、

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、

どの問いから考えてもいいと思います。

ESDは、探求的な学びを協働的に行う

探求的な学びのためには、質の高い問いが重要
教師の確かな教材解釈（見方・考え方）
育てたい資質・能力、価値観（ゴールの見通し）
「なぜ？」「どうして？」
子ども自らがそういう問いを作り出せるように

協働的に行えるようにするためには、学級経営が重要
どんな意見を言ってもいいんだという雰囲気
互いのよさを認め合える集団
全員が自分の考えを言い合える習慣、文化
「わからない」を素直に言える風土

質の高いESDの授業のために

①地域教材の開発
「自分事化」　五感を使った体験活動　　行動化
自分が「面白い」と思ったものだけが、「いい授業のネタ」

②結果としてSDGsに関連する
自分たちの学びが地域だけでなく、世界ともつながっている！
世界にも同じことに取り組んでいる仲間がいる！

③仲間とともに学び合う
多様な目で教材を見ることで、一人では思いつかない学習内容や学習方法が見つかる

ユネスコスクール・SDGs/ESDの推進
ホールスクールアプローチ

大牟田市教育委員会　安田昌則

福岡県大牟田市

福岡県の最南

○人口　112，134人

○西は有明海、遠くに雲仙

東は遠くに阿蘇外輪山

＜学校数、児童生徒数＞

小学校１９校（約５４００人）

中学校　８校（約２４００人）　特別支援学校１校（約１２０人）

世界文化遺産　「明治日本の産業革命遺産」

宮原坑

三池港

旧三池炭鉱専用鉄道敷

大牟田市

かつては「炭の都」

・三池炭田

・昭和30年代

人口20万人超

・石炭化学

コンビナート

三池石炭発見伝説図

日本カルタ発祥の地（三池カルタ記念館）

日本のカルタ発祥の地（三池カルタ記念館）

日本最古の天正カルタ

大牟田夏祭り

大牟田市学校教育振興プラン

【基本理念】「まちづくりは人づくりから」という基本的な考え方にたち、本市の学校教育は、持続可能な社会づくりを担う子どもたちの育成を目指します。

【基本方針】

社会を生き抜く力を身に付けた「おおむたっ子」の育成

＜目指す児童生徒の姿＞「おおむたっ子」

おお→大きな夢を抱き未来を創る児童生徒

む　→難しいことにもねばり強く取り組む児童生徒

た　→たくましい心と体を備えた児童生徒

［特色ある教育］

［知・徳・体のバランスのとれた教育］

なぜ大牟田市は、ユネスコスクールに加盟することにしたのか

大牟田市のユネスコスクールに加盟するまでの経過と加盟後の実践

平成21年度～平成22年度当時

新学習指導要領の実施に向けて

＜教育課程検討委員会＞

小学校	中学校・特別支援学校
校長会代表	校長会代表
教頭会代表	教頭会代表
教務主任会代表	教務主任会代表

内容　・　時数

評価・通知表などの検討

※ユネスコスクール・ESD（持続発展教育）についての研究

教育振興基本計画におけるＥＳＤについて

教育振興基本計画（平成20年7月1日閣議決定）

【施策】

◇　持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進

～持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について～

第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）

Ⅰ四つの基本的方向性に基づく方策

1．社会を生き抜く力の養成

【主な取組】

11－1現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進

ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での持続可能な社会の構築に向けた教育（持続可能な開発のための教育：ESD）を推進する。

第3期教育振興基本計画（平成30年6月15日閣議決定）

第2部　今後5年間の教育政策の目標と施策群

1．夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

(2)豊かな心の育成

○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進

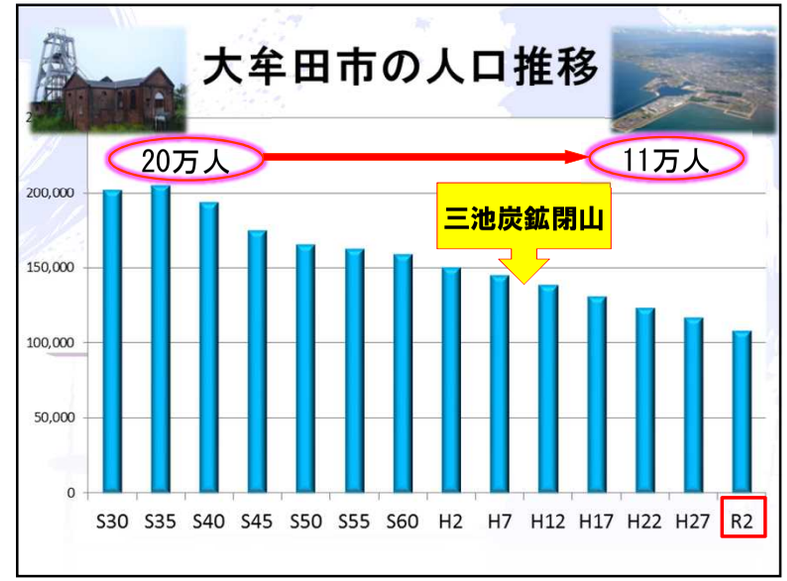
(4)問題発見・解決能力の修得

○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進

文部科学省

〇学習指導要領の改訂 （2008年3月公示）
〇学習指導要領（2008年3月、2009年3月）

小学校学習指導要領の総則や理科、社会、
中学校学習指導要領の理科、公民、地理、
高校学習指導要領の地理歴史、公民などに
持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれた



大牟田市の現況

〇少子高齢化（人口減少・高い高齢化率）
〇環境・エネルギー問題
・石炭産業と公害の克服
・新たなエネルギー産業 （エコサンクセンター）
〇世界遺産を含む文化財の宝庫
〇国際理解教育
・友好都市
・石炭を通した諸外国とのつながり
〇ネットワーク化された情報環境

持続可能な社会づくり

持続可能な開発のための教育（ESD）について

Sustainable Development（持続可能な開発）
とは・・・「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」報告書『我ら共通の未来（Our Common Future）』（1987年）における定義

持続可能な開発のための教育（ESD）
とは・・・「持続可能な社会の担い手を育む教育」

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

持続可能な社会づくり

- 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく現在の世代のニーズを満たす社会の仕組みづくり

地球規模の問題

学習テーマ

think globally, act locally

各学校での特色ある教育活動

福祉学習（車いす体験）

エネルギー学習（石炭関係）

情報関係の学習

環境学習（川を調べよう）

地域の文化財の学習

世界遺産関連の学習

大牟田市の目指すまちづくりとユネスコスクールの理念が一致

社会の潮流　学習指導要領　教育振興基本計画　本市の現状

ユネスコスクール（ESDの推進）

市教育委員会

協議

協議

小学校校長会、中学校・特別支援学校校長会
検討

小学校教頭会、中学校・特別支援学校教頭会
検討

校長会、教頭会の中で検討され、教育委員会と協議し、ユネスコスクールの加盟申請は、全学校行うことに決定！

ユネスコスクールの申請 → パリのユネスコ本部にて審査

承認

大牟田市の全小・中・特別支援学校がユネスコスクールに加盟（Ｈ２４年、１月）

市内の全公立の学校がユネスコスクールに一斉に加盟したことは、当時は世界でもめずらしい

ユネスコスクールのまち　おおむた

教育課程の工夫・担当者の明確化

＜教育課程への位置付け＞

○全体計画の作成

○学年毎の年間計画

○ESDカレンダー

＜校務分掌の明確化＞

○ユネスコスクール担当者（ESD）

→ 特色ある教育活動の推進

ユネスコスクール担当者会

＜大牟田市教育委員会＞

ユネスコスクール担当者会

校長会 → ＜大牟田市教育委員会＞ ← 教頭会

定例会

情報 交換

研修会

小学校担当者

中学校担当者

特別支援学校担当者

市をあげてESDを推進

【大牟田市役所】

大牟田市ESD推進本部の設置

市長→本部長

教育長→副本部長

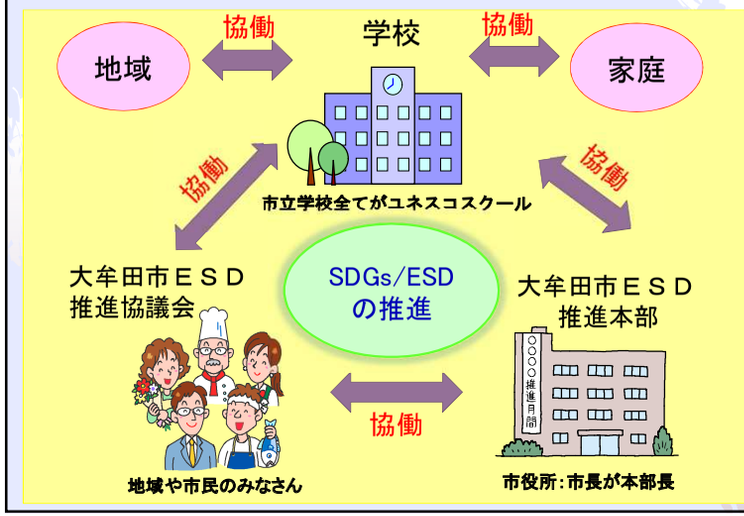
各部の部長→推進委員

※各部でESDの視点で事業を推進

↓

持続可能なまちづくり

大牟田市がすすめているESD



ＥＳＤの充実に向けて

教職員

子ども

地域・
関係団体等

大牟田市が進めるESDについての教職員研修

＜研修の種類＞

多様な研修の機会の提供
（教職員が選択できる）

A研修：ESD・ユネスコスクールに関する理論研修
B研修：大牟田市内の実践を交流する研修
C研修：大牟田市外の実践を交流する研修
D研修：授業実践を通した研修
E研修：大牟田市外の研修会を活用した研修
F研修：リーダー養成研修
G研修：日常的な研修

【研修会等】

①ユネスコスクール担当者会
②研究指定校による拡大校内研修会
③ユネスコスクール研修会
④世界遺産学習全国サミットへの参加
⑤ユネスコスクール全国大会への参加
⑥世界遺産学習研修会
⑦ユネスコスクール子どもサミット
⑧研究所員による研究報告会
⑨指導主事派遣の校内研修会
⑩ユネスコスクール便り

A研修
B研修
C研修
D研修
E研修
F研修
G研修

マスターティーチャー養成講座

ユネスコスクール全国実践交流会

それぞれのニーズに応じた研修の場

吉野小研究発表会

初任者・他郡市転入者対象
「研究所主催ESD講座」

「ユネスコスクール便り」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発のための教育（ESD）
つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

ユネスコスクール便り №76

令和元年６月１０日
大牟田市ユネスコスクール
担当者通信

６月に入り、各学校では１学期の ESD に関する実践が深まっている頃ではないかと思います。

さて、各学校での特色ある実践はどのように発信されているでしょうか。通信や学校の M ボードなどを用いたメディアでの発信もさることながら、新聞社やテレビメディアを通じた発信も非常に魅力的だと思います。子どもたちがいきいきと学び活動する様子を多くの人々に知っていただくことで、大牟田市の ESD に対する関心が高まり、地域全体、大牟田市全体を巻き込んだ取り組みになっていくのではないでしょうか。ホールシティアプローチの一端として、ぜひ様々な発信方法で子どもたちの活動する姿を発信していきましょう。

教えて！大牟田の ESD

Q：「SDGs」について教えてください

持続可能な開発目標（SDGs）は、2030 年を期限とする、国際社会全体で取り組む国際的な目標のことです。17 の目標が掲げられています（この便りの最上部の 17 のマークがその目標を示しています）。「教育」は SDGs の目標 4 に位置付けられています。

「教育が全ての SDGs の基礎」と言われるように、教育は SDGs で示された目標を達成するための根幹です。私たちは日々の教育活動を通して、持続可能な社会の担い手を育成しているのです。子どもたちが将来直面するであろう諸課題に対して、「持続可能な社会」を考えた働きかけができるように、まずは私たちが、17 のゴールを意識した学習指導に当たっていくことが大切ではないでしょうか。

特色ある実践事例の紹介

伝統の食文化「有明海の海苔作り」を学ぶ　手鎌小学校

３年生の子どもたちは、手鎌校区の様子について調べる中で、海苔の生産と出合います。海苔作りは、有明海で行われている伝統的な産業であり、食文化です。子どもたちは海苔作りについて、地域で海苔作りに携わってある方と関わりながら話を聞いたり、実際に海苔漉き体験をしたりして調べます。その中で、伝統を受け継ぐ地域の方々の思いや願いについて理解し、全国の食卓へと届けられている有明海苔を生産している地域のよさや特色をとらえることができました。子どもたちは、学んだことを壁新聞にまとめ、自分たちの地域にある全国に誇れるおいしい海苔作りを大切に守っていきたいと発信することができました。

海苔づくり体験に取り組む子どもたち

まちづくりを担い社会の創り手となる生徒を育む　白光中学校

白光中学校版 SDGs として、3：すべての人に健康と福祉を、4：質の高い教育をみんなに、11：住み続けられるまちづくりを、17：パートナーシップで目標を達成しよう、以上四つを設定しています。特に、「白光タイム」では、１年生「福祉学習～共に生きるために～」、２年生「世界遺産学習～大牟田の宝のすばらしさを多くの人に伝えよう～」、３年生「生き方（進路）に係わる学習」を中心に体験学習を計画・実施し、自分で考え、行動できる生徒の育成を目指しています。また、平成 24 年４月に設立された「HAKKO クッキー社」（生徒が運営するボランティア組織）は、地域や大牟田市のイベント等でゆるキャラ「ハッキー」とともにクッキー（生徒がデザインを考案）を販売しています。その収益金は毎年、被災地に見舞い金として贈呈しています。

クッキー販売の様子

ユネスコスクールの活性化、ＥＳＤ充実のための支援

「ESD実践の手引き」「パンフレット」の作成、配布（各学校、全教職員等への配布）

ユネスコスクール支援センターの活用と充実（全国で初めての設置）

〇ユネスコスクール支援センター事務局員の配置

〇ESD関連の資料、書籍等の収集と提供

〇学校のESD活動の支援、学校間交流の支援　等

各学校で特色あるESDの実践
それぞれの地域の課題解決に向けたESDの充実

地域学習

世界遺産学習

地域学習
吉野小学校「吉野小さくらプロジェクト

桜の苗木植樹

地域の方がによる
「絆プロジェクト」との話し合い

福祉学習
中友小学校「子ども民生委員活動

高齢者宅訪問

認知症SOSネットワーク
模擬訓練

世界遺産学習　　駿馬北小学校
「子どもボランティアガイド」

第３日曜日の子どもボランティアガイド

福祉学習　　白光中学校

ペアショッピング

健康教育・食育
玉川小学校「米づくりに挑戦」

田植え

米はかり踊り

商店街「十日市」への参加による まちおこし

○「十日市プロジェクト」

まちおこしのために、校区内の銀座商店街で毎月十日に開催される「十日市」に、参加して発表などをしています。

中友小児童による、和太鼓の発表・世界遺産饅頭の販売

まちの方から「商店街に子どもたちの声が響いて、元気をもらっています。」との声が聞かれています。

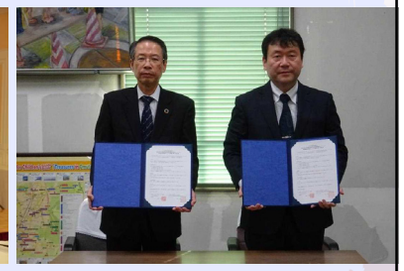
商店街の方から「子どもたちの発表で、商店街に賑わいが戻ってきています。」と、喜びの言葉をもらっています。

海洋教育

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター
(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター)
と大牟田市教育委員会との
海洋教育促進拠点、海洋教育研究拠点としての連携に関する協定締結式

【2016年10月】

【2020年10月】



海を通したESD(海洋教育)
天領小学校・みなと小学校・天の原小学校
駛馬小学校（海洋教育推進校）

有明海の干潟観察

天領・海まつり

まちづくりに参画する授業実践例

大牟田を住みたいまちにするためには？

自分たちで
自分たちなりに考えて、
まちづくりについて発信

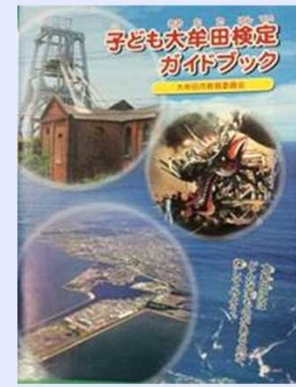
大牟田を住みたいまちに
6つのテーマ 1年間学習
議員ら招き「市政へ生かして」
松原中2年生

なくなるRDF事業
ポイント導入して
リサイクル進める

まちづくりについて、議員や市職員に発信
- 世界遺産
- 産業、伝統、文化
- エネルギー環境　など

課題や解決策について

子ども達に視点を当てた取組



- ○石炭関連施設
- ○施　設
- ○遺　跡
- ○自　然
- ○生き物
- ○伝　統
- ○食べ物
- ○人　物

５０点
写真と文で、分かりやすく説明

郷土愛を育む子ども大牟田検定（９月・１月）

※　子どもが主体的に学ぶための

「子ども大牟田検定」

目的「大牟田の宝もの」を学習し、検定問題へチャレンジすることを通して、

素晴らしい自然環境や歴史文化遺産等が残された「ふるさと大牟田」に誇りを持ち、守り育てようとする、　郷土愛に満ちた子どもをめざす。

関係団体や「ひと」との連携

ユネスコスクール子どもサミット
子どもたちの実践交流の場

市内の小・中学校の児童生徒が大牟田市の世界遺産学習や福祉などについて発表

＜市外の学校の発表＞
大正小学校と長崎市立大浦小学校が世界文化遺産を通しての交流について発表

保護者や市民も参観

大牟田市「ユネスコスクールの日」の制定

平成24年1月17日
市内市立学校が全てユネスコスクールに加盟

〇毎年1月17日「ユネスコスクールの日」
〇ユネスコスクール週間
・各学校で
記念イベントや
啓発活動

児童生徒による
制定宣言

「大牟田市ユネスコスクールの日」 制定宣言

私たちは、大牟田に学び児童生徒です。
1月17日を「大牟田市ユネスコスクールの日」と定めるにあたり、次のことを宣言します。

一　私たちは、人と人とのつながりを大切にします。
一　私たちは、学校から地域へ、地域から世界へ、つながりの輪を広げていきます。
一　私たちは、過去から現在までのつながり、現在から未来へのつながりを大切にします。
一　私たちは、希望ある未来を創るため、学び続けるとともに、自分にできることから行動します。

子どもたち同士のつながり

他校とのつながり・広がり

令和2年1月

事例　**海洋教育（海を通したESD）**

国内外の学校との交流

〇宮城県気仙沼市　〇広島県福山市
〇岡山県岡山市　〇島根県大田市
〇北海道留寿都村　〇長崎県長崎市
〇宮崎県綾町　〇佐賀県唐津市
〇愛媛県新居浜市　など
〇トルコ　〇カナダ　〇フランス
〇ペルー　〇シンガポール　など

地域・関係団体等との協働に向けて

○ちいきESD講座の実施

○関係団体への出前講座

PTA役員会
商工会議所女性会
大牟田ビンテージのまち
大牟田経済倶楽部
大牟田市中小企業同友会
福岡トーヨー株式会社
大牟田中央ライオンズクラブ・・・・・

○ＥＳＤ職員研修
（大牟田市役所の職員）

関係団体との連携・協働に向けて

○NPO団体との連携事業

自然とふれあい陸の豊かさに気づく
ネイチャースクール（5月・10月）

○参画企業との連携

エネルギー環境について
考える出前授業

○市環境部・参画団体との連携

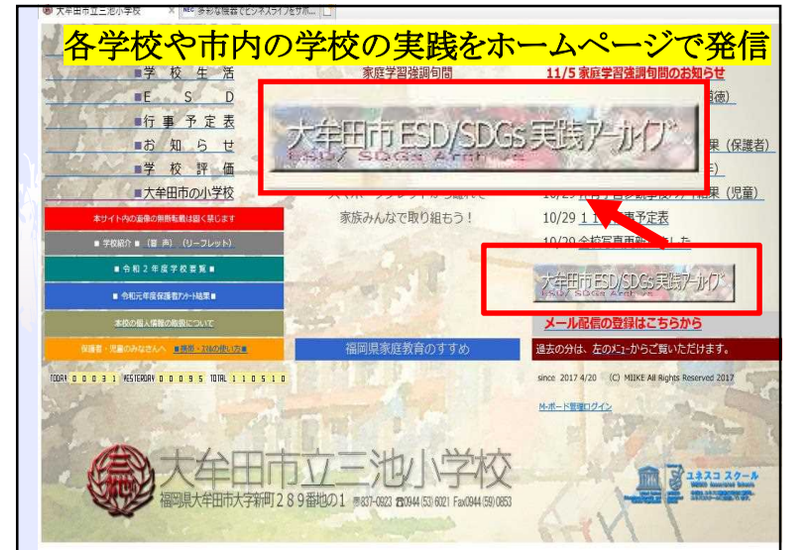
持続可能な消費生活について学ぶ
市環境部による出前授業

経済倶楽部との連携による
JICA職員を招いたキャリア教育

HP・フェイスブックによる啓発

◇「大牟田市教育委員会」のホームページ・フェイスブック
・「SDGs/ESD」「新着情報」「学校教育」などで　※「各学校のMボード」

各学校や市内の学校の実践をホームページで発信



大牟田市のＥＳＤの推進を通して

ユネスコスクールのまち　おおむた

↓

ＥＳＤのさらなる充実

↓

ＳＤＧｓの目標達成

↓

持続可能なまち　おおむた

SDGsの達成に向けた大牟田の挑戦

SDGsが掲げる17の目標を本市のESDに

○具体的なアプローチは，その学校・地域の課題やＥＳＤの取組方により様々

○ＳＤＧｓを見据えつつ，学校や地域で足元の課題解決を大事にＥＳＤを推進することが重要

↓

学校や地域の課題解決を大切にした

大牟田版SDGs

SDGsの授業（吉野小学校）

「ユネスコスクール・ＥＳＤのまち おおむた」宣言

第３回「ジャパンＳＤＧｓアワード」特別賞

国連大学からRCEに認定　2020年（令和2年）2月

これまで紡いできたネットワークをさらに日本へ世界へ拡大

ユネスコスクールとしての成果

○地域の課題の解決が地球規模の課題の解決につながることを意識し行動する子どもが増えてきた。
○ESDを学ぶことで地域や世界への貢献の意識が年々向上している。
○学校におけるESDの取組が地域へ広がり、地域と学校が一体となって持続可能なまちづくりに取り組む事例が増えてきた。
○ESDに取り組みはじめた時（2010年）の中学3年生がESDを次世代へ継承していきたいと教師を目指し、2019年（令和元年）に小学校の教師として本市に着任する。

今後の展望

○世界のユネスコスクールとの交流促進
　互いの地域課題を交流し地球課題について学び合う

※校長としての実践　【校内研修の内容と方法】

ESDについての理論
- ESDとは
- ESDで目指すこと

○講師招聘による研修
○理論研究

目指す子どもの姿の焦点化
- 目指す子ども像
- 重点テーマ設定

○全体研修による協議

年間指導計画作成
- ESDカレンダー
- ストーリーマップ

○学年研修による協議
○先進校の実践例

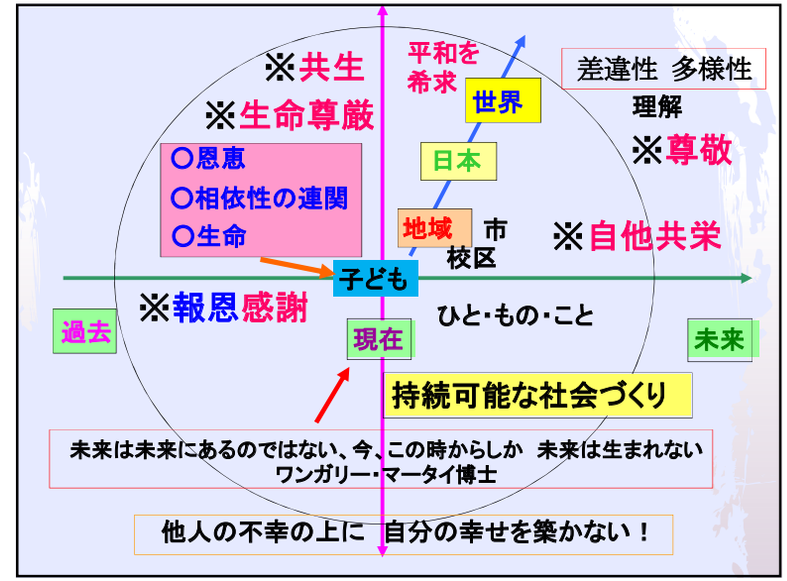
付加・修正

実践と振り返り
- 授業研究会、研究協議

○全校、近接授業研
○講師招聘による研修

実践の共有化

○研究だより



吉野小学校のESDの価値観

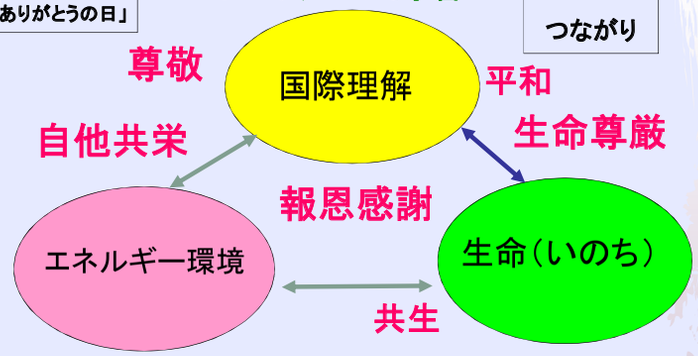
持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成

学び合い高め合う吉野っ子

毎月10日
「ありがとうの日」

3つのテーマで学習

かかわり
つながり



吉野小学校のESDの価値観

持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成

学び合い高め合う吉野っ子

育みたい力や態度

○ひと・もの・ことを尊重し、他者と協力する態度
○互いの意見を大切にしたコミュニケーション力
○持続可能な社会の一員として責任を持った行動力

生命尊厳　自他共栄　報恩感謝　尊敬

目指す子どもの姿

みんなが安心して暮らすことのできるよりよい社会を構築していくために、持続可能な社会づくりに関わる課題を自らの問題として捉え、追究することを通して、自らの考えを構築し、できることを考え行動する子ども

問題解決力
①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的，総合的に考える力

関わる力
⑤他者と協力する態度

伝え合う力
④コミュニケーションを行う力

行動力
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度

ESDで身に付けさせたい能力・態度　（ESDの要素）国立教育政策研究所

校内研究の組織

校長
教頭
研究推進委員会
全体会

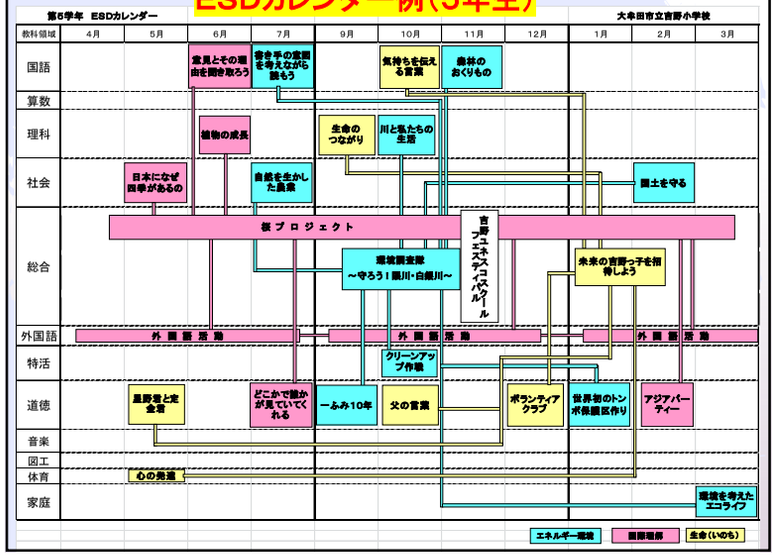
近接部会

低学年	中学年	高学年

テーマ部会

	エネルギー環境	国際理解	生命
低			
中			
高			

ESDカレンダー例（5年生）



ＥＳＤストーリーマップ作成を通した授業づくりと実践

1　教材分析と単元で目指す姿の設定

2　ESDで育みたい能力や態度を育む活動

3　他教科・領域等とのつながり

4　地域とのつながり・関わり

5　主体的な学びを生み出す体験的活動

教材分析と単元で目指す姿の設定

持続可能な社会づくりに関わる
課題を見出すための視点（ESDの要素）

人を取り巻く環境に関する視点

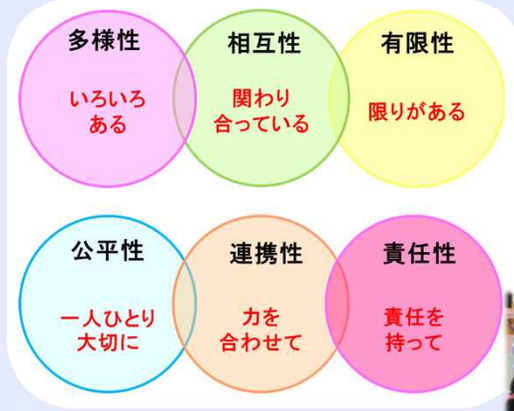
- 多様性　いろいろある
- 相互性　関わり合っている
- 有限性　限りがある

人の意思・行動に関する視点

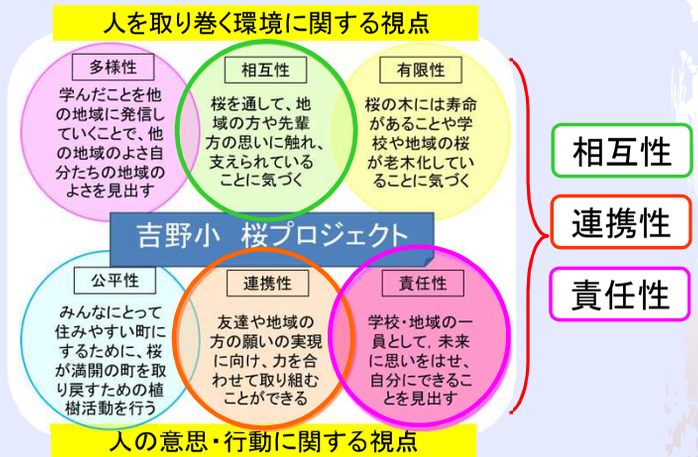
- 公平性　一人一人大切に
- 連携性　力を合わせて
- 責任性　責任を持って

（国立教育政策研究所）

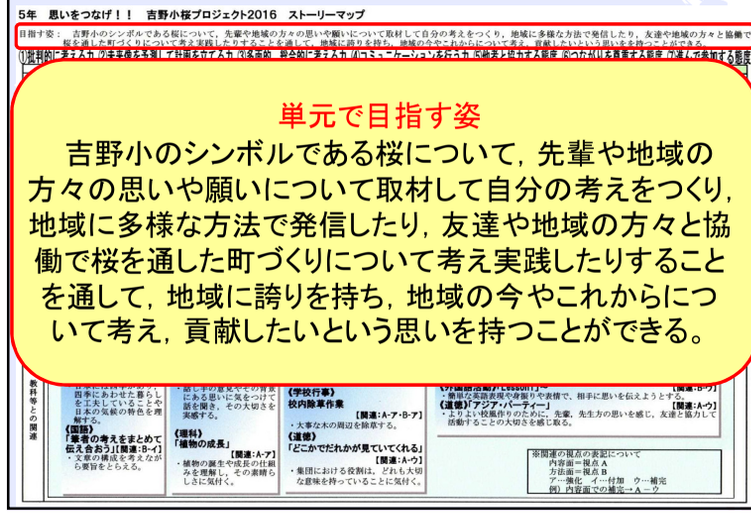
教材分析と単元で目指す姿の設定



教材分析と単元で目指す姿の設定



教材分析と単元で目指す姿の設定



5年　思いをつなげ！！　吉野小桜プロジェクト2016　ストーリーマップ

目指す姿：　吉野小のシンボルである桜について，先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり，地域に多様な方法で発信したり，友達や地域の方々と協働で桜を通した町づくりについて考え実践したりすることを通して，地域に誇りを持ち，地域の今やこれからについて考え，貢献したいという思いを持つことができる。

①業務的に考える力 ②未来像を考案して計画を立てる力 ③多面的，総合的に考える力 ④コミュニケーションをとる力 ⑤地域を巻き込む能力 ⑥つながりを意識する能力 ⑦連携する能力

単元で目指す姿

吉野小のシンボルである桜について，先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり，地域に多様な方法で発信したり，友達や地域の方々と協働で桜を通した町づくりについて考え実践したりすることを通して，地域に誇りを持ち，地域の今やこれからについて考え，貢献したいという思いを持つことができる。

教科等との関連

四季にあわせた暮らしを工夫していることや日本の気候の特色を理解する。

【国語】
「集者の考えをまとめて伝え合おう」【関連：B-イ】
・文章の構成を考えながら要旨をとらえる。

・話し手の意見やその背景にある思いに気をつけて話を聞き，その大切さを実感する。

【理科】
「植物の成長」
【関連：A-ア】
・植物の誕生や成長の仕組みを理解し，その素晴らしさに気付く。

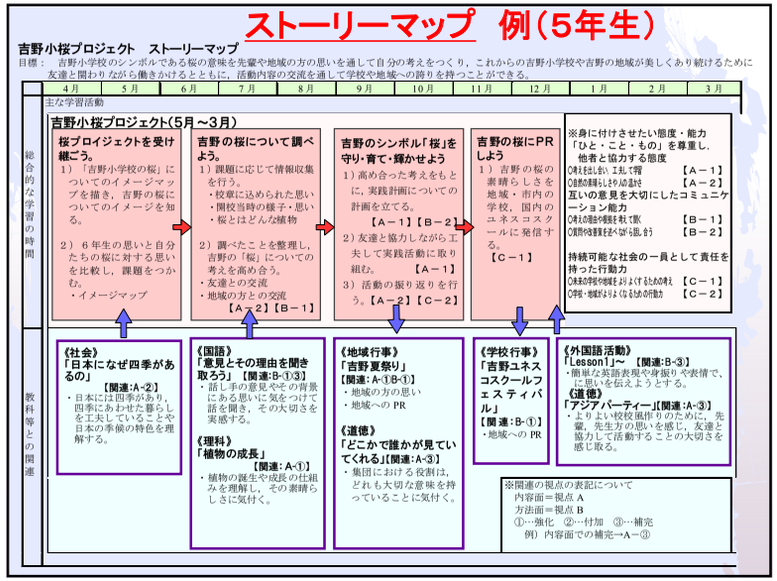
《学校行事》
校内除草作業
【関連：A-ア・B-ア】
・大事な木の周辺を除草する。

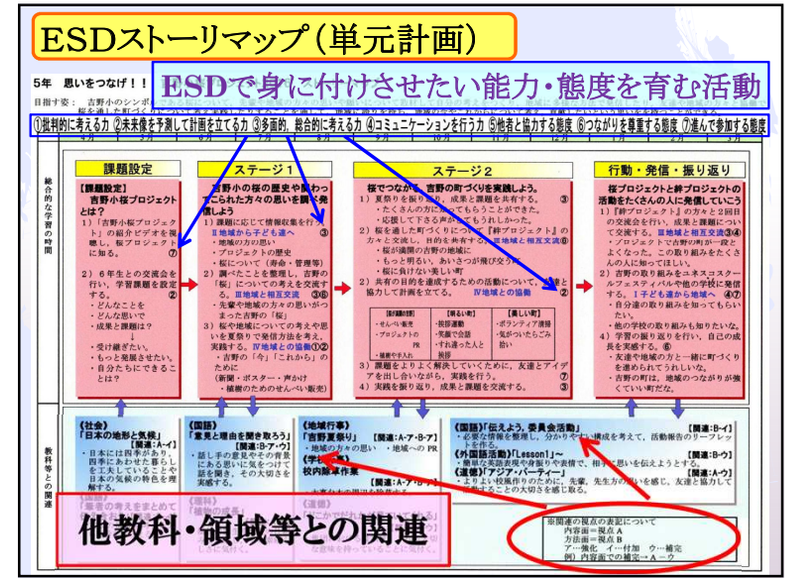
《道徳》
「どこかでだれかが見ていてくれる」
【関連：A-ウ】
・集団における役割は，どれも大切な意味を持っていることに気付く。

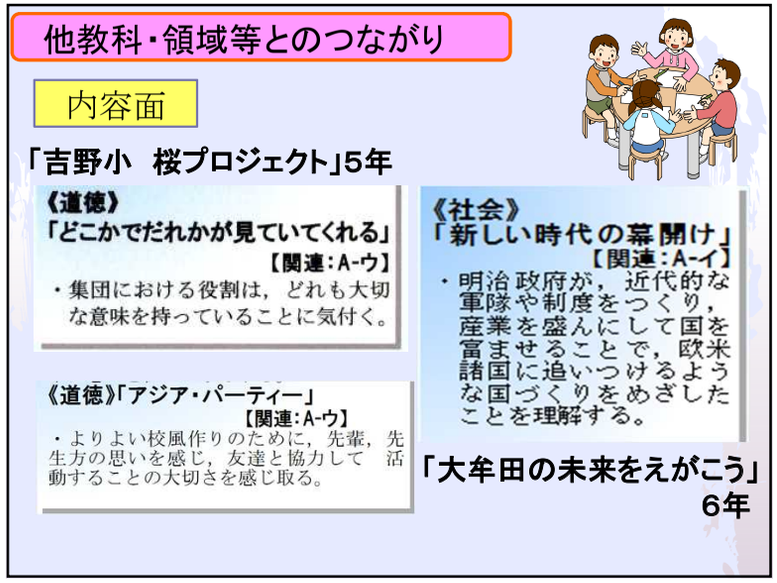
・簡単な英語表現や身振りや表情で，相手に思いを伝えようとする。【関連：B-ウ】

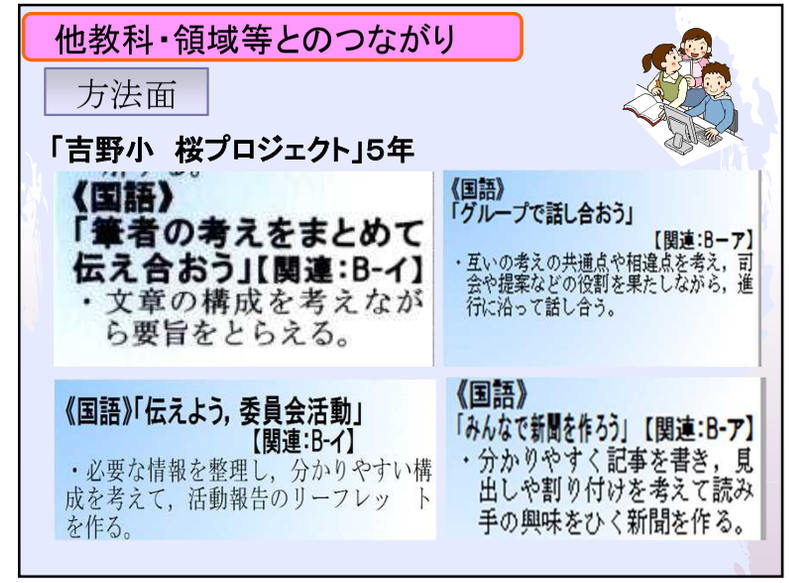
《道徳》「アジア・パーティー」
【関連：A-ウ】
・よりよい校風作りのために，先輩，先生方の思いを感じ，友達と協力して活動することの大切さを感じ取る。

※関連の視点の表記について
内容面＝視点 A
方法面＝視点 B
ア…強化　イ…付加　ウ…補完
例）内容面での補完→A－ウ


ストーリーマップ　例（5年生）
吉野小桜プロジェクト　ストーリーマップ
目標：　吉野小学校のシンボルである桜の意味を先輩や地域の方の思いを通して自分の考えをつくり，これからの吉野小学校や吉野の地域が美しくあり続けるために友達と関わりながら働きかけるとともに，活動内容の交流を通して学校や地域への誇りを持つことができる。
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
主な学習活動
総合的な学習の時間
吉野小桜プロジェクト(5月～3月)
桜プロジェクトを受け継ごう。
1）「吉野小学校の桜」についてのイメージマップを描き，吉野の桜についてのイメージを知る。
2）６年生の思いと自分たちの桜に対する思いを比較し，課題をつかむ。
・イメージマップ
吉野の桜について調べよう。
1）課題に応じて情報収集を行う。
・校章に込められた思い
・開校当時の様子・思い
・桜とはどんな植物
2）調べたことを整理し，吉野の「桜」についての考えを高め合う。
・友達との交流
・地域の方との交流
【Ａ－２】【Ｂ－１】
吉野のシンボル「桜」を守り・育て・輝かせよう
1）高め合った考えをもとに，実践計画についての計画を立てる。
【Ａ－１】【Ｂ－２】
2）友達と協力しながら工夫して実践活動に取り組む。　【Ａ－１】
3）活動の振り返りを行う。【Ａ－２】【Ｃ－２】
吉野の桜にPRしよう
1）吉野の桜の素晴らしさを地域・市内の学校，国内のユネスコスクールに発信する。
【Ｃ－１】
※身に付けさせたい態度・能力
「ひと・こと・もの」を尊重し，他者と協力する態度
○考えを出し合い，工夫して取　【Ａ－１】
○自然の素晴らしさや人の温かさ　【Ａ－２】
互いの意見を大切にしたコミュニケーション能力
○考えの違いや問題を考えて話し合う　【Ｂ－１】
○異質や改善策を話し合い，話し合う　【Ｂ－２】
持続可能な社会の一員として責任を持った行動力
○未来の学校や地域をよりよくするための考え　【Ｃ－１】
○学校・地域がよりよくなるための行動力　【Ｃ－２】
教科等との関連
《社会》
「日本になぜ四季があるの」
【関連:A-②】
・日本には四季があり，四季にあわせた暮らしを工夫していることや日本の季候の特色を理解する。
《国語》
「意見とその理由を聞き取ろう」【関連:B-①③】
・話し手の意見やその背景にある思いに気をつけて話を聞き，その大切さを実感する。
《理科》
「植物の成長」
【関連:A-①】
・植物の誕生や成長の仕組みを理解し，その素晴らしさに気付く。
《地域行事》
「吉野夏祭り」
【関連:A-①B-①】
・地域の方の思い
・地域への PR
《道徳》
「どこかで誰かが見ていてくれる」【関連:A-③】
・集団における役割は，どれも大切な意味を持っていることに気付く。
《学校行事》
「吉野ユネスコスクールフェスティバル」
【関連:B-①】
・地域への PR
《外国語活動》
「Lesson1」～　【関連:B-③】
・簡単な英語表現や身振り・表情で，思いを伝えようとする。
《道徳》
「アジアパーティー」【関連:A-③】
・よりよい校風作りのために，先輩，先生方の思いを感じ，友達と協力して活動することの大切さを感じ取る。
※関連の視点の表記について
内容面＝視点 A
方法面＝視点 B
①…強化　②…付加　③…補完
例）内容面での補完→A－③


ESDストーリマップ（単元計画）
ESDで身に付けさせたい能力・態度を育む活動
5年　思いをつなげ！！
①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的，総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度
総合的な学習の時間
課題設定
【課題設定】
吉野小桜プロジェクトとは？
1）「吉野小桜プロジェクト」の紹介ビデオを視聴し，桜プロジェクトに知る。 ①
2）６年生との交流会を行い，学習課題を設定する。 ②
・どんなことを
・どんな思いで
・成果と課題は？
・受け継ぎたい。
・もっと発展させたい。
・自分たちにできることは？
ステージ１
吉野小の桜の歴史や関わってこられた方々の思いを調べ発表しよう
1）課題に応じて情報収集を行う。 ③
Ⅱ地域から子ども達へ
・地域の方の思い
・プロジェクトの歴史
・桜について（寿命・管理等）
2）調べたことを整理し，吉野の「桜」についての考えを交流する。 Ⅱ地域と相互交流 ③④
・先輩や地域の方々の思いがつまった吉野の「桜」
3）桜や地域についての考えや思いを夏祭りで発信方法を考え，実践する。 Ⅳ地域との協働①②
・吉野の「今」「これから」のために
（新聞・ポスター・声かけ・植樹のためのせんべい販売）
ステージ２
桜でつながる，吉野の町づくりを実践しよう。
1）夏祭りを振り返り，成果と課題を共有する。 ③
・たくさんの方にかかってもらうことができた。
・応援して下さる声がとてもうれしかった。
2）桜を通した町づくりについて「絆プロジェクト」の力々と交流し，目的を共有する。 Ⅱ地域と相互交流④
・桜が満開の吉野の地域に
・もっと明るい，あいさつが飛び交う
・桜に負けない美しい町
2）共有の目的を達成するための活動について，地域と協力して計画を立てる。 Ⅳ地域との協働 ②
【部活動の話】
・せんべい販売
・プロジェクトの PR
・植樹できた人。
【楽しい町】
・投票運動
・発表で会話
・それ違った人と挨拶
【美しい町】
・ボランティア清掃
・気がついたらごみ拾い
3）課題をよりよく解決していくために，友達とアイデアを出し合いながら，実践を行う。 ⑦
4）実践を振り返り，成果と課題を交流する。 ③
行動・発信・振り返り
桜プロジェクトと絆プロジェクトの活動をたくさんの人に発信していこう
1）「絆プロジェクト」との方々と２回目の交流会を行い，成果と課題について交流する。 Ⅱ地域と相互交流③④
・プロジェクトで古野の町が一段とよくなった。この取り組みをたくさんの人に知ってほしい。
2）吉野の取り組みをユネスコスクールフェスティバルや他の学校に発信する。 Ⅰ子ども達から地域へ ④⑦
・自分達の取り組みを知ってもらいたい。
・他の学校の取り組みも知りたいな。
4）学習の振り返りを行い，自己の成長を実感する。 ⑥
・友達や地域の方と一緒に町づくりを進められてうれしいな。
・吉野の町は，地域のつながりが強くていいぞだ。
教科等との関連
《社会》
「日本の地形と気候」
【関連:A-イ】
・日本には四季があり，四季にあわせた暮らしを工夫していることや日本の気候の特色を理解する。
《国語》
「意見と理由を聞き取ろう」
【関連:B-ウ】
・話し手の意見やその背景にある思いに気をつけて話を聞き，その大切さを実感する。
《地域行事》
「吉野夏祭り」　【関連:A-ア・B-ア】
・地域の方々の思い　・地域への PR
《学校行事》
校内除草作業
【関連:A-ア・B-ア】
《国語》「伝えよう，委員会活動」
【関連:B-イ】
・必要な情報を整理し，分かりやすい構成を考えて，活動報告のリーフレットを作る。
《外国語活動》「Lesson1」～
【関連:B-ウ】
・簡単な英語表現や身振り・表情で，相手に思いを伝えようとする。
《道徳》「アジアパーティー」
【関連:A-ウ】
・よりよい校風作りのために，先輩，先生方の思いを感じ，友達と協力して活動することの大切さを感じ取る。
他教科・領域等との関連
※関連の視点の表記について
内容面＝視点 A
方法面＝視点 B
ア…強化　イ…付加　ウ…補完
例）内容面での補完→Ａ－ウ


他教科・領域等とのつながり
内容面
「吉野小　桜プロジェクト」5年
《道徳》
「どこかでだれかが見ていてくれる」
【関連:A-ウ】
・集団における役割は，どれも大切な意味を持っていることに気付く。
《社会》
「新しい時代の幕開け」
【関連:A-イ】
・明治政府が，近代的な軍隊や制度をつくり，産業を盛んにして国を富ませることで，欧米諸国に追いつけるような国づくりをめざしたことを理解する。
《道徳》「アジア・パーティー」
【関連:A-ウ】
・よりよい校風作りのために，先輩，先生方の思いを感じ，友達と協力して　活動することの大切さを感じ取る。
「大牟田の未来をえがこう」
6年


他教科・領域等とのつながり
方法面
「吉野小　桜プロジェクト」5年
《国語》
「筆者の考えをまとめて伝え合おう」【関連:B-イ】
・文章の構成を考えながら要旨をとらえる。
《国語》
「グループで話し合おう」
【関連:B-ア】
・互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合う。
《国語》「伝えよう，委員会活動」
【関連:B-イ】
・必要な情報を整理し，分かりやすい構成を考えて，活動報告のリーフレット を作る。
《国語》
「みんなで新聞を作ろう」【関連:B-ア】
・分かりやすく記事を書き，見出しや割り付けを考えて読み手の興味をひく新聞を作る。

地域とのつながり・関わり

Ⅰ　子ども達から地域へ　　子ども → 地域

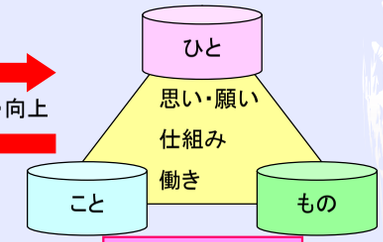
Ⅱ　地域から子ども達へ　　子ども ← 地域

Ⅲ　子ども達と地域双方向　　子ども ⇄ 地域

Ⅳ　子ども達と地域の協働　　子ども　地域

主体的な学びを生み出す体験的活動

維持・向上



体験的活動　　**地域**

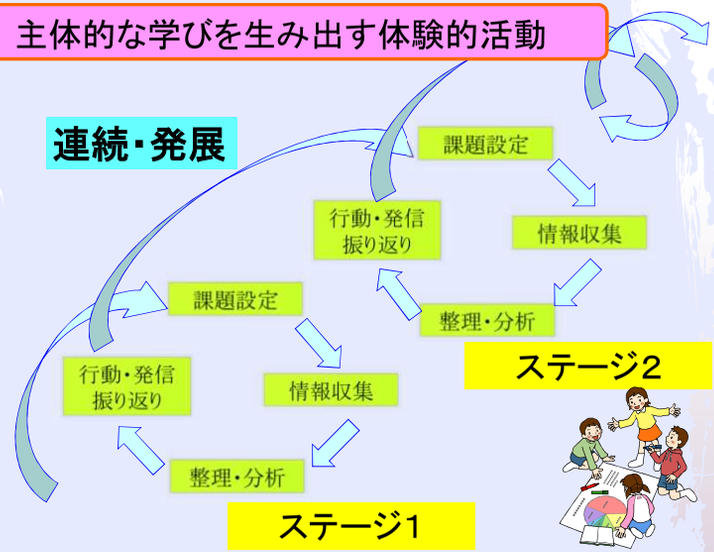
根拠のしっかりとした考え

他者との交流の活性化

思考力・コミュニケーション力の高まり

主体的な学びを生み出す体験的活動

連続・発展



桜プロジェクト（課題設定）

吉野のまちにとって桜とは？

先輩・地域の思い ⇔ 老木化による桜の減少

「桜のある美しいまち」

GTから、吉野の桜についての話を聴く

プロジェクトについて地域の方々と意見を交流する

【校章の意味についての話】

【地域の方々との意見交流会】

桜プロジェクト（調査・情報収集）

校区内の桜調査活動

どこに、何本あるか
調べて「桜マップ」の
作成

桜を守り、育てるためにできることの整理分析活動

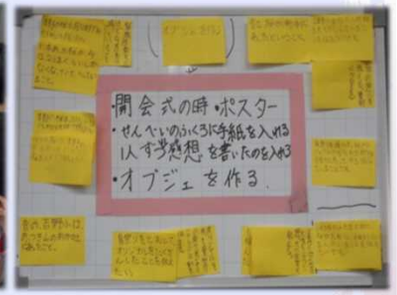
桜プロジェクト　整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。

第5学年 「思いをつなげ！　吉野小　桜プロジェクト」

桜プロジェクト　整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。



第5学年 「思いをつなげ！　吉野小　桜プロジェクト」

桜プロジェクト　整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。

第5学年 「思いをつなげ！　吉野小　桜プロジェクト」

桜プロジェクト（発信・行動）

○地域の方々に、桜を通したまちづくりの呼びかけ

地域の祭りでの発信

ユネスコスクールフェスティバルでの発信

校内へ桜の植樹

美しく　つながりのある　吉野のまちづくり

吉野小
桜プロジェクト
桜で満開の美しい
町に！

絆プロジェクト
（吉野の地域）

【連携】

地域とのつながり・関わり

Ⅳ子ども達と地域の協働

子ども　地域

桜プロジェクト
（地域とともに　まちづくり）

学校の活動←地域が連携

地域連協・保護者による
絆プロジェクトの設立

※校区にも桜を植えたい
（美しいまちへ）

市の都市計画・公園課へ依頼

校区の公園に桜の植樹

地域とのつながり・関わり

課題設定

【課題設定】
吉野小桜プロジェクトとは？
1）「吉野小桜プロジェクト」の紹介ビデオを視聴し，桜プロジェクトに知る。 ⑦
2）６年生との交流会を行い，学習課題を設定する。 ②
・どんなことを
・どんな思いで
・成果と課題は？
↓
・受け継ぎたい。
・もっと発展させたい。
・自分たちにできることは？

ステージ１

吉野小の桜の歴史や関わってこられた方々の思いを調べ発信しよう
1）課題に応じて情報収集を行う。
Ⅱ地域から子ども達へ ③
・地域の方の思い
・プロジェクトの歴史
・桜について（寿命・管理等）
2）調べたことを整理し，吉野の「桜」について考えを交流する。 ⑥
Ⅲ地域と相互交流
・現在地域の方々の思いとつながった吉野の「桜」
3）桜や地域についての考えや思いを夏祭りで発信方法を考え，実践する。 Ⅳ地域との協働①②
・吉野町「今」「にぎわい」のために
（新聞・ポスター・声かけ
・植樹のためのせんべい販売）

ステージ２

桜でつながる，吉野の町づくりを実践しよう。
1）夏祭りを振り返り，成果と課題を共有する。 ③
・たくさんの方に知ってもらうことができた。
・応援して下さる声がとてもうれしかった。
2）桜を通した町づくりについて，桜プロジェクトの方々と交流し，目的を共有する。 Ⅲ地域と相互交流⑥
・桜が満開の吉野の地域に
・もっと明るい，あいさつが飛び交う町
・桜に負けない美しい町
2）共有の目的を達成するための活動について，友達と協力して計画を立てる。 Ⅳ地域との協働 ②

【新緑の吉野】	【明るい町】	【美しい町】
・せんべい販売 ・プロジェクトの PR ・植樹や手入れ	・挨拶運動 ・笑顔で会話 ・すれ違った人と 挨拶	・ボランティア清掃 ・気がついたごみ 拾い

3）課題をとりよく解決していくために，友達とアイデアを出し合いながら，実践を行う。 ⑦
4）実践を振り返り，成果と課題を交流する。 ③

行動・発信・振り返り

桜プロジェクトと絆プロジェクトの活動をたくさんの人に発信していこう
1）『絆プロジェクト』の方々と２回目の交流会を行い，成果と課題について交流する。 Ⅱ地域と相互交流③④
・プロジェクトの歴史について知ることができてよくなった。この取り組みをたくさんの人に知ってほしい。
2）吉野の取り組みをエネコスクールフェスティバルや他の学校に発信する。 Ⅰ子ども達から地域へ ⑦
・自分達の取り組みを知ってほしい。
・他の学校の取り組みも知りたいな。
4）学習の振り返りを行い，自己の成長を実感する。⑥
・友達や地域の方と一緒に町づくりを進められてうれしいな。
・吉野の町は，地域のつながりが強くていい町だな。

地域に何らかの変化をもたらすことができた喜びや手応え

国内の学校との交流（桜プロジェクト）

吉野小学校から
↓
宮城県鹿折小学校へ

桜の苗木の寄贈

○復興への願い
東北の震災で桜が流された学校と桜を通してつながり、一緒にまちづくりについて考える

校内研修（授業協議会）

成果と課題の共有化
KJ法による授業協議会
①授業者からの自評
②質疑
③グループ協議
④全体発表
⑤成果と課題の明確化

成果と課題の共有化

研修部発行の「研究便り」

研究会だより
桜だより
平成２５年７月５日
吉野小学校　研究部

先生方，全校授業研究会お疲れ様でした。

ＫＪ法による研究協議会では，たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。 初めての試みでしたが，先生方が活発に話し合いをされていて，たいへん有意義な協議会になったと思います。
協議会では，次のような成果と課題がだされました。

視点①に関して
○ 相手意識に関しては，吉野小の桜を引き継ぎ，そしてこれからも残していくために下学年の子どもたちに伝えていくことも必要ではないか。
○ 相手意識は感じられたが，方法論にばかり話し合いの方向が向いていたのではないだろうか。もっと目的意識を明確に持たせるべきであった。

視点②に関して
○ 桜に目を向けていこうとする意識をもっている子どもが見られたことは，単元構成の中に，校章にこめられた思いや開校当時の方々の願いを聞く時間があったからだと思われる。 しかし，幅広く色々な方の思いを聞く活動をもう少し長くとって，自分の思いをあたためる時間が必要ではないか。

及川先生のご講話からは，方法よりも内容，それよりも目的が大切であることや単元構成の中に，子どもがわくわくするようなストーリーをどう演出できるか。
また，教科とリンクさせるときは，内容のリンクとともに能力的なリンクも大切である，という貴重なお話を頂きました。
ＥＳＤは，体験や関係性を補完し，心の発達に寄与すること，ＥＳＤは，地域・関係機関・海外と連携して推進すること が大切だということも分かりました。
気仙沼市陸上中学校の答辞に，涙しました。学校・地域・家庭・社会が参画して学びをつなぐＥＳＤをより推進したいと思いました。

研究はリレーです。昨日の研究会の成果と課題，解決策を明日からの授業に生かしていきましょう。

To be continued !

吉野小研究会だより
桜だより
平成２５年７月２６日
吉野小学校　研究部

先生方，一学期の授業お疲れ様でした。
研究については，夏期休業中に話し合っていただき作成するものがたくさんあります。学年または，近接学年で力を合わせて頑張りましょう。 廣松と藤木も出来る限りお手伝いをさせていただきます。声をかけてください。
及川先生のご講話にあった，方法よりも内容，それよりも目的が大切であることや単元構成の中に，子どもがわくわくするようなストーリーをどう演出できるか，また，教科とリンクさせるときは，内容のリンクとともに能力的リンクも大切である，という貴重なお話から，研究授業の【ストーリーマップ】を作成することにしました。
ストーリーマップは，授業後に完成予定です。
子どもに火をつけて，火をつけた思いが実を結ぶような展開を授業案とともに考えてください。

起承転結や
はじめ・なか・終わり

関連の視点の表記については
ここは，共に考えましょう。

関連の視点については，「強化＝持っている力を高める」
「付加＝新たな視点や能力の付け加え」
「補完＝子どもたちの思いや能力を補う」です。
本校の研究であるＥＳＤは，機能概念です。テーマは，「国際理解・環境・命」の３つに定めています。研究の学習領域は，生活科と総合的な学習です。学習領域には，それぞれねらう目標があります。機能概念であるＥＳＤは，生活科と総合を密に，ねらいを定めてめざす子どもの姿に近づいていこうとするものです。めざす子どもの姿については，先生方と共に作り上げていきます。後日提案します。

To be continued !

海外の学校との交流

吉野小学校 ⟷ トルコの学校

シンガポール ⟷ 吉野小学校

7月6日　夕方「冠水し始める。すぐに引くだろうと思っていたが、水かさが増す。」

7月6日　夕方「短時間で冠水。校舎から正門を付近を写す。正門近くの道路から車が流されてきた。」

7月7日「自衛隊の方々に児童・教職員が救助される」

7月7日　福岡県警察に救助される地域の方々や子ども

これまでの大牟田

コロナ禍　豪雨災害

これからの大牟田

Build Back Better
（創造的復興）

ESD／SDGsによる＜人材育成＞

持続可能なまち　大牟田

未来に思いをはせ、自分の考えを持ち
行動できる　子どもの姿を求めて・・

ご清聴ありがとうございました
大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」

ユネスコスクール近畿地方大会を終えて

近畿ＥＳＤコンソーシアムでは、例年、12 月に近畿圏内にあるユネスコスクールの発表会（子どもフォーラム）、および実践交流会・研修会を実施してきました。本年度は、文部科学省の「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」として、また日本ＥＳＤ学会近畿地方大会実行委員会との共催という形で、3 日間に拡大して実施しました。全て、オンラインで実施しましたが、対面での実施と遜色ない成果を得ることができました。

3 日間とも、午後のプログラムでは、ＥＳＤに関する講演会が開催されるとともに、実践交流会・ESD 研究会では 24 の発表があり、質・量ともに充実した学びの時となりました。

また、午前中のプログラムとして、3 日間に渡ってＥＳＤ子ども会議が行われ、ＳＤＧｓの達成を目指して、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成しました。本学のユネスコクラブの学生がファシリテーターになって、事前に作文を募集して、11 校から寄せられた 337 の作文を検討するとともに、数校の小学校・中学校・高等学校から参加した生徒・児童と議論を重ねて子ども宣言を作成しました。この子ども宣言は、翌月に開催されたユネスコスクール全国大会で報告されました。

3 日目の大会は、文科省 国際統括官付　国際戦略企画官の石田善顕様を指導助言者として迎えて実施しました。ユネスコスクール子どもフォーラムは、例年ですと子どもたちに本学にバスで来てもらって実施していたのですが、今年はユーチューブとズームを駆使して、それぞれの学校の取り組みが報告され、充実した交流ができました。特に、近畿 6 府県から小学校・中学校・高等学校の参加があり、まさに近畿大会の名に相応しいものとなりました。

こうしてユネスコスクール近畿地方大会を成功裏に終えることができましたのも、関係者の皆さまのご協力と裏方で尽力して下さった実行委員の方々のお陰です。この大会にご参加下さった全ての皆さまに、改めて感謝申し上げます。

国立大学法人　奈良教育大学　副学長
近畿ＥＳＤコンソーシアム運営委員長
高橋豪仁

近畿ＥＳＤコンソーシアム運営委員会

加藤久雄　高橋豪仁　中澤静男　大西浩明　太田　満
河本大地　阪本さゆり　杉山拓次　小尾二郎　吉田　寛
鎌田大雅　石川元美　谷垣　徹　狗飼菜々子

外部評価委員

柴尾智子　及川幸彦

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクール オンライン近畿地方大会報告書

発行日　2021年2月
発　行　近畿ESDコンソーシアム　国立大学法人 奈良教育大学
〒630-8528　奈良市高畑町　奈良教育大学　教育研究支援課
E-mail　k-soumu@nara-edu.ac.jp
Tel 0742-27-9367
Fax 0742-27-9147